

NATIONAL INSTITUTE OF FITNESS AND SPORTS IN KANOYA



令和5年度
大学院体育学研究科修士課程
体育学専攻履修要項

学籍番号	氏 名

鹿屋体育大学

令和5年度学年暦（大学院修士課程体育学専攻教務関連）

学期	月 日	事 項	
		1 年次	2 年次
前 期	4 月 5 日 (水)	入学式 新入生オリエンテーション	
	4 月 6 日 (木)		在学生ガイダンス
	4 月 7 日 (金)	授業開始	授業開始
	4 月 6 日 (木) }	履修登録期間	履修登録期間
	4 月 13 日 (木) }	履修登録変更期間	履修登録変更期間
	4 月 14 日 (金) }		
	4 月 20 日 (木)		
	4 月 28 日 (金)	研究題目届提出締切日	学位論文題目届提出締切日
後 期	5 月 2 日 (火)	授業（木曜日第4回分）	授業（木曜日第4回分）
	8 月 4 日 (金) }	夏期休業期間	夏期休業期間
	9 月 30 日 (土)		
	10 月 1 日 (日)	開学記念日（休業日）	開学記念日（休業日）
	10 月 2 日 (月)	授業開始	授業開始
	9 月 29 日 (金) }	履修登録期間	履修登録期間
	10 月 6 日 (金) }	履修登録変更期間	履修登録変更期間
	10 月 7 日 (土) }		
	10 月 13 日 (金)		
	10 月		学位論文中間発表会（口頭発表）
	11 月 30 日 (木)		学位論文変更届提出締切日
	12 月 26 日 (火) }	冬期休業期間	冬期休業期間
	1 月 8 日 (月) }		
	1 月 9 日 (火)	授業再開	授業再開
	1 月 15 日 (月)		学位論文題目変更届提出締切日 学位論文提出締切日
	1 月 27 日 (土)		学位論文発表会
	2 月 3 日 (土)		学位論文発表会（予備日）
	2～3 月	学位論文構想発表会	
	3 月 25 日 (月)		学位記授与式
	3 月 11 日 (月) }	春期休業期間	春期休業期間
	3 月 31 日 (日)		

前期：4月1日～9月30日 後期：10月1日～3月31日

は し が き

本学の大学院体育学研究科修士課程体育学専攻においては、「体育・スポーツの高度な指導者または研究者として、専門知識を総合して、また理論と実践とを結びつける能力の育成」に重点を置いた教育に取り組んでいます。この教育を達成するために、授業科目は共通科目、基礎科目、応用科目及び課題研究科目に区分され、基礎科目及び応用科目はスポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域で、教育課程を編成しています。

修士課程の学生諸君は、下記の要点に留意し、体育・スポーツの指導者として必要な理論的・実践的な専門知識、能力をしっかりと修得するよう、学修に取り組んでください。

○修士課程では、学修計画の助言、「課題研究」及び「学位（修士）論文」の作成などのため、指導教員、副指導教員を定めます。

○修士課程では、各自の研究計画、将来の進路などから、この履修要項に提示された授業科目を選択し、履修方法に従って学修計画を立てます。

○修士課程を修了するには、2年間修学し、30単位以上修得するなど、種々の修了要件があるので、この履修要項を熟読の上、要件を確認し、学修計画を立ててください。

○学修計画を立てたら、この履修要項に記載された規則に従い、履修登録をしなければなりません。登録しなかったり、登録間違いがあると単位が認定されないことになります。

○自分自身の学修計画や、開設授業科目について疑問点などがあれば、指導教員、教務課担当係に確認し、ミスのないように自分の学修目標にあった計画を立ててください。

令和5年4月

研究科教務委員会委員長

目 次

は し が き

I. 大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の概要

1. 目 的	1
2. ディプロマポリシー.....	1
3. カリキュラムポリシー.....	1
4. 専攻及び定員	3

II. 履修要項及び開設授業科目等

1. 教育課程	4
(1) 教育課程の概要	
(2) 修業年限及び在学年限	
(3) 授業科目の区分及び内容	
(4) 授業科目及び単位等	
(5) 教育上主要と認める授業科目	
(6) 学期及び授業期間	
(7) 授業時間	
(8) 授業の方法	
(9) 単位及び履修時間	
(10) 授業時間割	
(11) 長期履修学生制度について	
2. 履修方法及び手続き	6
(1) 指導教員及び副指導教員	
(2) 研究題目届の提出	
(3) 履修方法	
(4) 履修科目の登録	
(5) 「課題研究」の履修方法等	
(6) 学部開講科目の受講	
3. 試験及び単位の認定	8
(1) 試 験	
(2) 成績の評価及び単位の認定	
(3) 成績評価について疑義があった場合の異議申立てについて	
4. 学位論文の作成・審査	10
(1) 研究題目届の提出（1年次4月末）	
(2) 学位論文構想発表会（1年次2～3月）	
(3) 学位論文題目届等の提出（2年次4月末）	

(4) 倫理審査の受審	
(5) 学位論文中間発表会	
(6) 学位論文変更届の提出（2年次11月末）※変更がない者は提出不要	
(7) 学位論文題目変更届等の提出（2年次学位論文提出時）※変更がない者は提出不要	
(8) 学位論文の提出資格	
(9) 学位論文の提出方法	
(10) 学位論文の様式等	
(11) 学位論文の審査及び最終試験	
(12) 学位論文発表会	
(13) 学位論文題目等の公表	
5. 課程の修了	12
6. 学位の授与	12
7. 教育職員免許状の取得資格	12
8. 令和5年度開設授業科目及び授業担当教員一覧	13
Ⅲ. 授業の内容（シラバス）	14
Ⅳ. 体育学研究科修士課程担当教員名簿及び研究領域等一覧	
1. 体育学研究科修士課程担当教員名簿	106
2. 体育学研究科修士課程担当教員研究領域等一覧	107
Ⅴ. 関係規則	
1. 鹿屋体育大学学則	114
2. 鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程	133
3. 鹿屋体育大学学位規則	165
4. 鹿屋体育大学学位細則	176
5. 鹿屋体育大学学位論文等の作成要領	205
6. 鹿屋体育大学修士論文の提出条件に関する申合せ	211
7. 鹿屋体育大学修士論文審査基準	214
8. 長期にわたる教育課程の履修に関する規程	216
9. 学生の成績等への異議申立てに関する申合せ	220

I . 大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の概要

I. 大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の概要

1. 目 的

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻は、学部での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的とする。

さらに、社会人の再教育、海外の留学生の受入れによる教育研究の国際交流を図り、これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざす。

2. ディプロマポリシー

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に「修士（体育学）」の学位を授与する。

- 1 スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野において、専門的知識・技術の教育研究能力及び高度の専門性が求められる職業を担うために必要な能力を身につけている。
- 2 我が国におけるスポーツ・武道文化の発展及び国民の体力・健康の増進に寄与する能力を身につけている。

3. カリキュラムポリシー

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野において、専門的知識・技術の教育研究、高度な専門性が求められる職業を担うことのできる研究者や指導者の養成及び社会人の再教育を目的として、学術の理論並びに応用と実践が一体となった教育研究の展開が可能な教育課程を編成する。

●教育課程の編成の方針

- 1 スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な基礎的能力を養うため、「共通科目」を必修科目又は選択科目として配置する。
 - スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的なリテラシー及びマネジメント力を涵養するための科目を配置する。
 - スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的な研究実践力及びディスカッション能力を涵養するための科目を配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的な英語力を涵養するための科目を配置する。

○キャリアを形成するための科目を配置する。

2 スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うため、スポーツ総合科学、スポーツ文化・社会科学、スポーツ生命科学の3領域について、基礎科目及び応用科目を学生の志向性に応じて選択できるよう配置する。

なお、基礎科目は主に理論を展開し、応用科目では理論の応用や実践を展開する。

○スポーツ総合科学領域：スポーツ・武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。

○スポーツ文化・社会科学領域：スポーツ・武道及び体育・健康づくりの文化的、社会的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。

○スポーツ生命科学領域：スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。

3 スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における総合的な教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要能力を活かし、修士学位論文をまとめるための科目を必修科目として配置する。

○スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・研究法を活かし、修士学位論文としてまとめるための科目を配置する。

●教育・学修方法に関する方針

学位論文の作成及びその他の修学上の指導を行うために、指導教員（1名）及び副指導教員（2名以内）を配置する。指導教員等の指導を十分に受けながら、研究分野及び研究内容等を考慮の上、1～2年次にかけて共通科目（6単位）、基礎科目及び応用科目（20単位）を履修するとともに、2年次に課題研究科目（4単位）を履修することを指導する。なお、特講と特講演習はセットで履修することを推奨する。学位論文は、指導教員等の指導の元、1年次より着手し、2年次において学位論文中間発表会及び発表会で発表できるように指導する。

●学修成果の評価の方針

各授業科目の学習成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行う。また、修士論文又は特定の課題についての研究の成果は、審査及び最終試験を修士論文審査基準に基づき適切に行う。

4. 専攻及び定員

専攻及び入学定員等は、次のとおりである。

専 攻	課 程	入 学 定 員	収 容 定 員
体 育 学	修 士	1 5	3 0

Ⅱ．履修要項及び開設授業科目等

Ⅱ. 履 修 要 項

1. 教育課程

(1) 教育課程の概要

大学院体育学研究科修士課程体育学専攻は、体育・スポーツ、健康に関する科学的及び実践的な教育研究領域において、特に社会的要請の強い分野を中心とした専門性の高い職業人の養成、研究者の養成及び社会人の再教育を目的とした多様なカリキュラムを編成するとともに、授業科目を共通科目、基礎科目、応用科目及び課題研究科目に区分して設けている。

また、令和3年4月から熊本大学及び宮崎大学との連携大学院を締結し、それぞれの連携大学院の特色を活かした論文指導や授業を実施している。

(2) 修業年限及び在学年限

大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の標準修業年限は2年とする。

ただし、職業を持っている等の理由で長期履修を許可された者を除く。

また、4年を超えて在学することはできない。

なお、休学期間は、修業年限及び在学年限には算入されない。

(3) 授業科目の区分及び内容

授業科目は、大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の趣旨・目的にそった教育研究を行うため、次のとおりに区分して開設する。

科目	科目群	領域	内 容
共通	共通科目	共通	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な基礎的能力を養うための科目
専門	基礎科目 応用科目	スポーツ 総合科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目
	基礎科目 応用科目	スポーツ 文化・社会 科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの文化的、社会的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目
	基礎科目 応用科目	スポーツ 生命科学	スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目
課題 研究	課題研究 科目	課題研究	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・研究法を活かし、修士学位論文としてまとめるための科目

(4) 授業科目及び単位等

開設授業科目、単位及び授業担当教員等は、「令和5年度開設授業科目及び授業担当教員一覧」(13頁)のとおりである。また、授業内容(シラバス)については、14頁以降を参照すること。

(5) 教育上主要と認める授業科目

修士課程体育学専攻において、教育上主要と認める授業科目は、開設授業科目のうち必修科目とする。

(6) 学期及び授業期間

学年を次の2つの学期に区分し、各授業科目は学期ごとに完結するよう開講されている。

学 期	期 間
前 期	4月1日 ～ 9月30日
後 期	10月1日 ～ 3月31日

(7) 授業時間

授業時間は、下記のとおりとする。

なお、下記時間の他に、授業担当教員及び指導教員等の指示する時間帯に授業を行うこともある。

時 限	開 始 時 間 ～ 終 了 時 間
第1時限	8時30分 ～ 10時00分
第2時限	10時10分 ～ 11時40分
第3時限	12時40分 ～ 14時10分
第4時限	14時20分 ～ 15時50分
第5時限	16時00分 ～ 17時30分
※第6時限	18時30分 ～ 20時00分
※第7時限	20時10分 ～ 21時40分

※ 社会人から事前に申請があった場合に限り、大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」により夜間開講された授業を受講可能。さらに申し出があった場合には、授業担当教員との打合せにより、特定の曜日(土・日等)及び夏期・冬期休業期間に授業を行うこともある。

(8) 授業の方法

授業は、講義、演習及び講義・演習の方法で行う。

(9) 単位及び履修時間

単位の計算方法は、本学では次の基準による。

1) 本学の授業時間は1コマ90分をもって2時間とみなす。

2) 1 単位の修得には、45 時間の学修を必要とする。

・講義及び演習については、15 時間の授業（試験は含まない）と 30 時間の自主学習の合計 45 時間をもって 1 単位とする。

1 単位＝【1 コマ（2 時間）× 7.5 回＝15 時間】＋【自主学習 30 時間】

2 単位＝【1 コマ（2 時間）× 15 回＝30 時間】＋【自主学習 60 時間】

・コープ特講演習・実習については、15 時間の演習及び 30 時間の実習並びに 45 時間の自主学習（演習分 30 時間、実習分 15 時間）をもって 2 単位とする。

＊実際の授業回数は試験を含み、8 回とする。

(10) 授業時間割

授業時間割は、年度当初に掲示等により周知する。

(11) 長期履修学生制度について

本学研究科には、長期履修学生制度があり、これは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（2 年）で修了することが困難な大学院生が、標準修業年限を超えて一定の期間（3 年又は 4 年）にわたり、計画的に教育課程を履修し課程を修了することをあらかじめ申請し、審査の上、許可されるものである。

なお、長期履修学生の授業料年額は、一般学生が標準修業年限（2 年）在学した場合の授業料総額を長期履修学生として許可された修業年数（3 年又は 4 年）で分割した額となる。

ただし、許可された修業年数を超えて留年した場合は、留年分の授業料は一般学生と同額となる。

また、一般学生と同様に在学中に授業料が改定される場合がある。

申請手続期間：原則として、入学手続時又は、入学後 1 年以内とする。

ただし、やむを得ない事情により入学後 1 年を超えて長期履修が必要となった場合は、研究科教務委員会で審議のうえ、学長が認めた場合は許可されることがある。

なお、入学後（在学中）の申請は、収容定員を超えている場合には、許可されないことがある。

（長期にわたる教育課程の履修に関する規程参照（216 頁））

2. 履修方法及び手続き

(1) 指導教員及び副指導教員

本学では、学位論文の作成及びその他の修学上の指導を受けるため、研究分野及び研究内容等を考慮のうえ、1 人の学生に対し、指導教員（1 名）及び副指導教員（2 名以内）を置くこととしている。研究計画及び履修計画等については、事前に指導教員等から十分に修学上の指導を受けること。

なお、指導教員等の決定に際しては、体育学研究科修士課程体育学専攻担当教員名簿（106 頁）及び研究領域等一覧（107 頁以降）を参照すること。（指導教員を担当できるのは担当教員名簿の「研究指導担当教員」の一覧に記載の者、副指導教員を担当できるのは同名簿の「研

究指導担当教員」及び「授業担当教員」の一覧に記載の者である。)

(2) 研究題目届の提出

研究内容等について指導教員の指導を受けた後、研究題目を所定の様式により、別に定める日（学年暦で定める日）までに、教務課担当係へ提出すること。（鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程第3条参照（134頁））

(3) 履修方法

授業科目の履修にあたっては、指導教員の指導を十分に受け、「令和5年度開設授業科目及び授業担当教員一覧」（13頁）及び別途配付の時間割を参照のうえ、各年次の研究内容等に沿った履修計画を立てること。（「課題研究」については、8頁を参照すること。）

なお、課程修了に必要な最低修得単位数は30単位とし、かつ、次の要件を満たすこと。

- 1) 共通科目のうちスポーツ科学リテラシー特講、スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習、スポーツ科学英語特講Ⅰ及びスポーツ科学セミナーの4科目6単位を必修科目とし、必ず修得すること。
- 2) 課題研究科目の1科目4単位を必修科目とし、必ず修得すること。
- 3) 基礎科目から3科目6単位以上を修得すること。
- 4) 応用科目から3科目6単位以上を修得すること。
- 5) 上記以外に4科目8単位以上を共通科目、基礎科目及び応用科目の中から修得すること。

※ただし、応用科目は同一名称の基礎科目の上に積み上げて配置されている。例えば「〇〇学特講演習」は、「〇〇学特講」での学修の上に、積み上げて学ぶ内容を取り扱った授業科目となっている。

このことから、同一名称の「特講」と「特講演習」を、両方とも履修することが望ましい。なお、「特講」は前期に、「特講演習」は後期に開講されている。

上記の履修要件は以下のとおりである。

必修科目		選択必修科目		選択科目	合計
共通科目	課題研究科目	基礎科目	応用科目	区分なし	
6単位 (4科目)	4単位 (1科目)	6単位 (3科目)	6単位 (3科目)	8単位 (4科目)以上	30単位

(4) 履修科目の登録

履修しようとする授業科目は、学年の初めに履修計画等について十分に指導教員等と相談のうえ決定し、次の要領で手続きすること。

なお、この手続きを怠ると、当該授業科目を履修する意志がないものとして取扱うので、十分に注意すること。

- 1) 下記の期間内に手続きを行うこと。

① 履修登録期間

各学期初めの履修登録期間に、授業時間割に基づき当該年度内に履修しようとするすべての授業科目（後期開講科目、集中講義科目及び学外実習を含む。）について履修登録を行うこと。なお、後期の履修登録期間には、後期開講科目のみ登録できる。

② 履修登録変更期間

履修登録後に変更が生じた場合は、各学期にある履修登録変更期間に、履修登録した授業科目の変更を行うこと。ただし、後期の履修登録変更期間には、後期開講科目のみ変更できる。（前期開講科目及び通年開講科目の変更はできない。）

※ 具体的な日程については、表紙裏の「令和5年度学年暦」を参照すること。

2) 手続きは、次のとおりとする。

- ① パソコン等の端末からWebシステムである「教務システム」へログインし、履修する授業科目を選択して、登録する。
- ② パソコンによる履修登録後、「履修登録確認表」をプリントアウトし、TAの担当時間の記入及び指導教員の確認を受け、担当係へ提出する。

3) 留意事項

- ① 既に修得した科目については、再度履修登録することはできない。
- ② 同一時間帯に開講される科目は、重複して履修登録することはできない。

(5) 「課題研究」の履修方法等

「課題研究」（必修科目：4単位）は、修士論文作成のために指導教員の下で研究に係る指導を受ける授業科目である。

修士論文提出の条件として、①修士課程在学中に公開で発表した研究内容に基づき作成された論文であることが必要である。なお、公開で発表した研究とは、学術雑誌（本学学術研究起用を含む。）に掲載された学術論文、学会大会での発表（口頭、ポスター等の形式は問わない。）、その他に研究科教務委員会が公開発表と認めたものをいう。

履修登録は、原則として修了予定年度の前期に行い、成績の評価は、各指導教員が履修状況を総合して判定し、評価を行う。

(6) 学部開講科目の受講

学部の開講科目（単位未修得の科目に限る）を履修したいときには、「学部開講科目受講届」を教務課担当係へ提出すること。履修が許可された場合、その開講科目の単位修得が認められるが、課程修了に必要な単位としては認められない。

3. 試験及び単位の認定

(1) 試験

試験は、筆記又は口述若しくは実技その他の方法で、原則として毎学期末に行う。

なお、試験の期日等は事前に担当教員より周知する。

(2) 成績の評価及び単位の認定

成績の評価は、担当教員が試験結果及び履修状況を総合して判定し、次のとおりS、A、B、C及びDの5段階に分けて評価を行う。評価S～Cについて、所定の単位を認定する。

なお、成績は、各学期の終了後に通知する。

評 語	評 点	評 価 基 準	摘 要
S	90 ～ 100 点	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている	

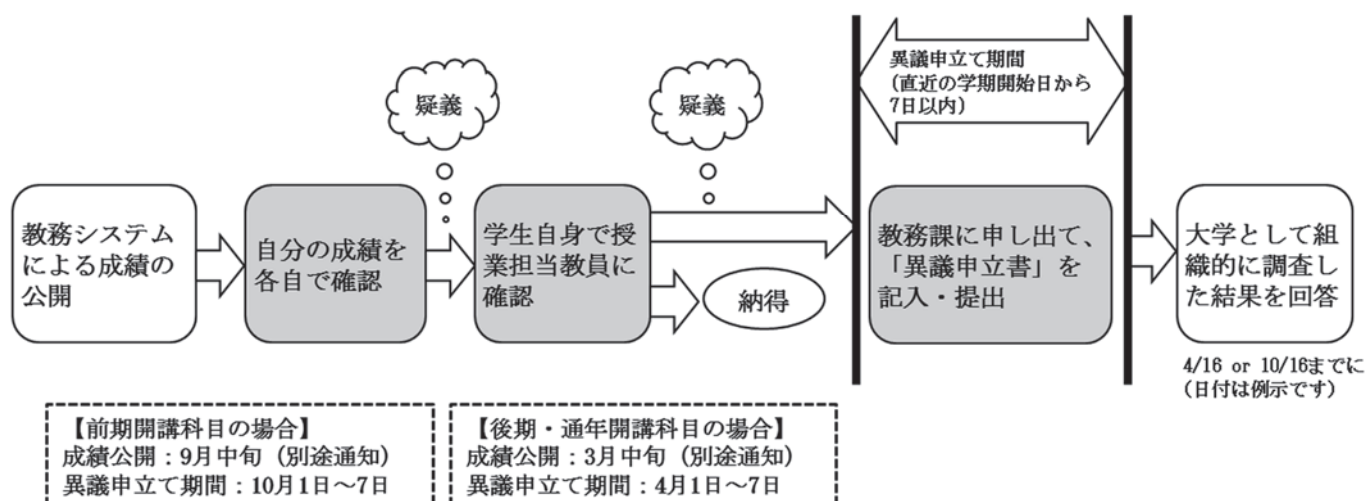
A	80 ～ 89 点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている	
B	70 ～ 79 点	到達目標を達成している	
C	60 ～ 69 点	到達目標を最低限達成している	
D	59 点以下	到達目標を達成していない	不合格として単位を与えない
K	履修放棄		履修登録がなかったものとして取扱うが、年間に履修登録した単位数には含める

(3) 成績評価について疑義があった場合の異議申立てについて

厳格な定期試験等の成績評価を担保するため、成績評価に疑義があった場合、220 頁に示すとおり、成績等への異議申立てを行うことができる。申合せの概要については、以下のとおり。

- ① 公開された成績を確認し、疑問がある場合、まずは、授業担当教員に直接確認を行うこと。（非常勤講師が担当する科目の場合は、教務課へ申し出ること。）
- ② 上記①の結果、得られた回答に疑義が残る場合は、直近の学期開始日から 7 日以内に教務課に申し出て、「異議申立書」を提出することができる。（※①の確認を行わないと「異議申立書」の提出はできない。）
- ③ 提出された「異議申立書」については、組織的に内容を調査し、異議申立て期限日から 10 日以内に本人あてに回答を行う。なお、10 日以内に回答できない場合は、回答できない理由を説明する。
- ④ 異議申立てに対する回答内容について、さらに疑義がある場合は、再異議申立てができる。再異議申立てに関する詳細は 220 頁を参照すること。

手続きのイメージ(例)



4. 学位論文の作成・審査

学位論文は、指導教員の指導を受け、以下の(1)～(8)のプロセスを経て作成し、学長へ提出した上で、審査を受けなければならない。

なお、不明な点は、担当係で事前に確認すること。

(1) 研究題目届の提出（1年次4月末）

指導教員の指導を受け、別に定める日（学年暦で定める日）までに、研究題目届を担当係へ提出すること。

(2) 学位論文構想発表会（1年次2～3月）

学位論文を提出しようとする者は、指導教員の指導を受け、別に定める日に実施する学位論文構想発表会で、作成する学位論文の研究背景、意義、目的、方法及び文献を発表しなければならない。

(3) 学位論文題目届等の提出（2年次4月末）

学位論文を提出しようとする者は、指導教員の指導を受け、別に定める日（学年暦で定める日）までに、学位論文題目届を担当係へ提出すること。なお、学位論文題目届には、学位論文の審査を受ける際に、学位論文又は特定課題の研究成果のいずれを提出するか記載すること。

また、同届と併せて、作成する学位論文の研究背景、意義、目的、方法及び文献を記載した書類を添付して提出すること

※ 特定課題の研究成果とは、特定のテーマに係る研究の成果を説明するものである。

（鹿屋体育大学学位細則第3条参照（176頁））

(4) 倫理審査の受審

所定のフローチャートに基づき、研究開始前までに倫理審査を受けなければならない。また、倫理審査を受審したものは、別に定める日までに担当係に倫理審査結果報告書を提出しなければならない。

(5) 学位論文中間発表会

修了予定者は、別に定める日に実施する学位論文中間発表会で作成中の論文を発表しなければならない。

(6) 学位論文変更届の提出（2年次11月末）※変更がない者は提出不要

学位論文題目届を提出後、学位論文の審査を修士論文から特定課題の研究成果に、または特定課題の研究成果から修士論文に変更する必要があるときは、指導教員の承認を得て、別に定める日（学年暦で定める日）までに、学位論文変更届を担当係へ提出すること。

（鹿屋体育大学学位細則第14条参照（178頁））

(7) 学位論文題目変更届等の提出（2年次学位論文提出時）※変更がない者は提出不要

学位論文題目届を提出後、学位論文の題目を変更する必要があるときは、指導教員の承認を得て、別に定める日（学年暦で定める日）までに、学位論文題目変更届を教務課担

当係へ提出すること。

(8) 学位論文の提出資格

学位論文を提出できるのは、当該学年末までに、修了に必要な授業科目 30 単位を修得見込みの者で、「鹿屋体育大学修士論文の提出条件に関する申合せ」（211 頁）の提出条件を満たし、指導教員が提出を認めた者である。

(9) 学位論文の提出方法

所定の学位論文審査願に、学位論文 1 編（正本 1 部、副本 2 部）及び学位論文概要（3 部）を添え、別に定める日（学年暦で定める日）までに、教務課担当係へ提出すること。

なお、作成した論文の題目と、先に提出した学位論文題目届に記載した題目が異なった場合、受理しないので注意すること。

また、原則として、学位論文受理決定後の学位申請取り下げは認めない。

(10) 学位論文の様式等

学位論文の作成にあたっては、「鹿屋体育大学学位論文等の作成要領」(205 頁)に従うこと。

- 1) 学位論文は、A 4 版の用紙又は所定の原稿用紙（A 4 版）を用いて作成すること。
- 2) 提出の際、学位論文概要 1 部、学位論文本文 1 部の順に重ね、左上部分をクリップ等で綴じ、これを 3 部あわせて提出すること。

(11) 学位論文の審査及び最終試験

研究科委員会に設置される学位論文審査委員会（主査 1 名、副査 2 名）により学位論文の審査を行い、審査を終了した者に対し、当該学位論文を中心として、これに関連する分野について口述又は筆記により最終試験を行う。

なお、学位論文の審査については「鹿屋体育大学修士論文審査基準」（214 頁）に沿って審査を行う。

(12) 学位論文発表会

修了予定者は、別に定める日に学位論文発表会で当該論文を発表しなければならない。

なお、最終試験は、学位論文発表会をもって当てることができる。

(13) 学位論文題目等の公表

学位が授与された学位論文については、「修士論文題目」、「指導教員氏名」及び「学生氏名」（学生から公表の承諾が得られた場合のみ）を本学ホームページで公表する。

なお、公表にあたっては以下の手続きを行う。

① 倫理審査確認

倫理審査を受けた場合には、修了予定年度の 11 月末までに倫理審査の「審査結果報告書」を教務課担当係へ提出すること。

② ホームページ公表に係る個人情報の許諾について

学位論文題目等の公表にあたっては、別に配布する「修士論文題目公表に係る確認書」を学位論文と一緒に教務課担当係へ提出すること。

5. 課程の修了

本学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻を修了するための要件は、標準修業年限以上在学し、所定の単位を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受け学位論文の審査及び最終試験に合格することである。

なお、課程修了の可否については、前述の学位論文審査委員会の報告に基づき、研究科委員会が審議決定し、学長が認定することとなっている。

また、優秀な業績をあげた者は、早期修了が可能である。早期修了を希望する者は、履修登録をする前に、必ず指導教員及び教務課担当係に相談及び申し出ること。

6. 学位の授与

本学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻を修了した者には、「修士（体育学）」の学位を授与する。

7. 教育職員免許状の取得資格

教育職員免許法に定める中学校及び高等学校教諭の一種免許状（保健体育）の所要資格を有する者が教育職員免許状取得に必要な単位数（24単位以上）を修得し、かつ本学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の課程を修了したときには、申請に基づき中学校及び高等学校教諭の専修免許状（保健体育）の資格が得られる。

ただし、以下の科目は教育職員免許状取得に必要な単位数には含めない。

- (1) 共通科目のうち「インストラクションデザイン演習」、「キャリアデザイン演習」、「コープ特講演習・実習」
- (2) 課題研究科目のうち「課題研究」

令和5年度開設授業科目及び授業担当教員一覧（修士課程）

科目	科目群	領域	授業科目	R5年度担当教員	単位数		学修コード	備考
					必修	選択		
共通	共通科目	共通	スポーツ科学リテラシー特講	各領域から2名程度	2		211A0-1100	
			スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から2名程度	2		211A0-2101	
			スポーツ科学セミナー	研究科教務委員会委員長	1		211A0-3102	
			スポーツ科学英語特講Ⅰ	エルメス	1		211A0-3103	
			スポーツ科学英語特講Ⅱ	吉重・国重	2		211B0-1304	
	基礎科目	スポーツ総合科学	インストラクションデザイン演習	研究科教務委員会・【ゼッターランド】	1		211A0-2305	
			キャリアデザイン演習	研究科教務委員会・【川島】	1		211A0-3306	
			コア特講演習・実習	研究科教務委員会・梶・金高	2～4		211C0-0307	
			ヘルスサイエンス特講	中垣内・藤井（康）・安田・イスラム・廣津・沼尾	2		221A2-1300	西暦偶数年度開講
			健康教育学特講	安田	2		221A2-1301	
			運動処方論特講	藤田	2		221A2-1302	
			トレーニング科学特講	高井・中本・【赤澤】	2		221A2-1303	
			スポーツコーチング学特講	金高・（ ）	2		221A1-1304	
			武道指導論特講	前阪・小澤	2		221A1-1305	
			スポーツパフォーマンス学特講	高橋・金高・（ ）・竹中・藤井（雅）・山口・前田（明）	2		221A1-1306	
		スポーツ文化・社会科学	トレーニング科学特講【夜間】	高井・【赤澤】	2		221A2-1307	
			コーチング学特講【夜間】	永原・下川・山下	2		221A1-1308	
			スポーツ史・運動文化論特講	山田・中村（勇）	2		222A3-1300	
			武道論特講	前阪	2		222A1-1301	
			スポーツ法・倫理特講	森（克）	2		222A3-1302	
			生涯スポーツ学特講	北村・【大勝】	2		222A3-1303	
			野外教育論特講	坂口	2		222A3-1304	
			スポーツ社会学特講	北村	2		222A3-1305	
			コミュニティ・スポーツ論特講	北村・【大勝】	2		222A3-1306	
			スポーツマネジメント論特講	関・隅野	2		222A3-1307	
		スポーツ生命科学	スポーツ史・運動文化論特講【夜間】	山田・森（克）・【真田】	2		222A3-1308	
			生涯スポーツ学特講【夜間】	北村・【宮地】・【大勝】	2		222A3-1309	
			スポーツ社会学特講【夜間】	北村	2		222A3-1310	
			スポーツマネジメント論特講【夜間】	関・隅野	2		222A3-1311	
			スポーツ心理学特講	森（司）	2		223A1-1300	
			スポーツ医科学特講	安田・廣津	2		223A2-1301	
			スポーツ生理学特講	堀内	2		223A2-1302	
			身体科学論特講	田巻・奥谷	2		223A2-1303	
			スポーツバイオメカニクス特講	和田・前田（明）・宮崎	2		223A2-1304	
			運動生化学・分子細胞生物学特講	吉田・【町田】	2		223A2-1305	
		スポーツ総合科学	スポーツ栄養学特講	吉田・石澤	2		223A2-1306	
			スポーツ心理学特講【夜間】	森（司）	2		223A1-1307	
			体力科学特講【夜間】	田巻・奥谷	2		223A2-1308	
			スポーツバイオメカニクス特講【夜間】	和田・前田（明）・宮崎	2		223A2-1309	
			スポーツ栄養学特講【夜間】	【鈴木】	2		223A2-1310	
			身体教育特講Ⅰ【KR】	連携大学院担当教員	2		223A2-1311	
			身体教育特講ⅡA【KR】	【井福】・【坂本】	2		223A2-1312	
			身体教育特講ⅡB【KR】	【塩瀬】	2		223A2-1313	
		応用科目	ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学）	中垣内・沼尾	2		224B2-2300	
			ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学）	廣津・藤井（康）・安田	2		224B2-2301	
			ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス）	イスラム	2		224B2-2302	
			健康教育学特講演習	安田	2		224B2-2303	西暦偶数年度開講
			運動処方論特講演習	藤田	2		224B2-2304	
			トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論）	中本	2		224B2-2305	
			トレーニング科学特講演習（トレーニング科学）	高井・赤澤	2		224B2-2306	
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック））	松村・永原	2		224B1-2307	
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	瓜田・小森	2		224B1-2308	
			スポーツコーチング学特講演習（水泳）	萬久・成田	2		224B1-2309	
			スポーツコーチング学特講演習（体操競技）	山下	2		224B1-2310	
			スポーツコーチング学特講演習（サッカー）	塩川	2		224B1-2311	
			スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール）	三浦	2		224B1-2312	
			スポーツコーチング学特講演習（テニス）	高橋・村上	2		224B1-2313	
			スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）	濱田（幸）・坂中	2		224B1-2314	
			スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ）	中村（夏）・榮樂	2		224B1-2315	
			武道指導論特講演習（剣道）	前阪・竹中	2		224B1-2316	
			武道指導論特講演習（柔道）	小澤	2		224B1-2317	
			スポーツパフォーマンス学特講演習	高橋・金高・竹中・藤井（雅）・山口・前田（明）	2		224B1-2318	
			トレーニング科学特講演習【夜間】	高井・赤澤	2		224B2-2319	
			コーチング学特講演習【夜間】	永原・下川・山下	2		224B1-2320	
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習	山田・中村（勇）	2		225B3-2300	
			武道論特講演習	前阪	2		225B1-2301	
			スポーツ法・倫理特講演習	森（克）	2		225B3-2302	
			生涯スポーツ学特講演習	北村・【大勝】	2		225B3-2303	
			野外教育論特講演習	坂口	2		225B3-2304	
			スポーツ社会学特講演習	北村	2		225B3-2305	
			コミュニティ・スポーツ論特講演習	北村・【大勝】	2		225B3-2306	
			スポーツマネジメント論特講演習	関・隅野	2		225B3-2307	
			スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】	山田・森（克）・【真田】	2		225B3-2308	
			生涯スポーツ学特講演習【夜間】	北村・【宮地】・【大勝】	2		225B3-2309	
		スポーツ生命科学	スポーツ社会学特講演習【夜間】	北村	2		225B3-2310	
			スポーツマネジメント論特講演習【夜間】	関・隅野	2		225B3-2311	
			スポーツ心理学特講演習	森（司）	2		226B3-2300	
			スポーツ医科学特講演習	安田・廣津	2		226B2-2301	
			スポーツ生理学特講演習	堀内	2		226B2-2302	
			身体科学論特講演習（体力科学）	宮崎	2		226B2-2303	
			身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）	田巻	2		226B2-2304	
			身体科学論特講演習（身体機能論）	奥谷	2		226B2-2305	
			スポーツバイオメカニクス特講演習	和田・前田（明）・宮崎	2		226B2-2306	
			運動生化学・分子細胞生物学特講演習	吉田・【町田】	2		226B2-2307	
	課題研究	課題研究	スポーツ栄養学特講演習	吉田・石澤	2		226B2-2308	
			スポーツ心理学特講演習【夜間】	森（司）	2		226B3-2309	
			体力科学特講演習【夜間】	田巻・奥谷	2		226B2-2310	
			スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】	和田・前田（明）・宮崎	2		226B2-2311	
			スポーツ栄養学特講演習【夜間】	【鈴木】	2		226B2-2312	
			身体教育特講演習Ⅰ【KR】	連携大学院担当教員等	2		226B2-2313	
			身体教育特講演習ⅡA【KR】	【井福】・【坂本】	2		226B2-2314	
			身体教育特講演習ⅡB【KR】	【塩瀬】	2		226B2-2315	
					4		227C4-2100	

【注意事項】

1. 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目
2. 授業科目名に【KR】と付記してある科目については、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目
3. 非常勤講師については、担当教員名を【】で表記
4. 連携大学院における連携先教員については、担当教員名を□で表記

Ⅲ. 授業の内容（シラバス）

共通科目

スポーツ科学リテラシー特講	15
スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	16
スポーツ科学セミナー	17
スポーツ科学英語特講Ⅰ	18
スポーツ科学英語特講Ⅱ	19
インストラクションデザイン演習	20
キャリアデザイン演習	21
コープ特講演習・実習	22

基礎科目

【スポーツ総合科学】

ヘルスサイエンス特講	24
健康教育学特講	
運動処方論特講	25
トレーニング科学特講	26
スポーツコーチング学特講	27
武道指導論特講	28
スポーツパフォーマンス学特講	29
トレーニング科学特講【夜間】	30
コーチング学特講【夜間】	31

【スポーツ文化・社会科学】

スポーツ史・運動文化論特講	32
武道論特講	33
スポーツ法・倫理特講	34
生涯スポーツ学特講	35
野外教育論特講	36
スポーツ社会学特講	37
コミュニティ・スポーツ論特講	38
スポーツマネジメント論特講	39
スポーツ史・運動文化論特講【夜間】	40
生涯スポーツ学特講【夜間】	41
スポーツ社会学特講【夜間】	42
スポーツマネジメント論特講【夜間】	43

【スポーツ生命科学】

スポーツ心理学特講	44
スポーツ医科学特講	45
スポーツ生理学特講	46
身体科学論特講	47
スポーツバイオメカニクス特講	48
運動生化学・分子細胞生物学特講	49
スポーツ栄養学特講	50
スポーツ心理学特講【夜間】	51
体力科学特講【夜間】	52
スポーツバイオメカニクス特講【夜間】	53
スポーツ栄養学特講【夜間】	54
身体教育特講Ⅰ【KR】	55
身体教育特講ⅡA【KR】	56
身体教育特講ⅡB【KR】	57

応用科目

【スポーツ総合科学】

ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学）	58
ヘルスサイエンス特講演習 （スポーツ・リハビリテーション医科学）	59
ヘルスサイエンス特講演習 （ヘルスサイエンス）	60

健康教育学特講演習	
運動処方論特講演習	61
トレーニング科学特講演習 （メンタルトレーニング論）	62
トレーニング科学特講演習 （トレーニング科学）	63
スポーツコーチング学特講演習 （陸上競技（トラック））	64
スポーツコーチング学特講演習 （陸上競技（フィールド））	65
スポーツコーチング学特講演習（水泳）	66
スポーツコーチング学特講演習（体操競技）	67
スポーツコーチング学特講演習（サッカー）	68
スポーツコーチング学特講演習 （バスケットボール）	69
スポーツコーチング学特講演習（テニス）	70
スポーツコーチング学特講演習 （バレーボール）	71
スポーツコーチング学特講演習 （海洋スポーツ）	72
武道指導論特講演習（剣道）	73
武道指導論特講演習（柔道）	74
スポーツパフォーマンス学特講演習	75
トレーニング科学特講演習【夜間】	76
コーチング学特講演習【夜間】	77

【スポーツ文化・社会科学】

スポーツ史・運動文化論特講演習	78
武道論特講演習	79
スポーツ法・倫理特講演習	80
生涯スポーツ学特講演習	81
野外教育論特講演習	82
スポーツ社会学特講演習	83
コミュニティ・スポーツ論特講演習	84
スポーツマネジメント論特講演習	85
スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】	86
生涯スポーツ学特講演習【夜間】	87
スポーツ社会学特講演習【夜間】	88
スポーツマネジメント論特講演習【夜間】	89

【スポーツ生命科学】

スポーツ心理学特講演習	90
スポーツ医科学特講演習	91
スポーツ生理学特講演習	92
身体科学論特講演習（体力科学）	93
身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）	94
身体科学論特講演習（身体機能論）	95
スポーツバイオメカニクス特講演習	96
運動生化学・分子細胞生物学特講演習	97
スポーツ栄養学特講演習	98
スポーツ心理学特講演習【夜間】	99
体力科学特講演習【夜間】	100
スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】	101
スポーツ栄養学特講演習【夜間】	102
身体教育特講演習Ⅰ【KR】	103
身体教育特講演習ⅡA【KR】	104
身体教育特講演習ⅡB【KR】	105

授業科目名 (ヤシのリングコード)	スポーツ科学リテラシー特講 (211A0-1100)		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・金久 博昭・中垣内 真樹・森 司朗・金高 宏文・北村 尚浩・高橋 仁大 ・山田 理恵・森 克己・竹中 健太郎・藤田 英二・堀内 雅弘・廣津 匡隆・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域について、今日までの研究動向 や最先端の研究成果、さらに主な研究の考え方（研究哲学を含む）やその有効性や限界性等を各専門分野の教員が概説する。これにより、様々なスポー ツ科学分野の研究を理解し、実践や研究で活用する基礎的な能力（リテラシー）の修得を目指す。					
成績評価の方法	研究領域毎に30点を配し（30点×3領域＝90点）、各領域とも出欠・授業への取り組み・レポート等により総合的に評価する。残りの10点 は、授業1、2、15回目の授業の出席等により総合的に評価する。なお、成績評価の概ねの割合は、授業への取り組み状況（50%）、レポート等 の提出状況（50%）とする。					
成績評価の基準	成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。授業の取り組み状況は授業での質疑応答の回数やその明晰度やレポート等は、その課題に対す る説明度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポ ート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	スポーツ科学リテラシー総論			レポート1時間	
2	〃	PROGテスト			レポート1時間	
3	藤田 英二	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（トレーニング科学）			レポート1時間	
4	高橋 仁大	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツパフォー マンス研究）			レポート1時間	
5	金高 宏文	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（コーチング、コッ ・カン等の研究）			レポート1時間	
6	竹中 健太郎	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（競技スポーツ・武 道等の各種分析に関する研究）			レポート1時間	
7	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（身体スポー ツ活動への社会的アプローチ）			レポート1時間	
8	森 克己	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ法 学の研究手法とリテラシー）			レポート1時間	
9	山田 理恵	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（身体運動文 化と人文科学的アプローチ）			レポート1時間	
10	隅野 美砂輝	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツマ ネジメントリテラシー）			レポート1時間	
11	堀内 雅弘	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（運動生理学・バイ オメカニクス領域の研究遂行に要するリテラシー）			レポート1時間	
12	廣津 匡隆	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ健康科学 論）			レポート1時間	
13	中垣内 真樹	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（高齢者の運動処方）			レポート1時間	
14	森 司朗	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツ行動科学 論）			レポート1時間	
15	金久 博昭	学位論文作成方法				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 (211A0-2101)		授業形態	演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・金久 博昭・田巻 弘之・北村 尚浩・山田 理恵・和田 智仁・中村 夏実・竹中 健太郎・堀内 雅弘・吉田 剛一郎・松村 勲・高井 洋平・坂中 美郷				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本演習は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域における学術論文作成やプレゼンテーション等に必要な手法や方法について概説・演習する。 具体的には、各領域における実験方法、調査方法並びに統計処理方法やデータベース作成法、プレゼンテーション方法等について行う。さらに、研究室における実験器具やデータの管理、研究室の運営方法（研究記録の記載方法、安全管理方法、外部資金獲得方法、知的財産の保護方法等）についても行う。 これにより、受講生は修士論文作成のための準備と方略やマネジメント力を得ることができる。					
成績評価の方法	授業時間毎に7点を配し（7点×14回＝98点）、各領域とも出欠・授業への取り組み・レポート等により総合的に評価する。残りの2点は、授業1回目の授業の出席等により総合的に評価する。なお、成績評価の概ねの割合は、授業への取り組み状況（50％）、レポート等の提出状況（50％）とする。					
成績評価の基準	成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。授業の取り組み状況は授業での質疑応答の回数やその明晰度やレポート等は、その課題に対する説明度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	大学院における研究室と研究組織			レポート1時間	
2	堀内 雅弘	研究室管理・運営1（倫理規定、安全管理）			レポート1時間	
3	〃	研究室管理・運営2（研究記録の作成、知的財産の保護）			レポート1時間	
4	田巻 弘之	研究室管理・運営3（予算、外部資金獲得）			レポート1時間	
5	高井 洋平	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法1（トレーニング科学領域における事例から）			レポート1時間	
6	竹中 健太郎	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法2（武道領域における事例から）			レポート1時間	
7	山田 理恵	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法1（資料の収集と整理・吟味）			レポート1時間	
8	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法2（社会調査）			レポート1時間	
9	未 定	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法1（バイオメカニクス）			レポート1時間	
10	吉田 剛一郎	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法2（健康科学）			レポート1時間	
11	和田 智仁	データ処理方法1（時系列データの扱い方）			レポート1時間	
12	〃	データ処理方法2（時系列処理における微分法・積分法）			レポート1時間	
13	中村 夏実 松村 勲 坂中 美郷	プレゼンテーション1（実践と他者評価）			レポート1時間	
14	〃	プレゼンテーション2（実践と自己評価）			レポート1時間	
15	金久 博昭	学術論文作成方法			レポート1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学セミナー (211A0-3102)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会			補助担当者名	
単位数	1 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本授業は、スポーツ科学における最先端の研究成果を幅広く理解するとともに、研究におけるプレゼンテーションスキルやコミュニケーションスキルを理解・修得することを狙っている。 そのために、学外講師招聘等による「特別講義」への参画、「修士論文中間発表会」と「修士課程学位論文発表会」への参画やPROGテストの受験をとおして、学生自身の専門性を深化するとともに他の専門領域との関係性や相違性を鮮鋭化することを期待している。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取組み、準備状況（18%） ■レポート等の提出状況（82%）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業への取組み （特別講義（1点×6回）、修士論文中間発表会（5点）、修士課程学位論文発表会（5点×1回）、PROGテスト解説会（2点×1回）） 講義レポート （特別講義（7点×6回）、修士論文中間発表会（20点）、修士課程学位論文発表会（20点×1回）） 課題に対する真摯な取組み及び説明力で評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、必要に応じて配布する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	特別講義については特に、時間割として定められている曜日・時限に開講されるものは必ず受講すること。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	特別講義（6回）の出席をすること 修士論文中間発表会、修士課程学位論文発表会、PROGテスト解説会 ：それぞれ参加すること			
2	〃	〃			
3	〃	〃			
4	〃	〃			
5	〃	〃			
6	〃	〃			
7	〃	〃			
8	〃	〃			

授業科目名 (ヤシバリシグネー)	スポーツ科学英語特講Ⅰ (211A0-3103)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	エルメス デイビット				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	21世紀の「スポーツ科学」は、人文・社会科学と自然科学分野の諸科学が体系的に融合しながら、学際的な複合新領域として発展する方向にあり、その人材養成のニーズは多様化の一途を辿っている。21世紀を担う体育・スポーツのリーダーには、「スポーツ活動を通じて、全世界の人々が健康で安定な生活を享受できる社会の構築に貢献する。」ことに加えて、21世紀のボーダーレスの時代とともに時事刻々とリアルタイムで変化する世界情勢に即応するため、国際的な視野と感覚を有し、「スポーツ活動と健康・文化に関する様々な世界的課題を即座に解決する能力」が求められている。現在、国際社会の様々な舞台で用いられている共通言語は「英語」であり、英語を通じて相互のコミュニケーションが図られている。したがって、21世紀を担うスポーツ科学のリーダーには、英語をコミュニケーション・ツールの1つとして利用して全世界の情報を収集するとともに、自らの研究成果を発信する能力が必要不可欠である。スポーツ科学英語は、21世紀の体育・スポーツのリーダーとなる人材育成を目的としたグローバル教育の一貫として実施する。 スポーツ科学英語特講Ⅰ（必修科目）については、様々なスポーツ科学領域に関係する科学英語論文の特徴を理解し、論文内容の読解及び必要な表現方法を学習し、関連する学術雑誌（修士論文を含む。）のabstractを英語で執筆することが可能となる英語能力の取得を到達目標とする。					
成績評価の方法	■学期末試験の成績(50%): 再試験やレポート等（試験の変わり者）は不可能 ■レポート等(宿題)の提出状況(30%): 再提出不可 ■授業への取り組み状況(20%) を総合的に評価する					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	プリントを配布します					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	このクラスの為のノート、フォルダー、英和・和英辞典を用意してください。	
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	エルメス デイビット	Introduction（講義内容・進行方法の概略）			Homework: Review; Researching/Reading English abstracts	
2	〃	科学英語の基礎知識Ⅰ（科学論文の構成、固有の単語、等）"What is the importance of your research?"; Research question/statement; Paragraph writing			Finish Paragraph writing activity; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
3	〃	科学英語の基礎知識Ⅱ（科学論文の特異的表現方法、等）"What problem does this work attempt to solve?"; Key words & Research examples			固有の単語（例文作成）; Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
4	〃	論文執筆の修辭法（主語、時制、冠詞、等）"What methods did you use?"; research verbs			動詞リスト; Verb worksheet; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
5	〃	論文執筆の修辭法（単数・複数、接続詞、関係代名詞、等）Reading for reference: 'Good news for coffee drinkers'			Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
6	〃	Abstract執筆の実際Ⅰ: "What are the implications of your answer?" / "How does your work add to the knowledge of the topic?" (abstractの意味、abstractに記述する内容、表現方法、等)			アウトライン（今までのMe）; Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
7	〃	Abstract執筆の実際Ⅱ（執筆したabstractの添削Ⅰ）Test/Outline Preparation			アウトライン（スポーツ科学）; Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
8	〃	Abstract執筆の実際Ⅲ（執筆したabstractの添削Ⅱ）、まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学英語特講Ⅱ (211B0-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	吉重 美紀・国重 徹				補助担当者名	なし
単位数	2 単位		履修年次	1 年次	受け入れ人数	10人
授業の概要 及び達成目標	社会のグローバル化に伴い、英語でプレゼンテーションをする機会は益々増えてきた。本講義・演習は英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成するに留まらず、授業内外での多読・多聴等による英語力の向上を目標とする。今まで蓄積した英語をベースに、授業中のタスクをしながら、提案や説得ができる (persuasive)、あるいは効果的に情報伝達ができる (informative) 英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術も徐々にアップできるよう学習を進める。プレゼンテーションの作成にあたり、英語でのパラグラフ・ライティングについても学ぶ。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。					
成績評価の方法	ほぼ毎時間行う英語によるプレゼンテーション (70%) 授業への取り組み状況 (20%) レポート等の提出状況 (10%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項をふまえて、総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教材は、毎回の授業で配布します。遠隔授業の場合は、WebClassに資料を提示します。 参考図書：『使える理系英語の教科書-ライティングからプレゼン、ディスカッションまで』 (森村久美子著、2012、東京大学出版会)					
履修条件・ 関連科目	国重が行っているオンラインによるマンツーマン英会話にできるだけ参加していただきたい。 吉重：プレゼンテーションの原稿は、WebClassのレポートを使って授業前日までに提出ください。		備考(教員メッセージ含む)	使える英語のプレゼンテーション技術を身につけられるよう、一緒に学びましょう。		
オフィス・アワー	国重：木曜日 昼休み及び12:40～13:00、吉重：木曜日 昼休み及び16:00～17:00					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	国重 徹	授業のオリエンテーション、 Introduction, An example of informative presentation: Japan's Education System			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
2	〃	An example of persuasive presentation: Exercise and Physical Fitness			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
3	〃	Preparation of the first presentation of your own: My Hometown			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
4	〃	Giving your own presentation (First round): My Hometown			今回の授業の復習、発表原稿、スライドの修正、発表準備、多読多聴 (120分)	
5	〃	Giving your own presentation (Second round): My Hometown Preparation of the second presentation of your own: My research			今回の授業の復習、次回のプレゼンの発表準備、多読多聴 (120分)	
6	〃	Giving your own presentation (First round): My Research			今回の授業の復習、発表原稿、スライドの修正、発表準備、多読多聴 (120分)	
7	〃	Giving your own presentation (Second round): My Research Review			今回の授業の復習、多読多聴 (60分)	
8	吉重 美紀	後半の進め方と評価、 プレゼンテーションスキルと構成等、 informative presentationの実際 (DVD)、次回テーマのブレイン・ストーミング			Informative Presentation(time order)の発表準備:原稿作成、P.P.作成等(1.5時間)	
9	〃	Informative presentation: The History of -原稿のピア・レビュー、修正、発表、 Effective Visualsとは? 次回発表課題 (My Laboratory)のブレイン・ストーミング			The History of -発表原稿のfinal draft作成、次回発表(My Laboratory)準備(1.5時間)	
10	〃	Informative presentation :My Laboratoryのピア・レビュー、修正、発表、 海外からの訪問者に研究室を紹介できるよう。			前回発表原稿のfinal draft作成、My Laboratoryをゼミ室で実際に発表(2時間)	
11	〃	Informative presentation : Classification分類に関するブレイン・ストーミング			前回発表原稿のfinal draft作成、分類の発表準備: 原稿作成、P.P.作成等 (2時間)	
12	〃	Presentaion : classification / grouping原稿のPeer Review、修正、発表。Problem and Solution(問題と解決) によるpersuasive presentationについてブレイン・ストーミング			前回課題発表原稿のfinal draft作成、Problem and Solution発表準備 (2時間)	
13	〃	Persuasive presentation :Problem and Solution(例 : Exercise and Fitness)原稿のpeer review、発表、 Comparison比較・対照法によるpersuasive presentationについて			前回課題のfinal draft作成、比較・対照法による発表準備(2時間)	
14	〃	Persuasive presentation:Comparison原稿のピアレビュー、発表 Persuasive Presentationsに必要なもの(DVD), Cause and Effect(原因と結果) によるpersuasive presentationについて			前回課題発表原稿のfinal draft作成、6つの論理展開から最終発表の準備 (3時間)	
15	〃	Last Presentation (Informative or Persuasive) 本授業のまとめ			最終発表原稿の修正と提出 (1.5時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	インストラクションデザイン演習 (211A0-2305)	授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・ヨーコ ゼッターランド			補助担当者名	
単位数	1 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本演習はスポーツ界における様々なジャンルについて取り上げ、問題点や改善点について概説・演習する。主に大学スポーツ、指導者養成問題、メディアとスポーツ等を扱う。各トピックについてのディスカッション、また「メディアとスポーツ」ではアスリートのメディア対応法として「メディア・トレーニング」を学び、プレゼンテーションの実戦を行う。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（30％） ■レポート等の提出状況（70％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業の取り組み状況は授業での質疑応答の回数やその明晰度やレポート等は、その課題に対する説明度より評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。				
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	ヨーコ ゼッターランド	ガイダンス 日本のスポーツを取り巻く環境～現状と課題～			
2	〃	スポーツ指導者養成の重要性 ～プレーヤーとアントラージュ～			
3	〃	スポーツ指導における「プレーヤーズセンタード」			
4	〃	ダイバーシティ&インクルージョン ～2020東京五輪を契機として～			
5	〃	女性とスポーツ～これまでとこれから～			
6	〃	スポーツ界に見る「ジェンダー問題」 ～「ジェンダー平等」を考える			
7	〃	スポーツと社会貢献 ～スポーツを通じて社会問題を解決する～			
8	〃	メディア・トレーニング～講義と実践～			

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザイン演習 (211A0-3306)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・川島 克介			補助担当者名	
単位数	1 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本授業では、ビジネスキャリアをスタートする前段階で、目指すべき将来像を漠然としたものから、「自分はどんな職業人を目指そうとしているのか」へと具体化する。 また、その将来像には何が必要で、在学中に準備していくことがあることを明らかにする。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	ディスカッションや教員への質問などの積極性を重視する。 また、レポートによる授業の学習の理解度も評価するものとする。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、授業で紹介する。				
履修条件・ 関連科目	集中講義2日間の参加	備考(教員メッ セージ含む)	演習を中心とした参加型の授業です。社会人向けの実際の 研修内容をベースにした内容を提供します。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川島 克介	オリエンテーション、教員自己紹介 キャリアとは、キャリア理論の紹介		参考書籍の予習（3時間）	
2	〃	自分のこれまでの軌跡を分析する			
3	〃	将来像を明らかにする			
4	〃	仕事に関する価値観を言語化する			
5	〃	社会人に必要な能力を考える		参考資料の予習（2時間）	
6	〃	職場におけるコミュニケーションとは			
7	〃	職場を取り巻く環境変化			
8	〃	2日間の振り返りとレポート「自らのキャリアデザイン」作成		自らのキャリアデザインについての情報収集作業 (3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コア特殊研究・実習（フィールドワーク型：30時間） (311C0-0303)		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通 (共通領域)
担当教員名	金高 宏文・研究科教務委員会・梶 ちか子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－		受け入れ人数 2-3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は小学校高学年での「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。 本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネート）を行えることを目標としている。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大3単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業（演習・実習）への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み、レポート、実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること		備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。		
オフィス・アワー	随時：研究棟7階 703教員室 要予約：大学院棟3階 4教員研究室（金高）メールにて事前に連絡のこと。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文 梶 ちか子	オリエンテーション コア実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 ※演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習30コマ（30時間：積み上げ） ・4単位の場合は、実習60コマ（60時間：積み上げ）			実習の準備と整理(120分)	
7	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表①			発表の準備(60分)	
15	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表②			発表の振り返り(60分)	
16	〃	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特殊研究・実習（インターンシップ型：60時間） (311CO-0303)	授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通 (共通領域)
担当教員名	金高 宏文・研究科教務委員会			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	－	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	本演習・実習は、修士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大4単位とし、その場合の実習は90時間以上とする。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。				
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。	備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容	授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)		
2	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)	事前学修の準備と復習(60分)		
3	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)	事前学修の準備と復習(60分)		
4	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)	事前学修の準備と復習(60分)		
5	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)	事前学修の準備と復習(60分)		
6	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修 ※演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習60コマ（60時間：2週間） ・4単位の場合は、実習90コマ（90時間：3週間）	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
7	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
8	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
9	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
10	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
11	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
12	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
13	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修	・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）		
14	〃	インターンシップ型の実習の取組発表	発表の準備(60-120分)		
15	〃	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括	発表の振り返り(60分)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講 (221A2-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・安田 修・藤井 康成・廣津 匡隆・モハモド モニルル イスラム・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動が健康づくりの一助になるという考え方が支持され、中高齢者においても運動の効用が期待されている。しかし、加齢とともに体力が低下することは明らかであり、効果に個人差が大きいことも知られている。本講義では、中高齢者に対して運動による健康づくり、自立維持の視点から先行研究を総括するとともに至適な運動方法についてその具体的なあり方を考究する。運動による健康づくりに関わる要因について分析できるようになる。また、運動の有用性や限界に対する理解と高齢者を含む長いスパンの中での健康管理のあり方を考えることができるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(50%) ■レポート等の提出状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配布する、もしくは指示する。 参考書:「健康幸福のためのスマートライフ」(公益財団法人日本スポーツ協会監修,(株)サンライフ企画,2019年,3080円)					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 中垣内 研究棟407研究室 沼尾 研究棟406研究室 安田 保健管理センター 藤井 保健管理センター 廣津 研究棟304研究室 イスラム 研究棟509研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	日本の健康づくり施策、介護予防施策の現状について			文献の予習・復習(1時間)	
2	〃	減量に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
3	〃	生活習慣病予防に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
4	〃	中高齢者の身体機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
5	〃	中高齢者の認知機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
6	安田 修 藤井 康成 廣津 匡隆	スポーツ・リハビリテーション医学における内科・整形外科的疾患の予防・運動療法			内科・整形外科的疾患の予防・運動療法の予習、復習(1時間)	
7	〃	女性・小児・中高年者に対する運動処方方法			女性・小児・中高年者に対する運動処方方法の予習、復習(1時間)	
8	〃	腰痛・関節疾患・骨粗鬆症例に対する運動処方方法			腰痛・関節疾患・骨粗鬆症例に対する運動処方方法の予習、復習(1時間)	
9	〃	スポーツ傷害後の部位別リハビリテーション(頭部・体幹)			リハビリテーション(頭部・体幹)の予習、復習(1時間)	
10	〃	スポーツ傷害後の部位別リハビリテーション(上・下肢)			リハビリテーション(上・下肢)の予習、復習(1時間)	
11	モハモド モニルル イスラム	介護予防のために必要な体力について (Independence in activities of daily living in old age)			左記の予習と配布資料の復習(60分)	
12	〃	虚弱な高齢者のための適切な身体運動について (Elderly friendly physical exercises)			左記の予習と配布資料の復習(60分)	
13	〃	高齢者における身体運動時の安全性について (Risk management of exercise gerontology)			左記の予習と配布資料の復習(60分)	
14	〃	途上国の重要な健康問題について (Major public health issues of developing countries)			左記の予習と配布資料の復習(60分)	
15	〃	疫学研究方法に関する基礎知識について (Basics of epidemiological research)			左記の予習と配布資料の復習(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特講 (221A2-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (5学科総合科学)
担当教員名	藤田 英二			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	肥満の解消、有酸素能力の向上、筋力・持久力・筋パワーの増強、柔軟性の改善を目的とした運動処方について、学会誌に掲載されている論文に基づき、性・年齢・目的に応じた適切な運動処方の内容について考究する。また、授業内容に応じたテーマを各自が設定し、それに関連する先行研究の内容を要旨としてまとめ発表することで、プレゼンテーションおよびディスカッションの能力の向上をめざす。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション			
2	〃	運動処方の原理・原則		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	ウェイトコントロール①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	ウェイトコントロール②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	呼吸循環機能の運動処方①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	呼吸循環機能の運動処方②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	筋機能・運動機能の運動処方①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	筋機能・運動機能の運動処方②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	柔軟性の運動処方①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	柔軟性の運動処方②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	バランス能力の運動処方①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	バランス能力の運動処方②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	骨密度と運動処方①		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	骨密度と運動処方②		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	障害予防を目的とした運動処方		配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない			

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講 (221A2-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・中本 浩揮・赤澤 暢彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義は、トレーニングが身体（身体トレーニング領域）および心理（メンタルトレーニング領域）に及ぼす影響について、領域横断的に知識を習得し、トレーニングの本質および特異性を理解することを目指す。 （身体トレーニング領域）様々なトレーニング理論や考え方を横断的に学ぶことによって、トレーニングの本質や種目の特異性を理解することを目指す。 また、種々のトレーニング理論に関する知識を整理し、それらを合理的に統合できる能力を身に付ける。 （メンタルトレーニング領域）スポーツ心理学の様々な領域の知見に基づいた総合的トレーニングをメンタルトレーニングとして位置づけ、発達、動機づけ、学習、知覚・認知および注意といった心理学独自のテーマから心理的トレーニング理論と方法について理解を深める。					
成績評価の方法	（身体トレーニング領域）授業への取り組み状況、発表の内容と討論への参加状況を総合的に評価する。 （メンタルトレーニング領域）授業への取り組み状況、発表・レポート等の状況を総合的に評価する。					
成績評価の基準	（身体トレーニング領域）上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。 （メンタルトレーニング領域）上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（身体トレーニング領域）適宜、資料を配布する。 （メンタルトレーニング領域）Developing Sport Expertise: research & coaches put theory into practice. D. Farrow, J Baker, & C. MacMahon/ Routledge. Sport Psychology: Contemporary themes. D. Lavallee et al. / Palgrave 他					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	（身体トレーニング科学領域）発表はパワーポイントで行うこととする。		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 （高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） （中本：研究棟7階・707教員研究室、nakamoto@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	赤澤 暢彦	トレーニングを科学する			授業の復習（1時間）	
2	〃	トレーニングの基礎的研究の紹介と議論			授業の予習および復習（1時間）	
3	〃	トレーニングの実践的研究の紹介と議論			授業の予習および復習（1時間）	
4	高井 洋平	スポーツ・体育分野に関連するトピックを提供し、そのトピックに肯定派または反対派に分かれて討論をする			各トピックに対する情報を収集しておく（1時間）	
5	〃	例）体育教師・スポーツ指導者は必要か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
6	〃	例）発育期のフィジカルトレーニングは必要か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
7	〃	例）データを使ったトレーニングは有効か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
8	中本 浩揮	スポーツにおける熟達化研究			授業の復習（1時間）	
9	〃	熟達と発達 —コーチはジュニア期の練習をどのようにデザインするべきか—			授業の復習（1時間）	
10	〃	熟達と知覚① —主観的知覚と客観情報の乖離—			授業の復習（1時間）	
11	〃	熟達と知覚② —スポーツ選手の視覚探索ストラテジー—			授業の復習（1時間）	
12	〃	動作模倣のメカニズム			授業の復習（1時間）	
13	〃	動作模倣と予測における運動シミュレーション仮説			授業の復習（1時間）	
14	〃	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング③			授業の復習（1時間）	
15	〃	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング④			授業の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講 (221A1-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	金高 宏文			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	I	受け入れ人数	10
授業の概要 及び達成目標	日本におけるスポーツ等のコーチの現状と課題について理解し、プレーヤーズセンタードコーチングが行える資質・能力を高める。さらに、将来にわたってコーチの資質・能力を高めることや、コーチのコーチ（コーチ・デベロッパー）としての資質・能力を高めるために、コーチング・ケーススタディの行い方を指導者等へのインタビュー、そして発表・討論等を通して身につける。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	毎回の課題の実施と討論への参画・貢献の充実度や積極性（3×15点+加点15点）、プレゼンテーション（20点）及び総括レポート（20点）の充実度が評価尺度となる。				
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講者が準備する、必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「Web-Class」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として、「コーチング学への招待（大修館書店、@2,700円）」「指導者のためのスポーツ運動学（大修館書店、@2,100円）」「Reference Book（JSPO、@4,000円）」「球技のコーチング学（大修館書店、@2,700円）」推薦する。				
履修条件・ 関連科目	現在または将来、スポーツ等の指導を行うことを前提としていること。	備考(教員メッセージ含む)	コーチング・ケーススタディーでは、経験豊かな指導者の「私のコーチング」について受講生達がインタビューし、まとめ、スポーツパフォーマンス研究に投稿できればと考えています。		
オフィス・アワー	金高：月曜日 15:00～16:00(大学院棟3階 教員研究室4)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文	オリエンテーション、日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
2	〃	日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
3	〃	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
4	〃	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
5	〃	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
6	〃	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
7	〃	コーチング・ケーススタディの行い方（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
8	〃	コーチング・ケーススタディの行い方（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
9	〃	コーチング・ケーススタディ（1）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
10	〃	コーチング・ケーススタディ（1）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
11	〃	コーチング・ケーススタディ（2）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
12	〃	コーチング・ケーススタディ（2）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
13	〃	コーチング・ケーススタディ（3）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
14	〃	コーチング・ケーススタディ（3）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
15	〃	授業の振り返りとまとめ		総括レポートの作成（120分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講 (221A1-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	前阪 茂樹・小澤 雄二				補助担当者名	小崎亮輔
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	我が国の伝統文化として世界に発信されている武道について、歴史・人物・文化・競技等の様々な側面から俯瞰し、武道教育の中心となる柔道と剣道の分野における高度な専門知識・技術・指導の教授研究能力を養うことを目標とする。					
成績評価の方法	前阪担当分50%、小澤担当分50%で評価					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。 授業への意欲、プレゼンテーション能力、レポート等により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	近代剣道名著大系全集 近代剣道書選集 (本の友社) 武道を生きる 随時資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有し（必須）、研究を志している者			備考(教員メッ セージ含む)	関連行事、関連学会への参加を望む。	
オフィス・アワー	随時 前阪：506研究室 小澤：502研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	柔道論			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
3	〃	柔道の指導方法論			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
4	〃	柔道の心理学			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
5	〃	柔道の技術論			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
6	〃	柔道の体力トレーニング学			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
7	〃	柔道のスポーツ医学			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
8	〃	柔道指導の総括 発表 (第2～7講のテーマを総括して…)			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
9	前阪 茂樹	歴史／文化について 「剣道史概観」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
10	〃	思想／哲学について 「殺人刀 活人剣」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
11	〃	技術体系について 「形と竹刀剣道」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
12	〃	修行について 「生涯剣道」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
13	〃	試合について「近代スポーツとの比較」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
14	〃	指導について 「勝負論と上達論」			本講義の振り返りと次回への準備 (約1時間)	
15	〃	剣道指導の総括 発表 (第9～14講のテーマを総括して…)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講 (221A1-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (2年～7年総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツパフォーマンス学とは、スポーツ現場の実践知を記述・説明・予測・操作できるようにし、実践研究論文として学術的に形式知化するための方法論を学ぶ学問である。自身でも実践研究の論文の作成ができるようになるため、当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深める。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および各授業者から提出された課題（5題×20点）の達成度から総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著（市村出版、2021）、『スポーツパフォーマンス研究』（http://www.sports-performance.jp/）にこれまでに掲載された研究論文とEditorial					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 金高（大学院棟3階 4教員研究室） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室） 山口（研究棟8階803教員研究室） 前田(明)（研究棟4階405教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	スポーツパフォーマンス学の考え方			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（テニス・球技）			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（コーチング）			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	山口 大貴	スポーツパフォーマンス研究の実例（自転車競技ほか）①			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（自転車競技ほか）②			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（自転車競技ほか）③			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	金高 宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例（陸上競技）			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（コツ・カンの分析）			授業の振り返りと発表資料の作成（1時間）	
9	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他）			授業の振り返りと発表資料の作成（2時間）	
10	竹中 健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例（剣道）			授業の振り返りとレポートの作成（1時間）	
11	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（武道）			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他）			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	藤井 雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球ほか）①			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球ほか）②			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他・まとめ）			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講【夜間】 (221A2-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	身体組成、呼吸循環機能、筋力・持久力・筋パワー、柔軟性の改善を目的としたトレーニングの方法と効果ついて、学会誌に掲載されている論文をトピックスとして扱い、性・年齢・目的に応じた適切なトレーニングの内容について考究する。また、授業内容に応じたテーマを各自が設定し、それに関連する先行研究の内容を要旨としてまとめ発表することで、プレゼンテーションおよびディスカッションの能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学に関連する論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 赤澤 暢彦	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）	
2	〃	トレーニングの原理・原則			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	身体組成のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）	
4	〃	身体組成のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）	
5	〃	呼吸循環機能のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）	
6	〃	呼吸循環機能のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）	
7	〃	筋力・筋持久力・筋パワーのトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）	
8	〃	筋力・筋持久力・筋パワーのトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）	
9	〃	柔軟性のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）	
10	〃	柔軟性のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）	
11	〃	複合トレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）	
12	〃	複合トレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）	
13	〃	プレゼンテーション&ディスカッション①			資料等の復習および予習（1時間）	
14	〃	プレゼンテーション&ディスカッション②			資料等の復習および予習（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション&ディスカッション③			資料等の復習および予習（1時間）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講【夜間】 (221A1-1308)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・下川 美佳・山下 龍一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	コーチングの概念について理解し、コーチングに必要な知識や理論を身に付ける。また、自身や他者の経験と授業で学んだ知識や理論を関連付け、議論することを通してコーチングの実践を振り返り、理解を深めるとともにコーチング実践能力の向上を図る。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	自らが積極的に目標を作り、自らが考えること、課題を理論的にまとめることを基準にする。その充実度や積極性が評価尺度となる。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講生が準備する。必要とする参考資料は随時紹介、配布する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として「Reference Book(日本印刷株式会社、@4,000円)」					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	指導者に相応しい幅広い知識の習得を心掛けること。		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 永原：随時 大学院棟3階 教員室1 下川：随時 研究棟 5F 505教員研究室 山下：随時 研究棟 8F 801教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 下川 美佳 山下 龍一郎	オリエンテーション				
2	〃	コーチングとは			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
3	〃	コーチの役割と求められる知識およびスキル			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
4	〃	コーチングにおける対他者力と対自己力			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
5	〃	スポーツの意義と価値			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
6	〃	コーチや選手をとりまく環境と問題			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
7	〃	スポーツ指導者の法的責任とスポーツ倫理			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
8	〃	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
9	〃	各種トレーニング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
10	〃	スポーツと栄養			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
11	〃	スポーツに関する医学的知識			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
12	〃	アンチ・ドーピング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
13	〃	コーチング環境の特徴			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
14	〃	スポーツ組織のマネジメント			授業の振り返りと総括レポートの準備(60分)	
15	〃	補足とまとめ			授業の振り返りと総括レポートの作成(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講 (222A3-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・中村 勇				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義では、スポーツ史研究の方法を修得するとともに、近接分野であるスポーツ文化人類学的研究の方法および研究成果も援用しながら、伝統スポーツをテーマにスポーツ文化の展開について考察し、現代の体育・スポーツに関する諸問題を検討する。 これにより、スポーツの歴史学的研究、運動文化論研究の理論と方法および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講演習」と併せて受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	山田：随時（705研究室） 中村：随時（503研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の目的と意義			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	スポーツ史研究の対象			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	先行研究と問題意識			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	スポーツ史研究と史料			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	〃	日本体育・スポーツ史研究①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
6	〃	日本体育・スポーツ史研究②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
7	中村 勇	日本体育・スポーツ史研究③			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
8	山田 理恵	外国体育・スポーツ史研究			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
9	〃	スポーツ文化人類学的研究法の援用①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
10	〃	スポーツ文化人類学的研究法の援用②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	〃	日本の伝統スポーツの展開			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
12	〃	日本の伝統スポーツの現代的意義と課題			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
13	中村 勇	日本の伝統武道の変遷			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
14	〃	日本の伝統武道の国際化と課題			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
15	山田 理恵	総括：体育・スポーツと現代			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講 (222A1-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)	
担当教員名	前阪 茂樹				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—		受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	武道が世界に誇る日本文化として成立した過程やその発展について概観するとともに近世に記された武道伝書の内容に触れ、武道の固有性について、その構造を考究し、専門的知識を得ることを目標とする。						
成績評価の方法	■授業への取り組み状況 (80%) ■レポート等の提出状況 (20%)						
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	事前に読んでおく参考書、文献： 今村嘉雄 編集『日本武道大系』（同朋舎） その他適宜資料等を配布する。						
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者が望ましい			備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時：506研究室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方					
2	〃	日本武道史の概説（原始～古代）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
3	〃	日本武道史の概説（中世）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
4	〃	日本武道史の概説（近世）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
5	〃	日本武道史の概説（近代～現代）			次回発表資料の作成（約3時間）		
6	〃	発表「武道の歴史を俯瞰する」					
7	〃	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
8	〃	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
9	〃	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
10	〃	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			授業内容の復習と予習		
11	〃	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
12	〃	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
13	〃	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
14	〃	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）		
15	〃	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返り（約30分）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ法・倫理特講 (222A3-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	森 克己				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数 5名程度
授業の概要 及び達成目標	スポーツ法学及びスポーツ倫理に関する研究の意義と課題を概観するとともに、スポーツ法学及びスポーツ倫理に関する国内外の重要文献・資料を購読することにより、スポーツ選手の人権問題などスポーツの分野における法学及びスポーツ倫理に関する研究の重要課題についての知識・考え方を修得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回の授業時に課されるレポートへの取り組み状況、授業への取組状況を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：森克己ほか著『標準テキスト・スポーツ法学』（エイデル研究所） 参考書：小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『スポーツ法学入門』（体育施設出版）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時（508研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた			履修要項の予習（30分以上）	
2	〃	スポーツ法学及びスポーツの倫理に関する研究の意義（総論）			テキスト・参考書の予習・復習（30分以上）	
3	〃	スポーツ法学の体系・法源①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
4	〃	スポーツ法学の体系・法源②			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
5	〃	スポーツ基本法の概要			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
6	〃	スポーツの権利性			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
7	〃	スポーツ団体と競技者の法的諸問題（総論）			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
8	〃	スポーツ選手の人権問題とスポーツ仲裁制度			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
9	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
10	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション②			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
11	〃	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
12	〃	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題②			資料等の予習・復習（30分以上）	
13	〃	ドーピング問題の現状と課題			資料等の予習・復習（30分以上）	
14	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題①			資料等の予習・復習（30分以上）	
15	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題②			資料等の予習・復習（30分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講 (222A3-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについてその概念、研究内容、現状分析、国際的動向及び研究課題を総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての講義、文献検索（英語も含む）、研究講義を行い、今後の生涯スポーツや健康づくり政策の在り方についての基本的な知識を学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	生涯スポーツの基本概念			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	生涯スポーツ政策と生涯スポーツムーブメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	諸外国の生涯スポーツ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅰ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅱ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	健康づくり政策の現状と課題（健康づくりのための運動指針2006）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	ライフステージから見た生涯スポーツのあり方について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	大勝 志津穂	青少年と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	成人とスポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	高齢者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	女性とスポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	障害者とスポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	総合型地域スポーツクラブ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	北村 尚浩	コミュニティ・スポーツクラブのマネジメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
16	大勝 志津穂	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外教育論特講 (222A3-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	坂口 俊哉			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	野外教育研究やレジャー・レクリエーション研究の分野で扱われてきた研究トピックについて紹介する。 それぞれのトピックが、野外教育の場でどのような重要性を持っているのか。 また、研究目的と研究方法はマッチしているのか、批判的な立場から、国内外のジャーナルを中心に、先行研究のレビューを行っていく、最終的には野外教育の実践例を評価する作業を行う。				
成績評価の方法	■ 最終プレゼンテーション (20%) ■ 授業への取り組み状況 (40%) ■ レポート等の提出状況 (40%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業での発表内容、配布資料の作成内容などについて総合的に評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時、事前にメールでアポイントを取ることをお勧めします。 E-mail:tsakaguc@nifs-k.ac.jp				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	坂口 俊哉	ガイダンス	野外教育関連雑誌のタイトルを確認、リストを作成して提出。(60分)		
2	〃	野外教育関連ジャーナルと論文	指定されたキーワードで検索しヒットした海外の研究論文をコピーしておくこと、アブストラクトの日本語化。(60分)		
3	〃	野外教育研究に関する文献抄読①	担当者発表①準備 (120分)		
4	〃	野外教育研究に関する文献抄読②	担当者発表②準備 (120分)		
5	〃	野外教育研究に関する文献抄読③	担当者発表③準備 (120分)		
6	〃	野外教育研究に関する文献抄読④	担当者発表④準備 (120分)		
7	〃	野外教育研究に関する文献抄読⑤	担当者発表⑤準備 (120分)		
8	〃	野外教育研究の目的と方法①	野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる (60分)		
9	〃	野外教育研究の目的と方法②	野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる (60分)		
10	〃	野外教育研究の目的と方法③	野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる (60分)		
11	〃	野外教育の企画と実践①	組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)		
12	〃	野外教育の企画と実践②	組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)		
13	〃	野外教育の企画と実践③	組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)		
14	〃	野外教育の企画と実践④	アイスブレイク・プログラムの企画をまとめる (60分)		
15	〃	野外教育の企画と実践⑤	アイスブレイク・プログラムの評価基準をまとめる (60分)		
16	〃	実践例の評価レポートとプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備 (60分)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講 (222A3-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考察する。スポーツと個人、社会の関係をこれまでの社会学的研究動向を概観し、その理論的立場から、批判的かつ実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望について考究する。社会学的研究論文の国内外の研究成果と動向を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズスポーツ社会学」 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学とは			文献抄読（1時間）	
2	〃	社会学的研究法－問題意識と理論的枠組み			文献抄読（1時間）	
3	〃	社会学的研究法－ケーススタディーと社会調査			文献抄読（1時間）	
4	〃	スポーツへの社会化			文献抄読（1時間）	
5	〃	スポーツ・プレイ・ゲーム論			文献抄読（1時間）	
6	〃	遊びの社会文化的側面			文献抄読（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較－指導者資格			文献抄読（1時間）	
8	〃	スポーツの国際比較－スポーツ政策			文献抄読（1時間）	
9	〃	スポーツの国際比較－スポーツ集団			文献抄読（1時間）	
10	〃	身体活動と加齢の社会学－社会学的問題意識と背景			文献抄読（1時間）	
11	〃	身体活動と加齢の社会学－研究動向			文献抄読（1時間）	
12	〃	スポーツレジャー行動とライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
13	〃	スポーツレジャー行動とQOL研究			文献抄読（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学研究の課題と展望			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コミュニティ・スポーツ論特講 (222A3-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	現代社会においてスポーツは市民生活に広く取り入れられている、それらの実態をさまざまな文献およびデータから理解し、またコミュニティ政策、スポーツ政策との関連からその背景を学ぶ。 授業では学んだ知識や理論をまとめ、言葉や文章で説明することを求める。そして、これまでの自らの経験や、収集した情報を、知識や理論を用いて、その意味を再定義できるようになる能力を身につけることを目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業に出席し、教材を積極的に読みこなし、発言をすること、その態度と内容で評価する（出席状況）。予習・復習にあたる課題の準備と提出の状況、できばえを評価する（授業への取り組み）。課題レポートにおいて文献等の扱い、論旨、表現方法等から出来栄を評価する（レポート等）。					
テキスト、教材 参 考 書	文献、教材は適宜指定もしくは配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	授業の概要、コミュニティ・スポーツ論とは			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	コミュニティ政策 地方自治の方向性			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	コミュニティ・スポーツの実態			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	政策立案の背景			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	コミュニティ・スポーツ政策の概要			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	コミュニティ・スポーツの現代的課題			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	パブリックコメントとは スポーツに関わる動向			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	大勝 志津穂	コミュニティの概念			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	コミュニティ意識			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	コミュニティ組織の動向			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	スポーツの公共性			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	コミュニティ・スポーツ施設			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	コミュニティ・ビジネス			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	コミュニティにおけるスポーツの意義			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	北村 尚浩 大勝 志津穂	まとめ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講 (222A3-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	隅野 美砂輝・関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義では、現代のスポーツについて、マネジメントの視点から捉えることを目的とする。さらに今後のスポーツマネジメントにおける展望を考察する。 授業を通して、スポーツに関する価値や効用と実際のビジネスや産業に関する知識を理解する。					
成績評価の方法	☐ 授業への取り組み状況（70%） ☐ レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室、 隅野：501教員室：火 水 金 の昼休み（11:50 - 12:30）事前にアポを取ること					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝 関 朋昭	オリエンテーション			予習1時間＋復習1時間	
2	隅野 美砂輝	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング1			予習1時間＋復習1時間	
3	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング2			予習1時間＋復習1時間	
4	〃	スポーツマーケティングの基礎			予習1時間＋復習1時間	
5	〃	スポーツスポンサーシップ1			予習1時間＋復習1時間	
6	〃	スポーツスポンサーシップ2			予習1時間＋復習1時間	
7	〃	スポーツマーケティング（環境分析）			予習1時間＋復習1時間	
8	〃	スポーツマーケティング（マーケティングミックス）			予習1時間＋復習1時間	
9	関 朋昭	経営学と経済学			予習1時間＋復習1時間	
10	〃	スポーツと組織理論			予習1時間＋復習1時間	
11	〃	スポーツと経営理論			予習1時間＋復習1時間	
12	〃	スポーツマネジメントと哲学（概念と定義）			予習1時間＋復習1時間	
13	〃	スポーツマネジメントと倫理（勝利至上主義）			予習1時間＋復習1時間	
14	〃	スポーツマネジメントと功利主義（価値論）			予習1時間＋復習1時間	
15	〃	まとめ			予習1時間＋復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 (222A3-1308)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (基礎文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・森 克己・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ここで対象とするスポーツは、イギリスやアメリカなどで生まれて世界に広まったいわゆる近代スポーツのみではなく、特定の民族や地域に限定された民族スポーツ（伝統スポーツ）も含むものであり、それらの文化的意味を学習することで、国際スポーツを相対化していく。 近代スポーツ、国際スポーツ以外に、地域や民族に限定して行われる多くのスポーツ文化が存在することを歴史人類学の方法により学習する。また、日本のスポーツ文化の形成に貢献した嘉納治五郎の功績についても学習する。 それらによって、スポーツの歴史人類学的研究の理論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（70%） ☒ レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：真田久『19世紀のオリンピック競技祭』（明和出版、2011年） その他参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室） 森：随時（506研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵 真田 久	スポーツ歴史人類学におけるスポーツとその研究視角			参考書・資料等の復習および予習	
2	真田 久	儀礼とスポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
3	〃	オリンピック競技祭とエケケイリア			参考書・資料等の復習および予習	
4	〃	聖火リレーの歴史人類学			参考書・資料等の復習および予習	
5	〃	ネメア祭の復興			参考書・資料等の復習および予習	
6	山田 理恵 真田 久	オリンピック競技の復興			参考書・資料等の復習および予習	
7	真田 久	嘉納治五郎と柔道、学校体育			参考書・資料等の復習および予習	
8	〃	嘉納治五郎と国民スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
9	〃	嘉納治五郎とオリンピック			参考書・資料等の復習および予習	
10	森 克己	スポーツの法とアスリート			参考書・資料等の復習および予習	
11	〃	日本におけるスポーツの法と倫理			参考書・資料等の復習および予習	
12	〃	イギリスにおけるスポーツの法と倫理			参考書・資料等の復習および予習	
13	山田 理恵	日本の伝統スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
14	〃	鹿児島県の伝統スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
15	〃	戦争とスポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講【夜間】 (222A3-1309)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂・宮地 元彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについてその概念、研究内容、現状分析、国際的動向及び研究課題を総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての講義、文献検索（英語も含む）、研究講義を行い、今後の生涯スポーツや健康づくり政策の在り方についての基本的な知識を学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	前田：研究棟6階 606研究室（予約制） 北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	生涯スポーツの基本概念			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	生涯スポーツ政策と生涯スポーツムーブメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	諸外国の生涯スポーツ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅰ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅱ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	宮地 元彦	健康づくりにおける生涯スポーツの役割（縦断的研究に関する論文から）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	健康づくり政策の現状と課題（健康づくりのための運動指針2006）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	ライフステージから見た生涯スポーツのあり方について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための行動変容技法について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための教材（ツール）の開発について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	大勝 志津穂	総合型地域スポーツクラブ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	コミュニティ・スポーツクラブのマネジメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	女性と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	高齢者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	障害者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講【夜間】 (222A3-1310)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考察する。スポーツと個人、社会の関係をこれまでの社会学的研究動向を概観し、その理論的立場から、批判的かつ実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望について考究する。社会学的研究論文の国内外の研究成果と動向を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズスポーツ社会学」 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学とは			文献抄読（1時間）	
2	〃	社会学的研究法－問題意識と理論的枠組み			文献抄読（1時間）	
3	〃	社会学的研究法－ケーススタディーと社会調査			文献抄読（1時間）	
4	〃	スポーツへの社会化			文献抄読（1時間）	
5	〃	スポーツ・プレイ・ゲーム論			文献抄読（1時間）	
6	〃	遊びの社会文化的側面			文献抄読（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較－指導者資格			文献抄読（1時間）	
8	〃	スポーツの国際比較－スポーツ政策			文献抄読（1時間）	
9	〃	スポーツの国際比較－スポーツ集団			文献抄読（1時間）	
10	〃	身体活動と加齢の社会学－社会学的問題意識と背景			文献抄読（1時間）	
11	〃	身体活動と加齢の社会学－研究動向			文献抄読（1時間）	
12	〃	スポーツレジャー行動とライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
13	〃	スポーツレジャー行動とQOL研究			文献抄読（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学研究の課題と展望			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講【夜間】 (222A3-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)	
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	－		受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本講義では、現代のスポーツについて、マネジメントの視点から捉えることを目的とする。さらに今後のスポーツマネジメントにおける展望を考察する。授業を通して、スポーツに関する価値や効用と実際のビジネスや産業に関する知識を理解する。						
成績評価の方法	□授業への取り組み状況（70%） □レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。						
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	関：604教員室、隅野：501教員室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション			予習1時間＋復習1時間		
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング1			予習1時間＋復習1時間		
3	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング2			予習1時間＋復習1時間		
4	〃	スポーツマーケティングの基礎			予習1時間＋復習1時間		
5	〃	スポーツスポンサーシップ1			予習1時間＋復習1時間		
6	〃	スポーツスポンサーシップ2			予習1時間＋復習1時間		
7	〃	スポーツマーケティング（環境分析）			予習1時間＋復習1時間		
8	〃	スポーツマーケティング（マーケティングミックス）			予習1時間＋復習1時間		
9	関 朋昭	経営学と経済学			予習1時間＋復習1時間		
10	〃	スポーツと組織理論			予習1時間＋復習1時間		
11	〃	スポーツと経営理論			予習1時間＋復習1時間		
12	〃	スポーツマネジメントと哲学（概念と定義）			予習1時間＋復習1時間		
13	〃	スポーツマネジメントと倫理（勝利至上主義）			予習1時間＋復習1時間		
14	〃	スポーツマネジメントと功利主義（価値論）			予習1時間＋復習1時間		
15	〃	まとめ			予習1時間＋復習1時間		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講 (223A1-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツの指導者として必要な心理学的知識を獲得するために、「スポーツ参加とライフスキル」、「身体活動・運動と健康」、「運動の学習と運動制御」、「競技力向上と心理的サポート」について、包括的に検討していく。授業に関しては演習形式で行なう。 本特講の達成目標は、スポーツ心理学に関して包括的な知識を獲得することにある。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学の各分野での基本的な考え方の理解程度に関して、プレゼンテーション及び質疑で評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	最新 スポーツ心理学—その軌跡と展望（日本スポーツ心理学会編）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：702研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション：心理学の研究とは				
2	〃	スポーツ参加とライフスキル（1）			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	スポーツ参加とライフスキル（2）			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	スポーツ参加とライフスキル（3）			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	スポーツ参加とライフスキル（4）			レポート（1時間）	
6	〃	身体活動・運動と健康(1)			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	身体活動・運動と健康(2)			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	身体活動・運動と健康(3)			レポート（1時間）	
9	〃	運動の学習と制御(1)			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	運動の学習と制御(2)			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動の学習と制御(3)			レポート（1時間）	
12	〃	競技力向上と心理的サポート(1)			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	競技力向上と心理的サポート(2)			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	競技力向上と心理的サポート(3)			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	競技力向上と心理的サポート（4）			レポート（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講 (223A2-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツが心臓に及ぼす影響を理解するために必要な心電図、心エコー図の基礎と応用を講義する。(対話・討論型)					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(80%) ■レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	心電図を学ぶ人のために、心電図のABC、心エコー図のABC					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	10時～11時30分 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポ-ト等課題の指示)	
1	安田 修 廣津 匡隆	心電図を学ぶための心臓の解剖と生理・心臓の電気的活動 正常心電図：心電図波形の名称と意義・正常波形・正常値 心臓電気軸と臨床的意義：軸偏位の定め方			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
2	〃	左胸心および心房負荷：心房負荷心電図の名称と分類 心室肥大心電図：左室肥大・右室肥大・両室肥大 脚ブロック：脚ブロックの分類 右脚ブロック・左脚ブロック			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
3	〃	冠不全、心筋虚血の心電図：ST、T波の異常・運動負荷心電図など 心筋梗塞の特徴的心電図所見：異常Q波・ST上昇・冠性丁波			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
4	〃	電解質異常：カリウムと心電図・カルシウムと心電図			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
5	〃	不整脈：不整脈の分類・正常洞調律および洞リズムの異常 洞不全症候群および上室性期外収縮			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
6	〃	心室性期外収縮：成因・臨床的意義・心電図所見 発作性上室頻拍・心房細動・心房粗動・心室頻拍・心室細動			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
7	〃	房室ブロック：分類と心電図所見 心室早期興奮症候群：概念・心電図所見・WPW・LGL			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
8	〃	スポーツマンによく見られる心電図所見			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
9	〃	特殊心電図：ホルター心電図法・ベクトル心電図・ヒス束電位図法・ 体表面電位図			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
10	〃	ビデオによる心電図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
11	〃	心エコー図の基礎(原理・装置)Mモード法、断層法、ドプラー法			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
12	〃	心機能評価：ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
13	〃	頸動脈などの血管エコー心機能評価：ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
14	〃	上腕動脈の内皮機能検査			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
15	〃	ビデオによる心エコー図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講 (223A2-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	身体の生理機能は、内外部からの刺激に対してすばやく応答する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必要な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別できる。一過性の身体活動やトレーニング、あるいは低圧、高・低温、水中（無重力）などの特殊環境に曝露されると、安静時の生体内の恒常性は破綻をきたす。しかしながら、これらの生体諸機能は、瞬時のうちに、あるいは長時間にわたって合目的に亢進、抑制されることによって、生体内が状況に対してバランス良く応答・適応する。本講義では、運動・トレーニング、特殊環境曝露に対する生理学的諸機能の制御とそのメカニズム、エネルギー代謝特性、および生体の恒常性維持、身体動作制御に関連した脳・神経系の機能について概説する。これによって、体育学研究科の学生として、スポーツ生理学の中でも、動物性機能、植物性機能、各々の領域における最低限の知識を習得することが期待できる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	一過性の運動、および継続的なトレーニングに対する動物性機能、植物性機能からみた生体適応について、最低限基礎レベルは理解していること、さらに専門分野においては研究レベルで理解していることを評価の基準とし、授業での発表態度・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、スポーツ生理学、トレーニング科学など関連学会で発表する、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：運動生理学の基礎と発展（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2300円） 運動生理学概論（浅野勝巳編著、杏林書院、2800円） 新運動生理学上・下巻（宮村実晴編、真興交易（株）医書出版部、各13000円） 最新運動生理学（宮村実晴編、真興交易（株）医書出版部、各9600円） パワーズ運動生理学（内藤久ら日本語監修、メディカル・サイエンスインターナショナル、10000円） その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	スポーツ生理学特講演習と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室 mhoruchi@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション（スポーツ生理学概論）			配付資料をもとに、次週の予習（1時間）	
2	〃	運動と呼吸1～換気亢進について～			運動時の換気亢進について資料をまとめる（1時間）	
3	〃	運動と呼吸2～酸素摂取動態について～			運動時の酸素摂取動態について資料をまとめる（1時間）	
4	〃	運動と呼吸3～二酸化炭素排出動態～			運動時の二酸化炭素排出動態について資料をまとめる	
5	〃	運動と循環1～運動時の中心循環・血圧応答～			運動時の中心循環応答について資料をまとめる（1時間）	
6	〃	運動と循環2～運動時の末梢循環～			運動時の末梢循環について資料をまとめる（1時間）	
7	〃	運動と循環3～運動時の脳循環～			運動時の脳循環について資料をまとめる（1時間）	
8	〃	運動トレーニングの効果（4） トレーニング強度の影響			運動トレーニングに対する運動強度の影響（誘発適応の変化）について復習する。	
9	〃	運動トレーニングの効果（5） 効果の特異性			運動トレーニング・脱トレーニングに対する効果の持続性について復習すると同時に、運動トレーニングの効果についてレポートをまとめる（3時間）	
10	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（1） 暑熱環境			暑熱環境が生理的応答に及ぼす影響について復習する（1時間）	
11	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（2） 寒冷環境			寒冷環境が生理的応答に及ぼす影響について復習する（1時間）	
12	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（3） 低酸素環境1			低酸素環境が運動時エネルギー供給動態について復習する（1時間）	
13	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（4） 低酸素環境2			低酸素環境下での高強度運動トレーニングの効果について復習する（1時間）	
14	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（4） 低酸素環境3			低酸素環境下での運動が認知機能等に及ぼす影響について復習する（1時間）	
15	〃	運動生理学分野の最新トピック情報と課題			授業全体を通じて学んだことを参考に、自ら実験をデザインしてみる（2時間）	

授業科目名 (ヤシのナンバリング)	身体科学論特講 (223A2-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、からだの動きに関する生理や運動刺激による生体応答メカニズムに関する基礎的知識を備えるため、運動器（骨格筋、骨、神経）や関節を中心に、運動（機械的）刺激や不動による生体反応の原理を学ぶ。なぜ、どのように、からだが強くなり、または萎縮し、痛くなるのかなど、科学的根拠を得る。本授業では、典型的な病理写真や表、グラフをみながら、読み取れる情報や傾向について学生間で意見するアクティブなプロセスを通して、組織細胞の微細構造の変化がその機能変化に重大な影響を及ぼすことを理解することができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（70%） ■プレゼンテーション/レポート等の発表状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答状況、課題等の提出により点数を加算して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）神経科学，加藤宏司監訳，西村書店，ISBN:978-4890133567，2）関節可動域制限—病態の理解と治療の考え方，沖田実編集，三輪書店，2013，ISBN:978-4895904353，3）Skeletal muscle damage and repair，Tiidus，PM編集，Human Kinetics，(2008)，ISBN:978-0736058674，4）「筋の科学事典—構造・機能・運動」（福永哲夫 編集，朝倉書店），5）「計測法入門—計り方，計る意味」（内山靖、小林武、間瀬教史 編集，協同医書出版社），6）「これから論文を書く若者のために，大改訂増補版」（酒井聡樹 著，共立出版），7）「入門 運動神経生理学 市村出版」					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、PubMed、EndNoteの使い方、骨格筋の構成要素と筋線維の超微細構造			参考書1の第13章を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	骨格筋の萎縮と運動刺激の効果—筋収縮と生理活性物質のはたらき—			参考書2の第2章を一読し、筋収縮やマイオカインに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	筋損傷と再生、筋肥大、筋痛との関連性—損傷と炎症は悪か？—			参考書3を一読し、筋損傷と再生、痛みに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	筋膜（結合組織）の種類と不動及び加齢変化の特徴、筋組織のスティフネス—筋組織の硬さ/柔らかさを決めるもの—			参考書2の第2章第3節を一読し、筋膜に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	腱及び靱帯の粘弾性と運動・不動及び加齢変化の特徴—伸びやすい/伸びにくいを決めるもの—			参考書2の第2章第4節を一読し、腱・靱帯の特性に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	骨及び軟骨の微細構造と力学的刺激の重要性、関節の痛み—使いすぎても壊れるが、使わなくても壊れる—			参考書2の第2章第5節を一読し、関節構成体に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞の働きと不動、加齢の影響—骨をつくる/壊すを調節している司令塔は一見働いていない—			骨関連細胞に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	〃	不動、加齢による関節可動域制限と運動・物理療法の効果—ストレッチングや電気磁気刺激処方の効き目—			参考書2の第3章を一読し、筋骨格系に対する運動・物理療法の効果に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	與谷 謙吾	随意運動に関わる基本的神経機構：中枢・末梢神経系の可塑性			参考書7の第1章を一読し、神経系に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	運動学習に関する神経生理学			参考書7の第2章を一読し、運動学習に関する高次中枢系の文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	随意運動：熟練スポーツ動作の神経-筋活動①			参考書7の第17章を一読し、筋活動を主とする文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	随意運動：熟練スポーツ動作の神経-筋活動②			参考書7の第18章を一読し、神経系を主とする文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	敏捷性に関わる神経制御機構：反応時間の短縮と遅延について			参考書7の第20章を一読し、反応時間に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	高次中枢（大脳運動野）の促進・抑制機構と操作法			参考書7の6-7部を一読し、磁気刺激に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	運動イメージ中の運動野の興奮性			参考書7の6-10部を一読し、イメージに関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講 (223A2-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	和田 智仁・前田 明・宮崎 輝光				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では、動作分析の基礎について学ぶ、特に、実際のデータを基に議論を行うことや、座学を通じ、主にkinematicsやkineticsについて理解するとともに、人の身体運動を分析する際の着眼点を学ぶ。なお、履修生のレベルと理解に応じて、適宜進度を変更する。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0％） ☐ 授業への取り組み状況（10％） ☒ レポート等の提出状況（90％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久、朝倉書店（2002） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀、吉岡伸輔、ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講演習とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	和田：随時 前田：随時 宮崎：随時					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	バイオメカニクス分野の研究 イントロダクション			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	和田 智仁 宮崎 輝光	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法①			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること（1時間）。	
3	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法②			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること（1時間）。	
4	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法③			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること（1時間）。	
5	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法④			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること（1時間）。	
6	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法⑤			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること（1時間）。	
7	〃	スポーツ動作測定のための実験方法①			三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること（1時間）。	
8	〃	スポーツ動作測定のための実験方法②			三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること（1時間）。	
9	〃	スポーツ動作測定のための実験方法③			三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること（1時間）。	
10	〃	スポーツ動作測定のための実験方法④			三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること（1時間）。	
11	〃	スポーツ動作に関する研究紹介①			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する（1時間）。	
12	〃	スポーツ動作に関する研究紹介②			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する（1時間）。	
13	〃	スポーツ動作に関する研究紹介③			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する（1時間）。	
14	〃	スポーツ動作に関する研究紹介④			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する（1時間）。	
15	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	バイオメカニクスによるスポーツパフォーマンス研究への貢献			授業内容についての予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学・分子細胞生物学特講 (223A2-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・町田 修一				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) 分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。運動にともなうからだの変化について、栄養素の異化によるエネルギー代謝をテーマに、生化学、分子細胞生物学的な面から関連づけて講じる。最終的に、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。 (町田担当分) 各種トレーニングが生体、特に骨格筋に及ぼす影響について、マクロだけでなく、ミクロレベルでの現象について学習する。そして、スポーツの実践や指導に分子・細胞レベルの知識を応用することの意義を理解する。授業の達成目標は、運動（トレーニング）が骨格筋に及ぼす影響について、組織レベルでの表現型（適応現象）を分子および細胞レベルの視点で把握し、そのメカニズムを説明できるようになること、そして、分子・細胞生物学の知識を生かして、新規なトレーニング方法等を考案することができることを目標とする。					
成績評価の方法	(吉田担当分) □学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。 (町田担当分) ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	(吉田担当分) 理解度を基準とする。 (町田担当分) 課題や復習に意欲的に取り組み、討論で積極的な発言が認められ、スポーツの実践や指導に分子・細胞レベルの知識を応用することの意義が理解できていると判断できるレポートが提出された場合は合格とする。					
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) 入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーバー生化学』（丸善） (町田担当分) 毎回、講義内容（パワーポイント）に関する資料を配付する。 【参考書】 改訂版 運動生理学の基礎と発展、春日規克/竹倉宏明編集、フリースペース スポーツ現場に生かす運動生理・生化学、樋口満編集、市村出版 運動とタンパク質・遺伝子、柳原大/内藤久士編集、ナッブ パワー運動生理学、内藤久士ら監訳、メディカルサイエンスインターナショナル					
履修条件・ 関連科目	(吉田担当分) 特になし。 (町田担当分) 特になし。			備考(教員メッセージ含む)	(吉田担当分) 必要に応じて論文抄読会を行う。 (町田担当分) 分子・細胞生物学の知識をスポーツ科学に応用してほしいです。	
オフィス・アワー	(吉田担当分) 随時307研究室・メール。 (町田担当分) 集中講義期間中のお昼休みもしくは放課後					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質代謝1（解糖系・クエン酸回路）			解糖系・クエン酸回路を復習する。（1時間）	
2	〃	糖質代謝2（電子伝達系・糖新生経路）			電子伝達系・糖新生経路を復習する。（1時間）	
3	〃	脂質代謝1（カルニチンとβ酸化）			カルニチンとβ酸化を復習する。（1時間）	
4	〃	脂質代謝2（機能する脂質）			機能する脂質を復習する。（1時間）	
5	〃	タンパク質代謝1（アミノ酸の利用）			アミノ酸の利用を復習する。（1時間）	
6	〃	タンパク質代謝2（尿素回路）			尿素回路を復習する。（1時間）	
7	〃	遺伝情報1（遺伝子のはたらきとタンパク質合成）			遺伝子のはたらきとタンパク質合成を復習する。（1時間）	
8	〃	遺伝情報2（トレーニングと遺伝子発現）			トレーニングと遺伝子発現を復習する。（1時間）	
9	町田 修一	骨格筋を分子・細胞レベルで紐解く、研究最前線について紹介する。			これまで学んだ骨格筋について復習する（1時間）	
10	〃	筋線維タイプ1（スポーツ科学からの理解）			筋線維タイプの復習（1時間）	
11	〃	筋線維タイプ2（分子レベルで理解する）			筋線維タイプの復習（1時間）	
12	〃	筋肥大のメカニズム1（筋肥大と遺伝子発現）			筋肥大に関する資料内容を予習する（1時間）	
13	〃	筋肥大のメカニズム2（筋肥大と筋サテライト細胞）			筋肥大に関する講義内容を復習する（1時間）	
14	〃	運動と遺伝子、タンパク質（遺伝子の構造、発現調節、転写）			運動と遺伝子発現について復習する（1時間）	
15	〃	運動と分子・細胞生物学（分子・細胞生物学をトレーニングに応用）			新規なトレーニング方法等を考案する（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講 (223A2-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・石澤 里枝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) 栄養学の基礎的な学習を行い、栄養素摂取、食生活など、体育・スポーツの面から関連づけて講じる。 (石澤担当分) スポーツ栄養学に関する基礎的知見および最新の文献に基づき講義や議論を行う。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、レポートの内容を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) テキスト（授業時に配布する）。 (石澤担当分) 資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし。			備考(教員メッ セージ含む)	(吉田担当分) 必要に応じて論文抄読会を行う。 (石澤担当分) 必要に応じて発表を行う。	
オフィス・アワー	(吉田担当分) 随時307研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質の摂取			糖質の摂取を復習する。（1時間）	
2	〃	脂質の摂取			脂質の摂取を復習する。（1時間）	
3	〃	タンパク質・アミノ酸の摂取			タンパク質・アミノ酸の摂取を復習する。（1時間）	
4	石澤 里枝	アスリートのエネルギー必要量と消費量			アスリートのエネルギー必要量と消費量を復習する。（1時間）	
5	〃	糖質と身体活動との関係			糖質と身体活動との関係を復習する。（1時間）	
6	〃	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：糖質			アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：糖質を復習する。（1時間）	
7	〃	タンパク質と身体活動との関係			タンパク質と身体活動との関係を復習する。（1時間）	
8	〃	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：タンパク質			アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：タンパク質を復習する。（1時間）	
9	〃	脂質と身体活動との関係			脂質と身体活動との関係を復習する。（1時間）	
10	〃	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：脂質			アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：脂質を復習する。（1時間）	
11	〃	ビタミンと運動パフォーマンス			ビタミンと運動パフォーマンスを復習する。（1時間）	
12	〃	ミネラルと運動パフォーマンス			ミネラルと運動パフォーマンスを復習する。（1時間）	
13	〃	腸内細菌と運動パフォーマンス			腸内細菌と運動パフォーマンスを復習する。（1時間）	
14	〃	栄養と運動時の血圧			栄養と運動時の血圧を復習する。（1時間）	
15	〃	まとめ			まとめを復習する。（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講【夜間】 (223A1-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ジュニア期からの効果的な運動指導の在り方について、心理学的な立場から指導の基礎となる知識と理論を提供することを目的とした科目である。具体的には、「運動学習・指導」と「モチベーション」の2つの主なテーマに関して講義を進めていく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各テーマでの基本的な知識や考え方の理解ならびに一歩踏み込んだ問題意識の深さを基準にして評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	「運動指導の心理学－運動学習とモチベーションからの接近」杉原隆 大修館書店					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション				
2	〃	運動に対する動機づけ1			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	運動に対する動機づけ2			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	内発的動機づけ1			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	内発的動機づけ2			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	内発的動機づけに関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
7	〃	メンタルトレーニング1			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	メンタルトレーニング2			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	メンタルトレーニングに関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
10	〃	運動行動の構造からみた運動学習1			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動行動の構造からみた運動学習2			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	運動行動の構造からみた運動学習3			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	運動行動からみた運動学習についてのプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
14	〃	運動学習理論の背景			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	運動学習理論に関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特講【夜間】 (223A2-1308)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体の応答機序を基盤とした健康増進や体力の維持向上に寄与するため、体力の構成要素、特に行動体力の要素に関する加齢変化の特徴や運動効果の現れ方について学び、ディスカッションする。本授業により、体力の構成要素を類別し、筋力、持久力、敏捷性、調整力などの各要素 について、機能と構造の観点から運動刺激の効果を述べることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み状況、課題等を複数教員によって判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）健康・体力のための運動生理学、石河利寛著，杏林書院、ISBN:978-4764410435、 （資料）適宜配布する					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション：体力の定義と構成要素			今後の予定を確認し、次回の講義(キーワード)について予習を行う（2時間）	
2	〃	全身持久力①：幼少期から成人までの経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
3	〃	全身持久力②：呼吸・循環器系の発達			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
4	〃	全身持久力③：トレーニング強度の影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
5	〃	全身持久力④：トレーニング効果と特異性			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
6	〃	筋力：骨格筋の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
7	〃	支持組織：骨の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
8	〃	筋力と骨①：除神経による骨への影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
9	〃	筋力と骨②：除神経による筋への影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
10	〃	筋力と骨③：電気刺激による影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
11	與谷 謙吾	神経系①：敏捷性・調節力の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
12	〃	神経系②：反応時間に関する幼少期から成人までの経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
13	〃	反応時間①：反応動作に関する神経系、筋系、動作系の時間要素			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
14	〃	反応時間②：神経系のトレーニング頻度			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。（2時間）	
15	〃	反応時間③：神経系のトレーニング能力			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、これまでの講義内容をまとめる。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 (223A2-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	和田 智仁・前田 明・宮崎 輝光			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では、動作分析の基礎について学ぶ、特に、実際のデータを基に議論を行うことや、座学を通じ、主にkinematicsやkineticsについて理解するとともに、人の身体運動を分析する際の着眼点を学ぶ。なお、履修生のレベルと理解に応じて、適宜進度を変更する。				
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績 (0%) ☒ 授業への取り組み状況 (10%) ☒ レポート等の提出状況 (90%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久、朝倉書店 (2002) 参考書 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀、吉岡伸輔、ラウンドフラット (2011)				
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講演習とセットで受講することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント (スポ情HP参照) を作成しておくこと。		
オフィス・アワー	和田：事前連絡 前田：事前連絡 宮崎：事前連絡				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	バイオメカニクス分野の研究 イントロダクション		授業内容についての予習・復習 (1時間)	
2	和田 智仁 宮崎 輝光	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法①		Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
3	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法②		Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
4	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法③		Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
5	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法③		Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
6	〃	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法⑤		Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
7	〃	スポーツ動作測定のための実験方法①		三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
8	〃	スポーツ動作測定のための実験方法②		三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
9	〃	スポーツ動作測定のための実験方法③		三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
10	〃	スポーツ動作測定のための実験方法④		三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
11	〃	スポーツ動作測定のための実験方法⑤		三次元動作、地面反力、表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
12	〃	スポーツ動作に関する研究紹介①		対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する (1時間)。	
13	〃	スポーツ動作に関する研究紹介②		対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する (1時間)。	
14	〃	スポーツ動作に関する研究紹介③		対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ、理解する (1時間)。	
15	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	バイオメカニクスによるスポーツパフォーマンス研究への貢献		授業内容についての予習・復習 (1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講【夜間】 (223A2-1310)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	栄養学の基礎的な復習を行い、身体活動量と栄養素摂取、食事、食生活の関係について学ぶ。また、食品に関するトピックを取り上げ、学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ゼミ方式で授業を行う。授業中の発言等によって取り組みを判断指標化する。また、課題レポートの考察を中心に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業ごとに資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	栄養学とは			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	現代の食生活に対する問題と課題について			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	糖質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	糖質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	タンパク質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	タンパク質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	脂質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	脂質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	ビタミンの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	ビタミンの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	ミネラルの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	ミネラルの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	食事・食生活の考え方			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	保健指導について			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	機能性食品・食材について			レポート作成（1時間）	
16	〃	まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講Ⅰ【KR】 (223A2-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・坂本 将基・金高 宏文・中村 夏実・藤田 英二・廣津 匡隆・中本 浩揮・高井 洋平・梶 ちか子・塩瀬 圭佑・石走 知子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	5名
授業の概要 及び達成目標	身体の特長（身体性）について理解を深めるとともに、身体を教育するための様々な手段について、心・技・体の観点から学び、生涯にわたって身体を育てていくための基礎的な能力を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	連携教育プログラム履修生は、同時開講予定の「身体教育特講演習Ⅰ【KR】」を履修すること。			備考(教員メッセージ含む)	本講義は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、講義の順序が変更になる場合もある。	
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	身体の特長（身体性）について			身体の特長（身体性）についての復習（30分以上）	
2	梶 ちか子	身体教育の手段について			身体教育の手段についての復習（30分以上）	
3	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習（30分以上）	
4	中本 浩揮	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
5	坂本 将基	身体意識の変容と運動技能について			身体意識の変容と運動技能についての復習（30分以上）	
6	金高 宏文	運動指導とコツ・カンについて			運動指導とコツ・カンについての復習（30分以上）	
7	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
8	高井 洋平	アスリートの体力トレーニングについて			体力トレーニングについての復習（30分以上）	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			運動処方についての復習（30分以上）	
10	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について			健康と生活習慣についての復習（30分以上）	
11	未 定	栄養について			栄養についての復習（30分以上）	
12	中村 夏実	自然環境の活用について（海洋スポーツ）（仮）			自然環境の活用について（海洋スポーツ）（仮）の復習（30分以上）	
13	石走 知子	休養について			休養についての復習（30分以上）	
14	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての復習（30分以上）	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートの作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講ⅡA【KR】 (223A2-1312)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。 本授業では、随意運動制御、運動時の循環調節などについて概説し、幅広く理解できるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基	オリエンテーション				
2	坂本 将基	随意運動制御の概説（1）脊髄			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
3	〃	随意運動制御の概説（2）小脳			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
4	〃	随意運動制御の概説（3）大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
5	〃	随意運動制御の概説（4）骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
6	〃	随意運動制御の概説（5）大脳皮質1			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
7	〃	随意運動制御の概説（6）大脳皮質2			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
8	〃	随意運動制御の概説（7）運動学習			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の概説（1）心臓			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
10	〃	運動時の循環調節の概説（2）血圧			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
11	〃	運動時の循環調節の概説（3）微小循環			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
12	〃	運動時の循環調節の概説（4）圧受容器反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
13	〃	運動時の循環調節の概説（5）セントラルコマンド			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
14	〃	運動時の循環調節の概説（6）運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
15	井福 裕俊 坂本 将基	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講ⅡB【KR】 (223A2-1313)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本特講では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性を理解することを目的とする。特に、運動や食事が代謝機能や身体組成へ及ぼす影響や、健康づくりや競技パフォーマンス向上のための運動方法について学習する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性について説明できる。				
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配布・紹介する。				
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	適宜指定する。				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション		講義内容の復習、予習（1時間）	
2	〃	エネルギー代謝		講義内容の復習、予習（1時間）	
3	〃	エネルギー出納Ⅰ（エネルギー摂取）		講義内容の復習、予習（1時間）	
4	〃	エネルギー出納Ⅱ（エネルギー消費）		講義内容の復習、予習（1時間）	
5	〃	エネルギー代謝評価Ⅰ（運動時のエネルギー）		講義内容の復習、予習（1時間）	
6	〃	エネルギー代謝評価Ⅱ（日常生活のエネルギー）		講義内容の復習、予習（1時間）	
7	〃	身体組成		講義内容の復習、予習（1時間）	
8	〃	身体組成評価Ⅰ（身体密度法）		講義内容の復習、予習（1時間）	
9	〃	身体組成評価Ⅱ（キャリパー法・BIA法）		講義内容の復習、予習（1時間）	
10	〃	健康のための運動Ⅰ（体力評価と運動処方）		講義内容の復習、予習（1時間）	
11	〃	健康のための運動Ⅱ（ニコニコベース）		講義内容の復習、予習（1時間）	
12	〃	健康のための食事		講義内容の復習、予習（1時間）	
13	〃	競技パフォーマンスとトレーニング		講義内容の復習、予習（1時間）	
14	〃	競技パフォーマンスと食事		講義内容の復習、予習（1時間）	
15	〃	まとめ		レポート課題（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習 (健康運動学) (224B2-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	国内外で実践されてきた身体運動による健康づくりの研究成果を学ぶとともに内外の学術誌から抄読を行ない、最新の研究成果の把握と問題点を学習する。関連する研究の手法を習得する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績 (%) ■授業への取り組み状況 (50%) ■レポート等の提出状況 (50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。				
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配付する、もしくは指示する。 参考書: 「健康幸福のためのスマートライフ」 (公益財団法人日本スポーツ協会監修, (株)サンライフ企画, 2019年, 3080円)				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	講義は、質問や討論を行いながら進める。		
オフィス・アワー	随時 中垣内: 研究棟407研究室 沼尾: 研究棟406研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション		文献の予習 (1時間)	
2	〃	MedlineまたはPubMedを使った文献検索		文献の予習・復習 (1時間)	
3	〃	健康づくりに関する文献講読-1		文献の予習・復習 (1時間)	
4	〃	健康づくりに関する文献講読-2		文献の予習・復習 (1時間)	
5	〃	健康づくりに関する文献講読-3		文献の予習・復習 (1時間)	
6	〃	健康づくりに関する文献講読-4		文献の予習・復習 (1時間)	
7	〃	健康づくりに関する文献講読-5		文献の予習・復習 (1時間)	
8	〃	運動と健康づくりに関する文献講読-1		文献の予習・復習 (1時間)	
9	〃	運動と健康づくりに関する文献講読-2		文献の予習・復習 (1時間)	
10	〃	運動と健康づくりに関する文献講読-3		文献の予習・復習 (1時間)	
11	〃	運動と健康づくりに関する文献講読-4		文献の予習・復習 (1時間)	
12	〃	運動と健康づくりに関する文献講読-5		文献の予習・復習 (1時間)	
13	〃	介入研究の方法1 計画立案と進め方		文献の予習・復習 (1時間)	
14	〃	介入研究の方法2 分析と考察		文献の予習・復習 (1時間)	
15	〃	まとめ		レポート (1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医学） (224B2-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (24～7総合科学)
担当教員名	廣津 匡隆・安田 修・藤井 康成				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ・リハビリテーション医学における、整形外科的な予防と運動療法などについて述べる。また、テーピング、スポーツマッサージ、PNF（神経筋促通手技）トレーニングなどに関して講義と演習を行い、スポーツ現場において実際に役立つ実学に供する（双方向型）。 また、整形外科的疾患における予防・リハビリテーション・運動（理学）療法と関連して、テーピング、スポーツマッサージ、PNFトレーニングの方法・手技などについて学習する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	提出されたレポートの内容を評価する。また、出席・授業への取組み状況を、複数教員により適時に判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書・・・「スポーツ外傷・障害からみたテーピングの実技と理論」山本郁榮他編（文光堂）、「イラストでみるスポーツマッサージ」ジョアン・ジョンソン著（大修館書店）、「競技力向上と障害予防に役立つスポーツPNFトレーニング」覚張秀樹他著（大修館書店）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	廣津：水曜日10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約） 安田：火曜日11時50分～12時40分保健管理センター（要予約） 藤井：水曜日10時～11時30分保健管理センター（要予約）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆 安田 修 藤井 康成	スポーツ外傷・障害の予防			スポーツ外傷・障害予防についての資料を読む。 (1時間)	
2	〃	スポーツ傷害における内科的対処法			疾患への内科的対処法についての資料を読む。 (1時間)	
3	〃	スポーツ傷害における整形外科的対処法			傷害への整形外科的対処法についての資料を読む。 (1時間)	
4	〃	テーピング（理論と方法）			テーピングについての資料を読む。（1時間）	
5	〃	筋力トレーニング（理論と方法）			筋力トレーニングについての資料を読む。（1時間）	
6	〃	ストレッチ（理論と方法）			ストレッチについての資料を読む。（1時間）	
7	〃	PNF			PNFについて資料を読む。（1時間）	
8	〃	疾患別対処法：腰痛			腰痛についての資料を読む。（1時間）	
9	〃	疾患別対処法：膝前十字靱帯損傷			膝前十字靱帯損傷についての資料を読む。（1時間）	
10	〃	疾患別対処法：下腿、足のスポーツ傷害			下腿、足のスポーツ傷害についての資料を読む。 (1時間)	
11	〃	疾患別対処法：足関節疾患			足関節疾患について資料を読む。（1時間）	
12	〃	着地動作のバイオメカニクス			着地動作についての資料を読む。（1時間）	
13	〃	疾患別対処法：投球障害肩			投球障害肩についての資料を読む。（1時間）	
14	〃	姿勢制御能力（バランス能力）の評価法			姿勢制御についての資料を読む。（1時間）	
15	〃	本授業のまとめとレポート			ヘルスサイエンス（スポーツ・リハビリテーション医学）に関するレポートを作成し提出する。 (2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス） (224B2-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	モハモド モニルル イスラム			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ある国の総人口に対する高齢人口の割合が7%を超えると加齢化社会、14%を超えると高齢社会という。日本は、すでに高齢社会である。日常生活時の自立度の改善あるいはそれを維持するため、高齢者に対する運動療法は欠かせない。体育学専攻者は、運動に関する知識が高く、高齢者における健康づくりや疾病予防に対してより重要な役割を担っていると考えられる。そのため、加齢とともに発症する身体的・精神的な健康問題に関する知識を把握することが必要であり、その内容が本授業のひとつの目標である。 老年学に関する研究を行うために、関連がある先行論文を抄読する必須であることから、PubMedなどによる論文検索後、国内外学術誌を演習形式で学ぶことが本授業のもう一つの目標である。 また、学術誌を抄読するには統計学的知識が必須であることから、統計学を演習・理解することが本授業の別の目標である。加えて、国際的な視点に立つて、諸外国での公衆衛生など、特に老年学の実践活動や健康への取り組みも知り、ヘルスプロモーションの考え方を習得する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。				
成績評価の基準	学習内容に関するディスカッションを重視する。				
テキスト、教材 参 考 書	毎回授業前に資料を配布する。				
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	教員研究室509号（内線：4962）にて随時（但し、事前に申し出ること）				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	モハモド モニルル イスラム	高齢者の運動療法について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
2	〃	高齢者における転倒予防法について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
3	〃	高齢者の身体運動時の安全性について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
4	〃	高齢者における高血圧と糖尿病の管理について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
5	〃	高齢者における脳血管疾患、虚血性心疾患等の管理について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
6	〃	食べられない高齢者の栄養管理について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
7	〃	食高齢者におけるコミュニケーション障害の原因と対策について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
8	〃	高齢者における腰痛やそのほかの関節痛について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
9	〃	高齢者におけるもの忘れや認知症について、また関連する論文の検索		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
10	〃	統計学演習I（データベース作成方法）について		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
11	〃	統計学演習II（度数分布、平均値、中央値、最頻値、標準偏差、標準誤差など）について		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
12	〃	統計学演習III（t検定、分散分析など）について		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
13	〃	統計学演習IV（相関と回帰、相対的危険とオッズ比など）について		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
14	〃	国際保健および緊急時の救援医療（国際保健の意義、国際保険医療協力先進国と途上国保険制度、世界保健機関等および心肺蘇生法、救急法、水難救助等の事故防止）		左記の予習と配布資料の復習（60分）	
15	〃	抄読会・ディスカッション			

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特講演習 (224B2-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動処方あるいはそれらに関連する科学的エビデンスを精査しながら、それぞれの運動の特性やその運動が持つ効果について議論する。また、文献調査・実験立案・データ採取と分析・結果発表・ディスカッションを繰り返しながら研究の方向性を確立し、科学的エビデンスを公表する能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（40%）■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	運動処方に関する研究レビュー・実験デザインについて			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	有酸素運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	レジスタンス運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	柔軟運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	バランス運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	骨密度を高める運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	実験1			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	実験1のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	実験2			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	実験2のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	実験3			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	実験3のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	実験4			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	実験4のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論） (224B2-2305)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (5学科総合科学)
担当教員名	中本 浩揮			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	一	受け入れ人数	一
授業の概要 及び達成目標	研究を通して得られるものにはデータを測定する科学的手法のほか、データに基づき自分自身の意見・主張を形成し、わかりやすく表現するスキルが挙げられる。本演習では、受講生各自が進める研究内容を題材に、最も大事な点は何か、聴き手が知りたいことは何かなどを整理し、意見・主張とその元となる根拠を適切な順序で伝えるなど、思考のパラグラフ化の練習課題を中心に行う。授業の達成目標は、思考のパラグラフ化を身に付け、自身の研究内容を他者に魅力的に伝えられるようになること、また他者の研究内容を同様の視点で聞き、問題点や疑問点を指摘できるようになることとする。				
成績評価の方法	授業への主体性・取り組み状況(50%)、課題達成状況(50%)を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業への取り組みとして、質問への応答、課題への積極的な取り組み、討議への積極的な参加を重視する。				
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：研究的思考法 想いを伝える技術 三輪書店				
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学特講	備考(教員メッ セージ含む)	授業時間外の課題実施がある。		
オフィス・アワー	随時				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中本 浩揮	オリエンテーション（授業方針、取り扱う内容の説明）		前期トレーニング科学論特講の講義内容について復習(30分)	
2	〃	研究の想いを明確にする		授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
3	〃	研究の仮説を明確にする		授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
4	〃	研究の目的を説明する際の「解説」の重要性を理解する		授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
5	〃	研究の目的と解説を作成する		授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
6	〃	発表&ディスカッション（目的と解説）		ディスカッションを受け、目的と解説の修正（1時間）	
7	〃	数値がもつ意味の解説の重要性を理解する		授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
8	〃	結果（数値）とその意味の解説を作成する		授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
9	〃	発表&ディスカッション（結果とその意味）		ディスカッションを受け、結果とその意味の修正（1時間）	
10	〃	大事な意見を先に伝えることの幅を理解する		授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
11	〃	先行研究の要旨を「大事な意見を先に伝える」の視点で添削する		授業で行った添削を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
12	〃	発表&ディスカッション（先行研究の要旨添削）		ディスカッションを受け、添削の修正（1時間）	
13	〃	先行研究の序論を添削する		授業で行った添削作業を進める（1時間）	
14	〃	先行研究の序論を添削する		授業で行った添削を完成させ、次週に向けての発表準備（1時間）	
15	〃	発表&ディスカッション（先行研究の序論添削）		ディスカッションを受け、添削の修正、授業で身に付けた内容の振り返り（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習（トレーニング科学） (224B2-2306)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	山本：トレーニング科学に関する科学的エビデンスを抄読し、データの解釈や問題点などを議論する。さらに、関連する国内外の学術的背景をまとめ、解決すべき課題や研究の目的をプレゼンできるようにする。					
	高井：トレーニング科学分野の論文を作成するシュミレーションを行う。“トレーニング”をキーワードに、各自が興味あるテーマを題材に、研究の目的・仮説の設定、方法および予想される結果について発表し、それについて全員で討議する。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況（70%） レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて、資料の配付および授業の際に参考図書等を紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	発表はパワーポイントで行うこととする。	
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 赤澤 暢彦	オリエンテーション (トレーニング科学の研究をするための方法論について)				
2	赤澤 暢彦	トレーニングに関する文献抄読			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	(例) 循環系とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	(例) 脳・神経系とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	(例) 認知機能とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	(例) ホルモン系とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	(例) 腸内細菌とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	(例) 栄養（サプリ）とトレーニング			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
9	高井 洋平	・トレーニング実験を行う際の仮説の立て方			先行研究の緒言の構成を調べておく（1時間）	
10	〃	・トレーニング実験を計画する際の留意点			先行研究の緒言と方法を整理しておく（1時間）	
11	〃	・仮説の検証方法（実験プロトコルなど）			先行研究の方法（実験プロトコル）を調べておく（1時間）	
12	〃	・トレーニング実験のデータの採取と分析			先行研究のデータ取得の手法を調べておく（1時間）	
13	〃	・図表の作成技術			先行研究の図表のレイアウトを調べておく（1時間）	
14	〃	・プレゼンテーション技術			プレゼンテーションに関する注意点を調べておく（1時間）	
15	〃	・パワーポイントの作成			パワーポイントの作成に関する注意点を調べておく（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック）） (224B1-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	松村 勲・永原 隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	I	受け入れ人数	若干名
授業の概要 及び達成目標	陸上競技トラック・ロード種目のコーチング場面につながるさまざまな知見を取り上げ、議論していくことにより、多角的で体系的にコーチング論を整理することを、本授業の目的とする。このことにより、陸上競技トラック・ロード種目のコーチングにおける高度なコーチングの基礎を身に着けることが期待される。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0%） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各授業での発表やディスカッションの内容およびレポートの内容を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時間毎に必要なに応じて資料等を配付する。					
履修条件・ 関連科目	陸上競技のトラック・ロード種目を専門とする者。※競技者として、研究対象としてのいずれか。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	松村：月～木の12：00～15：30、研究等3階310研究室 永原：随時、大学院棟3階研究室1					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	松村 勲 永原 隆	オリエンテーション、陸上競技のコーチングについて				
2	〃	陸上競技中距離走についての先行研究等を探る			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
3	〃	陸上競技中距離走の先行研究等についてまとめる			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（1時間）	
4	〃	陸上競技中距離走の先行研究等について議論する			議論に基づく内容をまとめる（1時間）	
5	〃	陸上競技長距離走についての先行研究等を探る			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
6	〃	陸上競技長距離走の先行研究等についてまとめる			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（1時間）	
7	〃	陸上競技長距離走の先行研究等について議論する			議論に基づく内容をまとめる(1時間)	
8	〃	陸上競技中長距離走のコーチング			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
9	〃	陸上競技短距離走コーチングための運動構造理解			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
10	〃	陸上競技短距離走コーチングのための科学的基礎			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
11	〃	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング手段と方法			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
12	〃	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング計画			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
13	〃	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする①			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	
14	〃	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする②			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	
15	〃	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする③			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド）） (224B1-2308)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (24～7総合科学)
担当教員名	瓜田 吉久・小森 大輔				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	競技コーチングにおいては、コーチング実践の場における多角的・体系的アプローチが必要となる。本授業では、主に陸上競技のフィールド種目を題材にして、試合で結果を出すためのトレーニングやコンディショニングをどのように考えるか、また、体力並びに技術トレーニングの方法論などについて教授する。さらに、コーチング実践の場における様々な取り組みについて具体例をもとに講義し、コーチング体験並びに経験を通して発生した諸問題を論考していく。これらにより、陸上競技フィールド種目のコーチングを多角的・体系的に捉え、高度なコーチングを実践していくための能力が身につくことが期待される。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（%） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業の中で行われた発表や討論、さらには提出されたレポートなどをもとに、陸上競技フィールド種目を体系的に捉え、高度なコーチングを実践するための能力が身に付いているかを総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	【参考書】1）スポーツ・トレーニング理論：村木征人著、ブックハウスエイチディ 2）陸上競技のコーチングⅡ：金原勇著、大修館書店3）現代スポーツコーチング実践講座2 陸上競技：大石三四郎・浅田隆夫著、ぎょうせい 4）その他必要に応じて講義毎に配布又は指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	レポート等の提出有り		
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 13時～14時 研究棟8階802教員研究室 小森：月曜日 13時～14時 研究棟8階805教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	瓜田 吉久	授業のガイダンス(講義の概要、成績評価等)、陸上競技フィールド種目の特性			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
2	瓜田 吉久 小森 大輔	試合で結果を出すために トレーニングの計画と評価ー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
3	〃	試合で結果を出すために ー試合に向けてのコンディショニングー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
4	瓜田 吉久	コーチングを知る① ー投擲種目における体力トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
5	小森 大輔	コーチングを知る② ー跳躍種目における体力トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
6	瓜田 吉久	コーチングを知る③ ー砲丸投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
7	〃	コーチングを知る④ ー円盤投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
8	〃	コーチングを知る⑤ ー槍投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
9	〃	コーチングを知る⑥ ーハンマー投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
10	小森 大輔	コーチングを知る⑦ ー走り幅跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
11	〃	コーチングを知る⑧ ー三段跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
12	〃	コーチングを知る⑨ ー走り高跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
13	〃	コーチングを知る⑩ ー棒高跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
14	瓜田 吉久 小森 大輔	コーチングを探るーコーチング実践の場における取り組み事例ー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、 次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）	
15	〃	コーチングを考えるーコーチング実践の場における諸問題の整理と解決法ー			授業内容を復習し、コーチングに関する総括レポートを作成する。（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（水泳） (224B1-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	8
授業の概要 及び達成目標	水泳競技の力学・生理学・心理学的原則について理解し、コーチング法、指導法、トレーニング計画等に関する知識を身に着ける。また、国内外の水泳研究に関する資料、文献、論文の収集、抄読を通して、研究計画の立案やデータ処理、論文作成の能力向上を目指す。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況（50%）、課題達成状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への主体的な参加態度、授業に向けた準備、討論への積極的な参加を重視して評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介・配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	水泳に対する幅広い探究心を持つ人の受講を望みます。		
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室または実験プール教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	萬久 博敏 成田 健造	オリエンテーション				
2	〃	水の特性と水泳・水中運動			参考資料、関連論文のまとめ（1時間）	
3	〃	水泳研究の歴史と変遷			参考資料、関連論文のまとめ（1時間）	
4	〃	水泳研究における測定法と課題			参考資料、関連論文のまとめ（1時間）	
5	〃	水泳に関する研究の計画立案、実験方法、分析方法			水泳に関する論文の検索・要約（2時間）	
6	〃	水泳のトレーニングと運動強度、計画			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
7	〃	競泳競技におけるトレーニングメニュー立案			水泳のトレーニングメニューに関する課題（1時間）	
8	〃	水泳の生理学、トレーニング学			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
9	〃	水泳の指導法			水泳の指導プログラムに関するレポート（2時間）	
10	〃	水泳の経済性・有効性・効率			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
11	〃	競泳競技における技術トレーニング			技術トレーニングに関するレポート（1時間）	
12	〃	泳パフォーマンスの評価と分析			データ分析と資料作成（1時間）	
13	〃	水泳研究実践			データの解析とまとめ（2時間）	
14	〃	水泳に関する研究の論文作成、まとめ方			発表資料作成・準備（1時間）	
15	〃	水泳に関する研究のディスカッション			発表資料の作成と振り返り（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（体操競技） (224B1-2310)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	山下 龍一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体操競技における器具特性や技の表記、運動特性を踏まえ、各技に応じた指導がどのような状況でも出来るように、コーチングスキルを向上させる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	通常の演習において適切な助言や指導がなされているか。採点規則に則って適切な時間で採点ができるか。レポートはきちんと書かれているか。この3点を基準として評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	体操競技のコーチング（大修館書店）金子明友著、スポーツ運動学（大修館書店）マイネル著・金子明友訳他					
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していること。		備考(教員メッ セージ含む)	全員が試合などで同じ宿舎に泊まる場合に学外で演習を行 う場合がある（年に数回）。		
オフィス・アワー	随時 801教員研究室 内線4969					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山下 龍一郎	コーチング全般の諸注意事項について学ぶ。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
2	〃	運動モルフォロジーについて。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
3	〃	運動経過における局面について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
4	〃	運動リズム、運動伝導、運動流動について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
5	〃	運動弾性、運動の先取り、運動の正確さについて。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
6	〃	運動の調和について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
7	〃	採点規則の概要について学ぶ。			レポート資料作成（60分）	
8	〃	採点規則のEスコアについて。			採点演習資料作成（60分）	
9	〃	採点規則のDスコアについて。			採点演習資料作成（60分）	
10	〃	演技の実採点を行う（DスコアとEスコアの両立）。			採点演習資料作成（60分）	
11	〃	補強運動について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
12	〃	運動の心的作用について（1）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
13	〃	運動の心的作用について（2）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
14	〃	運動の心的作用について（3）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習 (サッカー) (224B1-2311)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	塩川 勝行				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	サッカー競技を中心に技術・戦術・体力のコーチング法、評価方法を中心に、チームマネジメント及びトレーニング計画等を研究討議する。また、育成年代 (小学生～高校生) までの長期展望に立った一貫指導についての指導方法を実践研究する。 サッカーのゲームを構成する技術・戦術・体力を理解し、各年代のコーチング論及びコーチング法を習得することを目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績 (%) ■授業への取り組み状況 (50%) ■レポート等の提出状況 (50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での課題、レポート総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 サッカー勝利への技術・戦術 (チャールズ・ヒューズ,大修館書店,1996.@3,200) 指導者のためのサッカー強化書 (ゲロ・ビザンツ,ベースボールマガジン社,1997.@2,800) フランスサッカーのプロフェッショナル・コーチング (ジェラルド・ウリエ,大修館書店,2000.@2,500)					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	金曜日 9時～12時 810教室 事前にアポイントメントを取ること (shiokawa@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩川 勝行	オリエンテーション、サッカーの歴史と競技特性			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
2	〃	サッカーにおける技術・戦術論 (1)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
3	〃	サッカーにおける技術・戦術論 (2)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
4	〃	サッカーにおけるゲーム分析 (1)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
5	〃	サッカーにおけるゲーム分析 (2)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
6	〃	サッカーにおけるプランニング (1)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
7	〃	サッカーにおけるプランニング (2)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
8	〃	サッカーにおけるトレーニング&コーチング (1)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
9	〃	サッカーにおけるトレーニング&コーチング (2)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
10	〃	サッカーにおけるフィジカルトレーニング			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
11	〃	チーム作りとトレーニング計画			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
12	〃	チームマネジメント			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
13	〃	育成年代の指導方法 (1)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
14	〃	育成年代の指導方法 (2)			小レポート及びディスカッション資料作成 (60分)	
15	〃	まとめ			レポート作成 (60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール） (224B1-2312)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	三浦 健			補助担当者名		前村かおり
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	バスケットボールへの関わり方において、プレーヤーとは異なる立場、主に指導、審判、運営、トレーナーという側面についてのテーマに関する情報媒体を取り上げる。これらの抄読・鑑賞・ディスカッションを繰り返すことにより、各人の将来に対するバスケットボール人としての位置づけ（指針）をサポートする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況、レポート等の提出状況を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業で取り上げたテーマに関して、教わったことばかりでなく、自分自身の考えを構築し、ディスカッションの場で発言できるかを評価の最大のポイントとする。					
テキスト、教材 参 考 書	バスケットボールのルールと審判法 阿部・木葉 大修館書店 必要に応じて資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時 総合体育館教員室（三浦）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	三浦 健	オリエンテーション、球技における技術向上の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
2	〃	球技における戦術行動の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
3	〃	球技におけるコーチング実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
4	〃	球技における競技運営の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
5	〃	けがからの回復トレーニングの実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
6	〃	けがを予防するトレーニング方法に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
7	〃	体力（跳躍力）を高めるトレーニング方法に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
8	〃	体力（瞬発力）を高めるトレーニング方法に関する文献講読 まとめ			小レポート提出（1時間）	
9	〃	指導者、観客の目から見たルールと審判法			バスケットボールのルールと審判法 予習（15分）	
10	〃	バスケットボールの戦術論①オフェンス（速攻法）			配布資料を復習する。（15分）	
11	〃	バスケットボールの戦術論②オフェンス（フリーランス）			配布資料を復習する。（15分）	
12	〃	バスケットボールの戦術論③オフェンス（パターン）			配布資料を復習する。（15分）	
13	〃	バスケットボールの戦術論④ディフェンス（マンツーマン）			配布資料を復習する。（15分）	
14	〃	バスケットボールの戦術論⑤ディフェンス（ゾーン）			配布資料を復習する。（15分）	
15	〃	まとめ			小レポート提出（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習 (テニス) (224B1-2313)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	球技ならびにテニスにおけるコーチングを行うために考えるべき原理・原則から、テニスのコーチング学に関する文献講読、映像を活用した技術のコーチング、ゲーム・戦術のコーチングなど、テニスを切り口に球技およびスポーツ全般に関わるコーチング学を展開する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績 (%) ■授業への取り組み状況 (50%) ■レポート等の提出状況 (50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義内での発表状況と発表内容、演習への取組状況や積極性、期末レポートの内容と完成度を評価の基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	The Essentials of Performance Analysis, M. Hughes and I. Franks, Routledge. Routledge Handbook of Sports Performance Analysis, T. McGarry, P. O'Donoghue and J. Sampaio, Routledge 体育・スポーツに分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編、市村出版 コーチング学への招待、日本コーチング学会編、大修館書店 球技のコーチング学、日本コーチング学会編、大修館書店					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	コンピュータで映像を操作することの基本的技能を備えていることを前提とする。また学内外で開催される各種講習会やセミナーへの参加を奨励する。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。	
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋 (スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 村上 (研究棟8階806教員研究室)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大 村上 俊祐	スポーツコーチング学の原理・原則			講義内容の予習と復習 (1時間)	
2	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
3	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
4	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
5	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
6	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
7	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
8	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用④			講義内容の予習と復習 (1時間)	
9	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
10	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
11	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
12	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用④			講義内容の予習と復習 (1時間)	
13	〃	スポーツのコーチング学に関する文献講読①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
14	〃	スポーツのコーチング学に関する文献講読②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
15	〃	スポーツコーチング論の構築に向けて			レポート (2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（バレーボール） (224B1-2314)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷			補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ボールゲームの研究発展史、国際大会の競技力構造、トレーニングとコーチング、戦術分析、チームマネジメントを基礎理論とし、特にチームゲームの専門的指導理論を検討する。 バレーボールにおける種目特性に応じた技術・戦術のトレーニング、実践的な体力、精神力の強化策をトータルに論じて、現場へのフィードバック法を実際に年齢別（ユース・ジュニア・シニア）、レベル別（初級・中級・上級）にコーチングを行う。 トレーニング計画を企てることが出来、実際に対象者別にコーチングを行うことが出来るようになる。					
成績評価の方法	■学期末試験の成績（30%） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回レポート提出と発表（ディスカッション及ディベート）を行い、コーチングに関して演習形式を現場（体育館等）で行い成績評価とする。					
テキスト、教材 参 考 書	G. シューテラー、唐木國彦訳「ボールゲーム辞典」大修館書店 Coaching Playing Volleyball コーチング学研究及びパフォーマンス研究他 随時配布					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	808教員室（濱田）：水曜日午前中 ほかの日はメールにて確認 601教員室（坂中）：木曜日終日 ほかの日はメールにて確認					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	濱田 幸二	ボールゲームの分類と研究発展史			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
2	〃	ボールゲームの国際競技力比較			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
3	〃	ボールゲームの技術・戦術分析と最先端のアナライズ法			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
4	〃	バレーボールのコーチング課題			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
5	〃	バレーボールの技術的・戦術的能力の定義			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
6	坂中 美郷	バレーボールの攻撃力と防御力			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
7	〃	メンタルとフィジカルの強化策			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
8	〃	トレーニングと試合のマネジメント			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
9	〃	目標設定とトレーニング計画			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
10	〃	競技選手の心理的及び身体的測定評価			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
11	濱田 幸二 坂中 美郷	バレーボールのスカウティング、ゲーム分析とその解析			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
12	〃	バレーボールのCoordination調整力のトレーニング			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
13	〃	チームスポーツのコーチングスキル			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
14	〃	球技トレーニングの日本的課題			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
15	〃	球技種目の発展方向とシュミレーション			総合的レポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ） (224B1-2315)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中村 夏実・榮楽 洋光				補助担当者名	笹子 悠歩
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	現在、海洋スポーツにおける普及振興の分野では、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。また、競技スポーツの分野では、海上および水上環境であってもテクノロジーを活用したコーチングが可能となってきた。 加えて、現在の日本社会において、「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民の海洋への理解を深めるためにも、海洋スポーツ活動や水辺活動に造詣の深い人材が求められている。 本授業では、このような社会的なニーズに応えられる、実践力を養うため、以下の内容を中心に演習を行う。 ○海洋スポーツ種目（セーリング、ローイング）の競技力向上のためのパフォーマンス研究を実践する。 ○海洋スポーツ種目（セーリング、ローイング、スキューバダイビング）の技術向上のための、指導法や安全管理についての問題点を探求する。 ○海洋スポーツ行事・イベントの企画と運営に参画することにより海洋スポーツの意義と課題を考察する。 ○海洋スポーツコーチングに関する国内及び海外の文献講読を行う。 ○海洋スポーツにおける調査・実験研究の方法を実習し、エビデンスを用いたコーチング方法を演習する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み状況については1回の授業で4点（合計60点、第1回オリエンテーション除く）、レポートについては40点で評価し、総点60点以上を合格とする。					
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツ指導者のための安全ハンドブック他、必要に応じて教材・資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)	荒天時の対応に備えて、連絡先等の個人情報をお聞きします。 医師により、水中での活動を控えるように指示されている方は、受講前に必ずご相談ください。		
オフィス・アワー	中村・榮楽 随時 事前に海洋スポーツセンター0994-47-2758に電話連絡または natsumi@nifs-k.ac.jp ; eiraku@nifs-k.ac.jp にメールをお願いします					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中村 夏実 榮楽 洋光	オリエンテーション、海洋スポーツ総論			参考書・資料等の復習 (1時間)	
2	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり	
5	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 課題提出（レポート1回目） レポートの作成（2時間）	
8	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
9	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
10	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
11	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
12	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
13	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
14	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
15	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
16	〃	まとめ			課題提出（レポート2回目） レポートの作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習（剣道） (224B1-2316)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	剣道に関する文献・資料・映像などを分析し、技術の構造についての講義及び演習を進める。その中で、剣道の持つ歴史性・文化的特性・求道性・競技性などを俯瞰しながら、剣道の持つ教育的特性を考究し、それに関する高度な専門知識・技術・指導の教育研究能力を身につけることを目標とする。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（80％） ■レポート等の提出状況（20％）					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	近代剣道名著大系全集（同朋舎出版） 近代剣道書選集(本の友社) 武道学研究（日本武道学会）					
履修条件・ 関連科目	内容がより専門的になるため、剣道有段者・修行者に限る。			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：506研究室（前阪）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	イントロダクション 剣道史の俯瞰			授業の振り返り（30分）	
2	〃	打突技術の構造論1			授業の振り返り（30分）	
3	〃	打突技術の構造論1（発表と討議）			レポート1作成（2時間）	
4	竹中 健太郎	打突技術の構造論2			授業の振り返り（30分）	
5	〃	打突技術の構造論2（発表と討議）			レポート2作成（2時間）	
6	〃	現代剣道の稽古論			授業の振り返り（30分）	
7	〃	現代剣道の稽古論（発表と討議）			レポート3作成（2時間）	
8	〃	現代剣道の文化性と競技性について			授業の振り返り（30分）	
9	〃	応用技能実践演習1			対人稽古1時間	
10	〃	応用技能実践演習2			対人稽古1時間	
11	前阪 茂樹	剣道実践演習			地稽古1時間	
12	〃	剣道形実践演習1			形稽古1時間	
13	〃	剣道形実践演習2			形稽古1時間	
14	〃	日本刀及び模擬刀の取り扱いに関する演習				
15	〃	授業の総括と討論形式での評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習（柔道） (224B1-2317)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	小澤 雄二				補助担当者名	小崎亮輔
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	武道（柔道）の指導に必要な理論について、柔道論、指導方法論、技術論、心理学、体力トレーニング学、スポーツ医学等の各側面から演習し理解を深める。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） □授業への取り組み状況（70％） □レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	授業の進捗状況によって、内容の変更もある。	
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室（小澤）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	小澤 雄二	オリエンテーション：演習の進め方、評価の仕方等			予習30分	
2	〃	柔道論①			予習復習30～60分	
3	〃	柔道論②			予習復習30～60分	
4	〃	柔道の指導方法論①			予習復習30～60分	
5	〃	柔道の指導方法論②			予習復習30～60分	
6	〃	柔道の心理学①			予習復習30～60分	
7	〃	柔道の心理学②			予習復習30～60分	
8	〃	柔道の技術論①			予習復習30～60分	
9	〃	柔道の技術論②			予習復習30～60分	
10	〃	柔道の体力トレーニング学①			予習復習30～60分	
11	〃	柔道の体力トレーニング学②			予習復習30～60分	
12	〃	柔道のスポーツ医学①			予習復習30～60分	
13	〃	柔道のスポーツ医学②			予習復習30～60分	
14	〃	発表①			発表の準備60分以上	
15	〃	発表②			発表の準備60分以上	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講演習 (224B1-2318)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (54～7総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツパフォーマンス学とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文をふまえ、実際にスポーツパフォーマンスの測定・調査や分析を行い、自身のデータをもとに実践研究の論文としてまとめる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(50%) ■レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および実践研究論文の達成度から総合的に評価する。『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿を目指し、成果があればそれも評価に加える。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版(2018) 参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著(市村出版、2021)、『スポーツパフォーマンス研究』(http://www.sports-performance.jp/)にこれまでに掲載された研究論文とEditorial					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋 (スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高 (大学院棟3階 4教員研究室) 竹中 (研究棟5階507教員研究室) 藤井 (研究棟8階804教員研究室) 山口 (研究棟8階803教員研究室) 前田 (研究棟4階405教員研究室)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	実践研究における論文執筆のオリエンテーション			授業内容の予習と復習 (60分)	
2	高橋 仁大 山口 大貴	実践研究の論文テーマを検討する①			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意 (60分)	
3	〃	実践研究の論文テーマを検討する②			授業の振り返りとテーマの検討とプレゼン用意 (60分)	
4	〃	実践研究の論文テーマを検討する③			授業の振り返りとテーマの整理 (60分)	
5	山口 大貴	実践研究の論文構成を検討する①			授業内容の予習と復習 (60分)	
6	〃	実践研究の論文構成を検討する②			授業内容の予習と復習 (60分)	
7	〃	実践研究の論文構成を検討する③			授業内容の予習と復習 (60分)	
8	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴	中間発表会			中間発表の準備(予習)と復習 (60分)	
9	竹中 健太郎 藤井 雅文	実践研究のデータを測定・分析する①			授業内容の予習と復習 (60分)	
10	〃	実践研究のデータを測定・分析する②			授業内容の予習と復習 (60分)	
11	〃	実践研究のデータを測定・分析する③			授業内容の予習と復習 (60分)	
12	藤井 雅文	実践研究成果のまとめ①			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意 (60分)	
13	〃	実践研究成果のまとめ②			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意 (60分)	
14	〃	実践研究成果のまとめ③ 最終発表準備			プレゼンテーションの作成 (60分)	
15	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴	最終発表会			最終発表の準備(予習)と復習 (60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演【夜間】 (224B2-2319)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	トレーニング科学領域の学術論文に基づき、先行研究において採用されている実験デザイン、データの取得と分析の方法およびその解釈について、プレゼンテーションおよびディスカッションを繰り返しながら、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学領域の関連論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 赤澤 暢彦	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）	
2	〃	トレーニングプログラム立案の原理・原則①			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	トレーニングプログラム立案の原理・原則②			資料等の復習および予習（1時間）	
4	〃	実験デザイン①身体組成のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
5	〃	実験デザイン②呼吸循環機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
6	〃	実験デザイン③筋機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
7	〃	実験デザイン④運動機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
8	〃	実験デザイン⑤複合的トレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
9	〃	実験デザイン⑥ピリオダイゼーションの応用			資料等の復習および予習（1時間）	
10	〃	データの取得・分析①身体組成			資料等の復習および予習（1時間）	
11	〃	データの取得・分析②呼吸循環機能・柔軟性			資料等の復習および予習（1時間）	
12	〃	データの取得・分析③筋機能・運動機能			資料等の復習および予習（1時間）	
13	〃	データのまとめと論文の構成①			資料等の復習および予習（1時間）	
14	〃	データのまとめと論文の構成②			資料等の復習および予習（1時間）	
15	〃	データのまとめと論文の構成③			資料等の復習および予習（1時間）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習【夜間】 (224B1-2320)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・下川 美佳・山下 龍一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	コーチングの概念や必要となる知識・理論について確認し、武道・陸上・体操競技のコーチングにおける理論と実際を例として学ぶことで、幅広いコーチングの知識や理論、問題点を理解するとともに、多角的なコーチング実践能力に必要な基礎を身に付ける。また、自身が受けたコーチング経験や自身のコーチング実践を振り返り、考察することで、高度なコーチング実践能力の獲得を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義内での発表状況と発表内容、演習への取組状況や積極性、課題の内容と完成度を評価の基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講生が準備する。必要とする参考資料は随時紹介、配布する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として「Reference Book(日本印刷株式会社、@4,000円)」					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 永原：随時 大学院棟3階 教員室1 下川：随時 研究棟 5F 505教員研究室 山下：随時 研究棟 8F 801教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 下川 美佳 山下 龍一郎	オリエンテーション				
2	〃	コーチングを理解する			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
3	〃	グッドコーチに求められる医・科学的知識			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
4	〃	現場・環境に応じたコーチング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
5	下川 美佳	武道のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
6	〃	武道のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
7	〃	武道のコーチングにおける理論と実際③			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
8	永原 隆	陸上競技のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
9	〃	陸上競技のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
10	〃	陸上競技のコーチングにおける理論と実際③			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
11	山下 龍一郎	体操競技のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
12	〃	体操競技のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
13	〃	体操競技のコーチングにおける理論と実際③			発表資料作成および準備(60分)	
14	永原 隆 下川 美佳 山下 龍一郎	コーチング実践に向けたディスカッション			発表資料作成および準備(60分)	
15	〃	補足とまとめ			授業の振り返りと総括レポートの作成(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講演習 (225B3-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・中村 勇				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	演習形式で行われる本授業では、スポーツ史研究および近接分野のスポーツ文化人類学的研究に関連する国内外の著名な文献を講読し、問題の設定、史料収集と吟味、現地調査、叙述の進め方など、スポーツ史研究の方法と、近接分野の研究手法の援用法を修得する。 それらによって、スポーツの歴史学的研究、運動文化論的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：阿部生雄・山田理恵他編「多様な身体への目覚めー身体訓練の歴史に学ぶー」（アイオーエム、2006年） その他の参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な 取り組み方等を総合的に評価する。			備考(教員メッ セージ含む)	「スポーツ史・運動文化論特講」と併せて受講することが望ましい。	
オフィス・アワー	山田：随時（705研究室） 中村：随時（503研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の現状			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	日本語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	外国語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	史料の吟味と叙述の進め方			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	〃	日本のスポーツ史研究に関する学術書・学術論文の講読・討論①			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
6	中村 勇	日本のスポーツ史研究に関する学術書・学術論文の講読・討論②			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
7	山田 理恵	外国のスポーツ史研究に関する学術書・学術論文の講読・討論			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
8	〃	スポーツ文化人類学的研究に関する学術書・学術論文の講読・討論			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
9	〃	現地調査と資料収集①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
10	〃	現地調査と資料収集②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	〃	研究実践のプレゼンテーション①			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
12	〃	研究実践のプレゼンテーション②			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
13	中村 勇	研究実践のプレゼンテーション③			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
14	〃	研究実践のプレゼンテーション④			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
15	山田 理恵	総括：スポーツ史研究の展望			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講演習 (225B1-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前阪 茂樹			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	日本の伝統文化である武道について、その理念や普遍性、修練の構造などの諸特性を前提に、武道のもつ様々な側面を演習形式で討議する。それによって武道の持つ文化的側面に関する高度な知識と研究の方法を追求し、学ぶことを目標とする。				
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%）				
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	事前に読んでおく参考書、文献等：武道学研究（日本武道学会）、今村嘉雄 編集『日本武道大系』（同朋舎）他、その都度提供する。				
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者が望ましい。	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：506研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方			
2	〃	武道修練の構造「稽古」と「練習」	復習及び発表レポートの作成（約2時間）		
3	〃	発表・討論	予習約30分		
4	〃	武道修練の構造「守破離」	復習及び発表レポートの作成（約2時間）		
5	〃	発表・討論	予習約30分		
6	〃	武道修練の構造「三磨之位」と「聞思修」	復習及び発表レポートの作成（約2時間）		
7	〃	発表・討論	予習約30分		
8	〃	武道修練の構造「事」と「理」	復習及び発表レポートの作成（約2時間）		
9	〃	発表・討論	予習約30分		
10	〃	稽古論 日本文化と「かた」	復習及び発表レポートの作成（約2時間）		
11	〃	発表・討論	予習約30分		
12	〃	武道学研究の動向その1 文献レビュー			
13	〃	武道学研究の動向その2 文献レビュー			
14	〃	武道用具（武具・刀剣類）と施設（道場）について	レポート作成（約1時間）		
15	〃	本授業の総括（討論形式での振り返り）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ法・倫理特講演習 (225B3-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	森 克己				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	この演習では、スポーツにおける法的・倫理的問題であるスポーツ指導者による子どもへの体罰・虐待問題について取り上げ、日本における体罰の判例研究、英語文献の講読により考察する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での発表状況、毎回の授業時に課されるレポートの取組状況を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：(1)Paulo David, Human Rights in Youth Sport: A critical review of children's rights in competitive sports, Routledge, 2005 (2)UNICEF,PROTECTING CHILDREN FROM VIOLENCE IN SPORT－A REVIEW WITH A FOCUS ON INDUSTRIALIZED COUNTRIES, 2010					
履修条件・ 関連科目	スポーツ指導者による体罰・虐待問題に関心があり、英語文献を講読するための英語力を備えていることが望まれます。		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 克己	全体のオリエンテーション：演習の進め方、評価の仕方など			履修要項・シラバスの予習（10分以上）	
2	〃	体罰の判例研究①			体罰に関する判例の資料の予習（30分以上）	
3	〃	体罰の判例研究②			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
4	〃	体罰の判例研究③			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
5	〃	体罰の判例研究④			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
6	〃	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読①			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
7	〃	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読②			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
8	〃	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読③			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
9	〃	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読④			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
10	〃	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読⑤			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
11	〃	ユニセフ報告書の講読①			ユニセフ報告書の予習（30分以上）	
12	〃	ユニセフ報告書の講読②			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
13	〃	ユニセフ報告書の講読③			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
14	〃	ユニセフ報告書の講読④			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
15	〃	ユニセフ報告書の講読⑤			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講演習 (225B3-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)	
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—		受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについての研究方法論について総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての研究論文・文献の抄読発表会を行い、今後の生涯スポーツ振興政策や健康づくりに関した研究法の習得を目標とする。						
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業時の課題発表とレポートを重視する。						
テキスト、教材 参 考 書	授業時配布の各種資料						
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)				
オフィス・アワー	北村：610研究室（随時）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	北村 尚浩	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (1)			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）		
2	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
3	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
4	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
5	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
6	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
7	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
8	大勝 志津穂	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (2)			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
9	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
10	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
11	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
12	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
13	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
14	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		
15	北村 尚浩 大勝 志津穂	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外教育論特講演習 (225B3-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	坂口 俊哉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	野外教育の中でのアクティビティとして取り上げられる様々なアウトドア・スポーツに焦点を当てた人文・社会科学系の研究トピックについて紹介する。 文化・経済・環境・ツーリズムなど様々な研究トピックを取り上げる。また、各国の統計調査、白書データと二次データの収集と分析について紹介する。 授業の後半では野外教育の成果を評価する方法について実践的作業を行う。					
成績評価の方法	最終プレゼンテーション（20％） 授業への取り組み状況（40％） レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での発表内容、配布資料の作成内容などについて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時、事前にメールでアポイントを取ることをお勧めします。 E-mail:tsakaguc@nifs-kac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂口 俊哉	ガイダンス			アウトドア・スポーツ、レジャー、レクリエーション関連雑誌のタイトルを確認、リストを作成して提出。（60分）	
2	〃	アウトドア・スポーツ、レジャー、レクリエーション関連ジャーナルの論文収集			担当分野の論文収集、情報共有作業（60分）	
3	〃	文献抄読①			担当者発表①発表準備作業（120分）	
4	〃	文献抄読②			担当者発表②発表準備作業（120分）	
5	〃	文献抄読③			担当者発表③発表準備作業（120分）	
6	〃	文献抄読④			担当者発表④発表準備作業（120分）	
7	〃	文献抄読⑤			担当者発表⑤発表準備作業（120分）	
8	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法①目的とデータ収集			レジャー・レクリエーション研究の目的を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
9	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法②データの収集と分析手法			レジャー・レクリエーション研究のデータ収集方法を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
10	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法③分析結果の示し方			レジャー・レクリエーション研究の分析方法を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
11	〃	レジャー・レクリエーションの企画と実践①			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
12	〃	野外教育の企画と実践②			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
13	〃	野外教育の企画と実践③			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
14	〃	野外教育の企画と実践④			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
15	〃	野外教育の企画と実践⑤			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
16	〃	実践例の評価レポートとプレゼンテーション			ツーリズムの視点から、大隅地域のレジャー・レクリエーション・プログラムのSWOT分析を行い、その結果をプレゼンテーションする準備を行うこと（120分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講演習 (225B3-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学研究法について、これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究法の諸外国や日本の研究課題と展望を考究する。 社会学的研究法の基礎を学ぶとともに、その研究法の現状と課題を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	北村：610研究室（要アポイントメント）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学的研究の必要性			文献抄読（1時間）	
2	〃	スポーツ行動研究			文献抄読（1時間）	
3	〃	スポーツ集団研究			文献抄読（1時間）	
4	〃	ライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
5	〃	QOL研究			文献抄読（1時間）	
6	〃	Aging研究			文献抄読（1時間）	
7	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	
8	〃	文献資料研究の方法と課題			文献抄読（1時間）	
9	〃	社会学的研究におけるスポーツ文化研究の方法			文献抄読（1時間）	
10	〃	社会学的研究におけるスポーツ社会史研究の方法			文献抄読（1時間）	
11	〃	日本のスポーツ社会文化研究の動向と課題			文献抄読（1時間）	
12	〃	諸外国のスポーツ社会文化研究と課題			文献抄読（1時間）	
13	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅰ			文献抄読（1時間）	
14	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅱ			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コミュニティ・スポーツ論特講演習 (225B3-2306)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	コミュニティにおけるスポーツクラブを対象として演習を進める。 受講生は、まずコミュニティ・スポーツクラブの概要を理解する。 さらに、具体的な事例を見出し、それについて事例報告を行う。 各自の報告から、その現状を知り、課題を発見し、理解を深めていく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各回の授業で発表者を指定する。指定された回に作成した資料の出来栄と発表の状態に50点、その他の回での受講態度および議論への参加状況とその内容に対して50点を配分する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜文献を指定もしくは配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	授業の概要、発表のための資料作成等の方法、発表の方法と参加方法			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告①			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告②			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告③			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	大勝 志津穂	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告④			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告⑤			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告①			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告②			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告③			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告④			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告⑤			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	北村 尚浩 大勝 志津穂	全体のまとめ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講演習 (225B3-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツマネジメント論特講等で学習した理論や内容を基礎に、スポーツ経営やマーケティングに関する実践的な事例を扱う。実際のスポーツ経営関係の研究テーマ・内容・方法を含めた現代のスポーツ経営の課題発見、また消費行動から戦略を含めたマーケティング事例の研究を行う。また、スポーツに関する事象を行動学、経済学、経営哲学における様々な理論や分析方法を使って解明していく。授業を通してスポーツ経営に関する研究課題を見付け出し、調査・研究方法を実践し、一つの課題に関する研究方法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室 隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション				
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング（基礎の振り返りと応用）			予習1時間、復習1時間	
3	〃	プロスポーツにおけるマーケットリサーチ			予習1時間、復習1時間	
4	〃	プロスポーツと消費者行動			予習1時間、復習1時間	
5	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究1			予習1時間、復習1時間	
6	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究2			予習1時間、復習1時間	
7	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究3			予習1時間、復習1時間	
8	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究4			予習1時間、復習1時間	
9	関 朋昭	知識経営に関する演習			予習1時間、復習1時間	
10	〃	意思決定に関する演習			予習1時間、復習1時間	
11	〃	人的資源を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
12	〃	情報を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツの価値に関する演習			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツの原理に関する演習			予習1時間、復習1時間	
15	〃	スポーツの可能性に関する演習			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】 (225B3-2308)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・森 克己・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	演習形式で行われる本授業では、スポーツの歴史学、歴史人類学研究に関する文献を購読してその研究方法を修得するとともに、フィールドワークを行う。 それらによって、スポーツの歴史的、歴史人類学的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：寒川恒夫『遊びの歴史民族学』（明和出版、2003） その他の参考文献は適宜紹介する。必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講【夜間】」とあわせて受講 することが望ましい。			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室） 森：随時（506研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	スポーツ歴史人類学の方法			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
3	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
4	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
5	山田 理恵	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読④			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
6	森 克己	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑤			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑥			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑦			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	真田 久	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	山田 理恵	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	真田 久	民族スポーツのフィールドワーク①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	民族スポーツのフィールドワーク②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
14	山田 理恵	民族スポーツのフィールドワーク③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講演習【夜間】 (225B3-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂・宮地 元彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについての研究方法論について総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての研究論文・文献の抄読発表会を行い、今後の生涯スポーツ振興政策や健康づくりに関した研究法の習得を目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業時の課題発表とレポート内容を評価。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	文献レビューの方法と評価			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	宮地 元彦	既存統計を活用の実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	システマティックレビューの方法と実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	メタ解析の方法と実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	メタ解析演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	メタ解析演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	大勝 志津穂	生涯スポーツ研究課題の設定			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	発表演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (伊シバリシバリコード)	スポーツ社会学特講演習【夜間】 (225B3-2310)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学研究法について、これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究法の諸外国や日本の研究課題と展望を考究する。 社会学的研究法の基礎を学ぶとともに、その研究法の現状と課題を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学的研究の必要性			文献抄読（1時間）	
2	〃	スポーツ行動研究			文献抄読（1時間）	
3	〃	スポーツ集団研究			文献抄読（1時間）	
4	〃	ライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
5	〃	QOL研究			文献抄読（1時間）	
6	〃	Aging研究			文献抄読（1時間）	
7	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	
8	〃	文献資料研究の方法と課題			文献抄読（1時間）	
9	〃	社会学的研究におけるスポーツ文化研究の方法			文献抄読（1時間）	
10	〃	社会学的研究におけるスポーツ社会史研究の方法			文献抄読（1時間）	
11	〃	日本のスポーツ社会文化研究の動向と課題			文献抄読（1時間）	
12	〃	諸外国のスポーツ社会文化研究と課題			文献抄読（1時間）	
13	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅰ			文献抄読（1時間）	
14	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅱ			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講演習【夜間】 (225B3-2311)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツマネジメント論特講等で学習した理論や内容を基礎に、スポーツ経営やマーケティングに関する実践的な事例を扱う。実際のスポーツ経営関係の研究テーマ・内容・方法を含めた現代のスポーツ経営の課題発見、また消費行動から戦略を含めたマーケティング事例の研究を行う。また、スポーツに関する事象を行動学、経済学、経営哲学における様々な理論や分析方法を使って解明していく。授業を通してスポーツ経営に関する研究課題を見付け出し、調査・研究方法を実践し、一つの課題に関する研究方法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室 隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション				
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング（基礎の振り返りと応用）			予習1時間、復習1時間	
3	〃	プロスポーツにおけるマーケットリサーチ			予習1時間、復習1時間	
4	〃	プロスポーツと消費者行動			予習1時間、復習1時間	
5	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究1			予習1時間、復習1時間	
6	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究2			予習1時間、復習1時間	
7	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究3			予習1時間、復習1時間	
8	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究4			予習1時間、復習1時間	
9	関 朋昭	知識経営に関する演習			予習1時間、復習1時間	
10	〃	意思決定に関する演習			予習1時間、復習1時間	
11	〃	人的資源を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
12	〃	情報を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツの価値に関する演習			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツの原理に関する演習			予習1時間、復習1時間	
15	〃	スポーツの可能性に関する演習			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講演習 (226B3-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツ場面における運動のメカニズムに関して、スポーツ心理学の研究法を用いて、明らかにしていく方略を学習する。研究テーマに関する論文を読み、実験計画を立て、実験を行い、結果の分析考察を行い、最終的にはその研究結果に関してプレゼンテーションを行なうことを課題とする。 授業は実験・演習形式で授業で行なう。 本演習の達成目標はスポーツ心理学における基礎的な実験方法を理解・習得することである。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％）■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学研究法の考え方の理解と実践能力の程度及び結果の分析、プレゼンテーション能力を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布予定					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：702研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション			文献講読予習（1時間）	
2	〃	スポーツ心理学に関する文献講読1			文献講読予習（1時間）	
3	〃	スポーツ心理学に関する文献講読2			文献講読予習（1時間）	
4	〃	スポーツ心理学に関する文献講読3			文献講読予習（1時間）	
5	〃	実験計画の作成1			実験計画書の作成（1時間）	
6	〃	実験計画の作成2			実験計画書の修正（1時間）	
7	〃	予備実験（実験方法の確認）			予備実験の結果のまとめレポート（1時間）	
8	〃	本実験1			実験記録のまとめ（1時間）	
9	〃	本実験2			実験記録のまとめ（1時間）	
10	〃	本実験3			実験記録のまとめ（1時間）	
11	〃	結果の分析1			結果のまとめ（1時間）	
12	〃	結果の分析2			結果のまとめ（1時間）	
13	〃	考察1(結果に関する討論)			考察のまとめ（1時間）	
14	〃	考察2（討論のまとめ・プレゼンテーションの内容確認）			プレゼンテーションの作成（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			実験のまとめのレポート作成（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講演習 (226B2-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動が心肺機能や自律神経に及ぼす影響を心電図、超音波装置、心肺機能測定装置などを実際に用いて学ぶ。(双方型)					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(80%) ■レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	特になし(その都度プリントを渡す。)					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	火曜日 10時～11時30分 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修 廣津 匡隆	安静時心電図：お互いの心電図を実際に記録する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
2	〃	運動負荷心電図：トレッドミルを用いる。記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
3	〃	ホルター心電図 1：機器の取り扱いの説明及びホルターの装着 ホルター心電図 2：記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
4	〃	ベクトル心電図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
5	〃	ヒス心電図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
6	〃	体表面電位図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析(レートポテンシャルの有無など)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
7	〃	自律神経機能検査 1：R-R間隔変動係数を用いる。 自律神経機能検査 2：PREDICTOR IIによるR-R間隔のスペクトル解析(LF/HF)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
8	〃	自律神経機能検査 3：ダイビング反射試験のR-R間隔変動について検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
9	〃	自律神経機能検査 4：運動及び自律訓練のR-R間隔変動係数への影響を検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
10	〃	心エコー図 1：お互いの心エコー図をMモード法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
11	〃	心エコー図 2：お互いの心エコー図を断層法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
12	〃	心エコー図 3：お互いの左室流入血量などをドップラー法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
13	〃	頸動脈エコー図 1：ドップラー法を用いて血流を測定する。 上腕動脈エコー図：阻血による直径の変化を測定し、内皮機能を検査する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
14	〃	心機能評価：実際に記録したエコー図を用いて心拍出量などを測定 運動負荷・心エコー図：トレッドミルを用いる。記録及び測定			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
15	〃	自身の心エコー図よりの計測および以上の実習で得た知識で研究プランを立てる。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講演習 (226B2-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動・トレーニングを行ったり、特殊環境に曝露されると、生体における諸生理機能は、合目的に亢進、あるいは抑制され、生体内の恒常性を維持しようと作用する。このような諸機能の応答・適応は、動員された身体部位において局所的に起こるもの、あるいは全身の諸機能が巧みな連携をみせて起こるもの様々である。これらの局所、及び全身の応答・適応のメカニズムを理解することは、効果的に生体機能を改善、向上させる意味でも大きな意味を持つ。本演習では、身体運動時、運動トレーニング、特殊環境などに対する生理応答・適応に関する基礎的情報を教授するとともに、受講生が興味を抱くそれぞれのテーマにそった最新のトピックス、論文などを取り上げ、相互に発表、議論を進めながら、運動・スポーツ生理学に関する幅広い理解と未解明点を明確にする。それにより、自らの専門分野に対する理解を深め、学会等でも通用する発表、議論能力を習得することが期待できる。また、場合によっては全員でテーマを定め、学生主導で実験を行い、その成果を学会等で発表できるようにまとめることとする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(60%) ■レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	シラバスに記載されているような特殊環境下における生体応答、トレーニングに対する特異的な生理適応、パフォーマンスに影響する外的要因などについて、幅広く理解していることを評価の基準とし、授業での発表態度・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、スポーツ生理学、トレーニング科学など関連学会で発表する、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 運動生理学の基礎と発展(春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2300円) 運動生理学概論(浅野勝巳編著、杏林書院、2800円) 新運動生理学上・下巻(宮村実晴編、真興交易(株)医書出版部、各13000円) パワーズ運動生理学(内藤久ら日本語監修、メディカル・サイエンスインターナショナル、10000円) その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特講と合わせて履修することが望ましい	
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室 mhoruchi@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション(授業の説明と発表内容・順番の確認、あるいは実験テーマ決め)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
2	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
3	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる。	
4	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
5	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
6	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
7	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
8	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
9	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
10	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
11	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
12	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
13	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
14	〃	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
15	〃	運動への生理的応答 まとめ			ひとつテーマを定め、レポートにまとめる(3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習（体力科学） (226B2-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	宮崎 輝光				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ヒトの身体運動を統合的に理解するために、スポーツバイオメカニクス特講で得た知識を基に、研究の推進に必要な研究の立案、方法の選択、解析、研究成果の公表に関する技術を習得する。本授業では、バイオメカニクス分野で用いられるさまざまな実験を実習を通じて理解し、スポーツ動作の仕組みをさまざまな観点から考える。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0%）■授業への取り組み状況（20%）■レポート等の提出状況（80%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	課題の発表内容、議論への参加、課題などの提出を基に総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考図書（購入する必要はない） スポーツバイオメカニクス20講（阿江通良、藤井範久、朝倉書店） バイオメカニクス 人体運動と力学の制御（David A. Winter(著)、長野明紀(訳)、吉岡伸輔(訳)、ラウンドフラット） バイオメカニクス・ライブラリー 表面筋電図（本塚朝博、増田正、本竜徹、佐渡山亜兵、東京電機大学出版局）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講と合わせて履修すること、 初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP 参照）を作成し、自身のPCでMATLABを使えるようにす ること。			備考(教員メッ セージ含む)	動作分析や時系列データの分析に必要な基本的な数学・物 理の知識を学習していること（学習済みでない場合は、復 習すること）。また、バイオメカニクス分野以外にも、解 剖学・生理学・運動学の基礎知識を学習していることが望 ましい。演習形式のため、履修人数や受講者の能力に応じ て内容は柔軟に対応する。	
オフィス・アワー	随時 408研究室（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	宮崎 輝光	オリエンテーション・バイオメカニクス分野の研究紹介			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査 する（1時間）	
2	〃	バイオメカニクス分野の研究①：さまざまなデータの意味を理解し、パフォーマンスの向上や傷害予防に必要な実験方法などを理解する			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査 する（2時間）	
3	〃	バイオメカニクス分野の研究②：さまざまなデータの意味を理解し、パフォーマンスの向上や傷害予防に必要な実験方法などを理解する			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査 する（2時間）	
4	〃	バイオメカニクス分野における実験とデータ分析①（三次元動作、地面反力、表面筋電図、筋力、形態測定などの実習も含む）			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に 関連する国内外の文献をまとめる（3時間）	
5	〃	バイオメカニクス分野における実験とデータ分析②（三次元動作、地面反力、表面筋電図、筋力、形態測定などの実習も含む）			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に 関連する国内外の文献をまとめる（3時間）	
6	〃	バイオメカニクス分野における実験とデータ分析③（三次元動作、地面反力、表面筋電図、筋力、形態測定などの実習も含む）			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に 関連する国内外の文献をまとめる（3時間）	
7	〃	バイオメカニクス分野における実験とデータ分析④（三次元動作、地面反力、表面筋電図、筋力、形態測定などの実習も含む）			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に 関連する国内外の文献をまとめる（3時間）	
8	〃	研究テーマの検討と研究方法の吟味①			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をま とめる（3時間）	
9	〃	研究テーマの検討と研究方法の吟味②			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をま とめる（3時間）	
10	〃	研究計画に基づく実験実習とデータ分析①			データ処理およびデータを解釈し考察する（3時 間）	
11	〃	研究計画に基づく実験実習とデータ分析②			データ処理およびデータを解釈し考察する（3時 間）	
12	〃	研究計画に基づく実験実習とデータ分析③			データ処理およびデータを解釈し考察する（3時 間）	
13	〃	研究計画に基づく実験実習とデータ分析④			データ処理およびデータを解釈し考察する（3時 間）	
14	〃	実験結果のプレゼンテーション①			実験結果を国内外の先行研究と照らし合わせて考 察する（3時間）	
15	〃	実験結果のプレゼンテーション②			実験結果を国内外の先行研究と照らし合わせて考 察する（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習（生体ダイナミクス） (226B2-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、からだの動きの原理や運動刺激による生体応答メカニズムに関する専門的知識と研究法を備えるため、身体の動きに必要な運動器（骨格筋、骨、神経）の微細構造やはたらきについて、電気力学的に分析評価するとともに、組織染色や顕微鏡観察でイメージングする技法を知る。また文献のデータベース化と実用的な活用法について学ぶ。本授業により、組織・細胞のイメージングや機能構造解析を通して運動器のはたらきを調べることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（25％） □発表状況（％） ■ルーブリック達成状況（25％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ルーブリック達成状況、質疑応答状況、課題等の提出等により加点して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	(参考書) 1) 計測法入門—計り方、計る意味、内山 靖、協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 2) Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing (1995), ISBN:978-0306451393, 3) 細胞・組織染色の達人、大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 4) 新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウィネット (2014), ISBN:978-4434190803, 5) Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics (2008), ISBN:978-0736058674, 6) 神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店 (2007), ISBN:978-4890133567 (資料) 適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、生体ダイナミクスの概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書を一読する。またPubMed及びEndNoteの 使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	生体電気信号の記録：その原理と方法と波形の意味を知る			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
3	〃	筋電図記録とその応用：疲労やトレーニングの評価に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
4	〃	筋電図記録とその応用：動作分析に応用する、動かしているのか/勝手に動いている のか見極める			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
5	〃	骨格筋の収縮機構と張力測定：筋収縮の力学的特性の違いを可視化して、筋力・筋 パワーの評価や筋力増強の処方に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
6	〃	骨格筋収縮の機能低下：筋疲労と筋持久力を定量化して、その評価に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
7	〃	筋収縮の力学と電気信号：筋出力と表面筋電図の関係を推察、議論し、プレゼンテ ーションする			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
8	〃	筋組織の微細構造：筋線維と筋膜（結合組織）の種類を分類し、不動や運動による 特性の変化を調べる			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
9	〃	筋損傷の可視化：生体内での化学的現象を捉える染色法と顕微鏡観察から筋組織の トレーニング効果や萎縮、崩壊の現状を見極める			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
10	〃	骨格筋の再生、炎症と神経：筋サテライト細胞やマクロファージ、感覚神経等を可 視化/定量化して、再生との関連性を調べる			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
11	〃	不動による骨格筋の萎縮と骨組織の脆弱化：運動・物理療法の効果を画像解析で可 視化/定量化して、その評価に応用する方法			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
12	〃	骨強度の測定：骨の力学的特性を計測し、加齢による折れ方の違いを検証する方法。 骨の粘性と弾性に及ぼす因子を探り、これらを改善する体力トレーニング法に応用 する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
13	〃	骨組織におけるメカノトランスダクション：運動効果とその評価方法。骨組織への 力学的負荷が骨形成を促進するしくみ			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
14	〃	骨や骨格筋が分泌する生理活性物質とクロストークの実際：骨のひずみと筋収縮が ヒトの健康増進に役立つしくみ			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	
15	〃	筋骨格系の力学と神経系：骨格筋や骨組織と神経との関連性を力学的、組織細胞学 的観点から推察、議論し、プレゼンテーションする			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精 読し、EndNote等にデータベース化する。（2時 間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習（身体機能論） (226B2-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本演習では、身体運動に関わる神経-筋機能の分野を中心に、それを評価する方法について国外の文献抄読を通じて理解を深める。また、プレゼンテーションを繰り返しながら研究の方向性を確立し、科学的なアプローチが行えることを目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80%） ■プレゼンテーション/レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答、課題等の提出状況を加味して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料：適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。	
オフィス・アワー	與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	與谷 謙吾	オリエンテーション(授業の説明と発表内容・順番の確認)			発表者は次回のプレゼン資料を確認し、まとめる(1時間)	
2	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
3	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
4	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
5	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
6	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会⑤			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
7	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
8	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
9	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
10	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
11	〃	外部刺激(光)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
12	〃	外部刺激(音)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
13	〃	外部刺激(電気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
14	〃	外部刺激(磁気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	
15	〃	外部刺激(仮想現実・視覚)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会⑤			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講演習 (226B2-2306)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	和田 智仁・前田 明・宮崎 輝光				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では履修生自身で動作課題を決定し、スポーツパフォーマンス研究センターが所有する機材の取り扱いを習得するとともに、動作分析を演習形式で学ぶ。なお、スポーツバイオメカニクス特講（修士1年前期）で学んだ動作分析の基礎を前提とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0％） ☒ 授業への取り組み状況（30％） ☒ レポート等の提出状況（70％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久、朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介、川本竜史、NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀、吉岡伸輔、ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	和田：事前連絡 前田：事前連絡 宮崎：事前連絡					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	課題設定およびスポーツ動作の測定技術①			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	和田 智仁 宮崎 輝光	課題設定およびスポーツ動作の測定技術②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
3	〃	課題設定およびスポーツ動作の測定技術③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
4	〃	課題設定およびスポーツ動作の測定技術④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析①			データ測定、分析、考察（1時間）。	
6	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析②			データ測定、分析、考察（1時間）。	
7	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析③			データ測定、分析、考察（1時間）。	
8	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析④			データ測定、分析、考察（1時間）。	
9	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑤			データ測定、分析、考察（1時間）。	
10	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑥			データ測定、分析、考察（1時間）。	
11	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑦			データ測定、分析、考察（1時間）。	
12	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑧			データ測定、分析、考察（1時間）。	
13	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	分析結果のまとめとプレゼンテーション①			レポート作成	
14	〃	分析結果のまとめとプレゼンテーション②			レポート作成	
15	〃	分析結果のまとめとプレゼンテーション③			レポート作成	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学・分子細胞生物学特講演習 (226B2-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・町田 修一			補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) 生体における化学的变化をよく理解し、からだの内部における生化学的な知識をより深める。実際には、生化学演習、分子細胞生物学演習をととして、特講で得られた知識の理解度を深める。最終的に、運動にともなうからだの変化について、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。 (町田担当分) 骨格筋に関する分子生物学・細胞生物学の基礎的理解をさらに発展させるために、解剖および組織染色等の実習を通してマクロからミクロレベルで骨格筋を観察し学習する。 授業の達成目標は、特講で得られた基礎的知識をさらに発展させ、組織レベルでの表現型（適応現象）について説明できること、そして実習から得られた体験や知見をトレーニングや運動処方の現場で応用できるようになることを目標とする。					
成績評価の方法	(吉田担当分) □学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。 (町田担当分) ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート（25％） ■発表（25％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	(吉田担当分) 演習に取り組む姿勢を重視する。 (町田担当分) 実習の準備や片付けを意欲的に取り組み、積極的な行動によって新しい技術や知識の獲得に努めようとする。本演習で得られた体験や知見をトレーニングや運動処方の現場で応用できるようになると判断できるプレゼンテーションやレポートが提出された場合は合格とする。					
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) ・演習テキスト（授業時に配布する） (町田担当分) 毎回、演習内容（パワーポイント）に関する資料を配付する。 参考書については、適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目	(吉田担当分) 特になし。 (町田担当分) 特になし。			備考(教員メッセージ含む)	(吉田担当分) 必要に応じて論文抄読会を行う。 (町田担当分) 分子・細胞生物学の知識をスポーツ科学に生かせるようになってほしいです。	
オフィス・アワー	(吉田担当分) 随時307研究室・メール。 (町田担当分) 集中講義期間中のお昼休みもしくは放課後					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	代謝のあらまし			代謝のあらま시를復習する。（1時間）	
2	〃	運動と水分の出納・酸塩基平衡			運動と水分の出納・酸塩基平衡を復習する。（1時間）	
3	〃	酵素1（触媒作用と逸脱酵素）			触媒作用と逸脱酵素を復習する。（1時間）	
4	〃	酵素2（運動負荷にともなう活性調節）			運動負荷にともなう活性調節を復習する。（1時間）	
5	〃	ビタミンと補酵素1（運動負荷にともなう必要性）			運動負荷にともなう必要性を復習する。（1時間）	
6	〃	ビタミンと補酵素2（疲労の防止および回復）			疲労の防止および回復を復習する。（1時間）	
7	〃	無機質1（運動負荷にともなう必要性）			運動負荷にともなう必要性を復習する。（1時間）	
8	〃	無機質2（疲労の防止および回復）			疲労の防止および回復を復習する。（1時間）	
9	町田 修一	運動生化学・分子細胞生物学特講（町田担当分）の復習			前期の特講内容に関して復習する（1時間）	
10	〃	骨格筋を把握する1（写真、映像等を利用）			前期の特講内容に関して復習する（1時間）	
11	〃	骨格筋を把握する2（模型等を利用）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
12	〃	骨格筋を細胞レベルで見ると1（HE染色を顕微鏡で観察する）			実習の片付けと次回実験の準備（1時間）	
13	町田 修一	骨格筋を細胞レベルで見ると2（筋線維の数や面積を評価する）			実習の準備をする（1時間）	
14	〃	筋線維タイプを細胞・分子レベルで見ると1（免疫組織染色を顕微鏡で観察し、筋線維タイプを把握する）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
15	〃	筋線維タイプを細胞・分子レベルで見ると2（筋線維タイプの構成比や個々の筋線維の面積を評価する）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
16						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講演習 (226B2-2308)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・石澤 里枝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) スポーツ栄養学の知識を活用するための方法について演習を行う。生体内代謝に基づく科学的なアプローチが行えることを目標とする。 (石澤担当分) スポーツ栄養学に関する基礎的知見および最新の文献に基づき演習や議論を行う。					
成績評価の方法	(吉田担当分) □学期末試験の成績 (%) ■授業への取り組み状況 (70%) ■レポート等の提出状況 (30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	(吉田担当分) 演習に取り組む姿勢を重視する。 (石澤担当分) 演習への取り組み、レポートの内容を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) テキスト (演習時に配布する)。 (石澤担当分) 資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会や発表を行う。		
オフィス・アワー	(吉田担当分) 随時 3 0 7 研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質の利用			糖質の利用を復習する。(1時間)	
2	〃	脂質の利用			脂質の利用を復習する。(1時間)	
3	〃	タンパク質・アミノ酸の利用			タンパク質・アミノ酸の利用を復習する。(1時間)	
4	石澤 里枝	アスリートのエネルギー必要量の原理			アスリートのエネルギー必要量の原理を復習する (1時間)	
5	〃	消化吸収			消化吸収を復習する。(1時間)	
6	〃	グリコーゲンローディング			グリコーゲンローディングを復習する。(1時間)	
7	〃	グリコーゲンローディングに関する論文抄読			グリコーゲンローディングに関する論文抄読を復 習する。(1時間)	
8	〃	筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取			筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取を復習する。(1 時間)	
9	〃	筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取に関する論文抄読			筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取に関する論文の 内容を復習する。(1時間)	
10	〃	ファットローディング			ファットローディングを復習する。(1時間)	
11	〃	ファットローディングに関する論文抄読			ファットローディングに関する論文を復習する。 (1時間)	
12	〃	スポーツ栄養の背景や問題点について討論			スポーツ栄養の背景や問題点について復習する。 (1時間)	
13	〃	運動パフォーマンス向上のための栄養素について討論			運動パフォーマンス向上のための栄養素を復習す る。(1時間)	
14	〃	運動パフォーマンス向上のための栄養素の効果を検証			運動パフォーマンス向上のための栄養素の効果を 復習する。(1時間)	
15	〃	測定結果のプレゼンテーション			測定結果のプレゼンテーションを復習する。(1 時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講演習【夜間】 (226B3-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツ場面における運動のメカニズムに関して、スポーツ心理学の研究法を用いて、明らかにしていく方略を学習する。研究テーマに関する論文を読み、実験計画を立て、実験を行い、結果の分析考察を行い、最終的にはその研究結果に関してプレゼンテーションを行なうことを課題とする。 授業は実験・演習形式で授業で行なう。 本演習の達成目標はスポーツ心理学における基礎的な実験方法を理解・習得することである。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（40%） ☒ レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学研究法の考え方の理解と実践能力の程度及び結果の分析、プレゼンテーション能力を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布予定					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時：702研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション			文献講読予習（1時間）	
2	〃	スポーツ心理学に関する文献講読1			文献講読予習（1時間）	
3	〃	スポーツ心理学に関する文献講読2			文献講読予習（1時間）	
4	〃	スポーツ心理学に関する文献講読3			文献講読予習（1時間）	
5	〃	実験計画の作成1			実験計画書の作成（1時間）	
6	〃	実験計画の作成2			実験計画書の修正（1時間）	
7	〃	予備実験（実験方法の確認）			予備実験の結果のまとめレポート（1時間）	
8	〃	本実験1			実験記録のまとめ（1時間）	
9	〃	本実験2			実験記録のまとめ（1時間）	
10	〃	本実験3			実験記録のまとめ（1時間）	
11	〃	結果の分析1			結果のまとめ（1時間）	
12	〃	結果の分析2			結果のまとめ（1時間）	
13	〃	考察1(結果に関する討論)			考察のまとめ（1時間）	
14	〃	考察2（討論のまとめ・プレゼンテーションの内容確認）			プレゼンテーションの作成（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			実験のまとめのレポート作成（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特講演習【夜間】 (226B2-2310)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、スポーツ、健康づくりの実践に必要な体力構成要素についての基礎的な理論を応用実践できるようになるために、特に行動体力の基盤となる筋骨格系、神経系、呼吸循環器系等のトレーニングや測定・評価の方法を学ぶ。また、文献の抄読やプレゼンテーションを実施する。本授業により、行動体力に関する適切な測定・評価やトレーニング効果の検証について議論ができ、また文献のデータベース化とそれを実際に用いることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■プレゼンテーション/レポート等の発表状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表内容や質疑応答、課題等の提出状況を総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）健康・体力のための運動生理学、石河利寛著，杏林書院、ISBN:978-4764410435、2）計測法入門—計り方・計る意味、内山 靖、協同医書出版社（2001）、ISBN:978-4763910301、 （資料）適宜配布する					
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	與谷 謙吾	オリエンテーション			今回の予定確認と文献(英語)を整理し、発表資料を作成する。(2時間)	
2	〃	体力科学に関する論文紹介 (抄読・プレゼンテーション)			文献(英語)を整理し、今回の発表資料を作成する。(2時間)	
3	〃	体力科学に関する論文紹介 (抄読・プレゼンテーション)			文献(英語)を整理し、今回の発表資料を作成する。(2時間)	
4	〃	体力科学に関する論文紹介 (抄読・プレゼンテーション)			文献(英語)を整理し、今回の発表資料を作成する。(2時間)	
5	〃	体力科学に関する論文紹介 (抄読・プレゼンテーション)			文献(英語)を整理し、今回の発表資料を作成する。(2時間)	
6	〃	反応時間①：反応パフォーマンスに関連するPre-motor timeの評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
7	〃	反応時間②：反応パフォーマンスに関連するVisuo-motor related timeの評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
8	〃	反応時間③：筋系・動作系の時間要素の関連性			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
9	〃	反応時間④：筋収縮と弛緩課題における時間評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
10	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーションとまとめ			発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。(2時間)	
11	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の定義と構成要素、PubMed、EndNoteの使い方			参考書1を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。(2時間)	
12	〃	生体電気信号の記録：筋電図 ～その原理と波形の意味とトレーニングへの応用～			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
13	〃	骨格筋の随意収縮と電気刺激誘発筋収縮の測定：筋力増加のトレーニングへの応用			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
14	〃	筋肥大と萎縮、筋損傷の可視化：筋組織の微細構造観察（顕微鏡観察）からみたトレーニング効果・脆弱性の判定			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
15	〃	骨強度の測定：骨の破断強度試験から解析した骨力学的特性～特性改善の体力トレーニング法への応用～			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】 (226B2-2311)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	和田 智仁・前田 明・宮崎 輝光				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では履修生自身で動作課題を決定し、スポーツパフォーマンス研究センターが所有する機材の取り扱いを習得するとともに、動作分析を演習形式で学ぶ。なお、スポーツバイオメカニクス特講（修士1年前期）で学んだ動作分析の基礎を前提とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0 %） ☐ 授業への取り組み状況（30 %） ☒ レポート等の提出状況（70 %）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久、朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介、川本竜史、NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀、吉岡伸輔、ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	和田：事前連絡 前田：事前連絡 宮崎：事前連絡					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	課題設定およびスポーツ動作の測定技術①			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	和田 智仁 宮崎 輝光	課題設定およびスポーツ動作の測定技術②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
3	〃	課題設定およびスポーツ動作の測定技術③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
4	〃	課題設定およびスポーツ動作の測定技術④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析①			データ測定、分析、考察（1時間）。	
6	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析②			データ測定、分析、考察（1時間）。	
7	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析③			データ測定、分析、考察（1時間）。	
8	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析④			データ測定、分析、考察（1時間）。	
9	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑤			データ測定、分析、考察（1時間）。	
10	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑥			データ測定、分析、考察（1時間）。	
11	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑦			データ測定、分析、考察（1時間）。	
12	〃	バイオメカニクス実習：データ測定および分析⑧			データ測定、分析、考察（1時間）。	
13	和田 智仁 前田 明 宮崎 輝光	分析結果のまとめとプレゼンテーション①			レポート作成	
14	〃	分析結果のまとめとプレゼンテーション②			レポート作成	
15	〃	分析結果のまとめとプレゼンテーション③			レポート作成	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講演習【夜間】	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	食品の持つ特性や特徴を体感するとともに、調理科学を体験する。 食材による代謝への影響について考察していく。 食生活を行う上での衛生管理の必要性と対処法を学ぶ。 さまざまな疾病の基準と食生活の関係を理解する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	測定・実習・調査の取り組み状況とそれに伴うレポートによって評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	授業中に配布する。				
履修条件・ 関連科目	スポーツ栄養学特講【TSC】を履修していること	備考(教員メッ セージ含む)	受講生の特性により、シラバスを変更することがある。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	食生活を行う上での衛生管理の必要性と対処法		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	さまざまな疾病の基準と食生活の特徴		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	塩分による水の低温化と乳類のエマルジョンの特性を体験する（アイスクリーム・シャーベット作成）		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	エマルジョンを体験するためマヨネーズを作成する・オイルの特性による作成時の状況や味を体験する		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	カプサイシンによる特異動的作用の影響を測定する		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	食事調査を行い自分の食事改善を試みる		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	〃		参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	〃		レポート作成（1時間）	
16	〃	まとめ			

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習Ⅰ【KR】 (226B2-2313)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・小澤 雄二・金高 宏文・藤田 英二・萬久 博敏・廣津 匡隆・中本 浩揮・高井 洋平・永原 隆・塩瀬 圭佑・石走 知子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	5名
授業の概要 及び達成目標	「身体教育特講Ⅰ【KR】」で学んだ身体を教育するための様々な手段について、心・技・体に関する文献購読や調査・測定・討論等を通して理解を深め、生涯にわたって身体を育てていくための実践的な能力と指導力を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	同時開講予定の「身体教育特講Ⅰ【KR】」を履修すること。		備考(教員メッ セージ含む)	本演習は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、演習の順序が変更になる場合もある。		
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	動機づけについて			動機づけについての復習（30分以上）	
2	中本 浩揮	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
3	金高 宏文 永原 隆	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて①			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習（30分以上）	
4	〃	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて②			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習（30分以上）	
5	小澤 雄二	運動指導とコツ・カンについて（柔道）			運動指導とコツ・カンについて（柔道）の復習（30分以上）	
6	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
7	高井 洋平	球技スポーツにおける攻防の評価について			球技スポーツにおける攻防の評価についての復習（30分以上）	
8	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について（調査と評価）			健康と生活習慣の調査と評価についての復習（30分以上）	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			健康づくりのための運動処方についての復習（30分以上）	
10	萬久 博敏	運動指導とコツ・カンについて（水泳）			運動指導とコツ・カンについて（水泳）の復習（30分以上）	
11	未 定	栄養について（仮）			栄養についての復習（仮）（30分以上）	
12	石走 知子	休養について			休養の調査と評価についての復習（30分以上）	
13	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての復習（30分以上）	
14	未 定	自然環境下の運動について（仮）			自然環境下の運動について（仮）の復習（30分以上）	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートによるまとめ（3時間）	

授業科目名 (伊シのラシダコード)	身体教育特講演習Ⅱ A【KR】 (226B2-2314)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	身体教育特講Ⅱ Aの内容をふまえて、スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るために、関連する著書や研究論文を抄読できるようにする。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。				
テキスト、教材 参 考 書	論文等は事前に配布する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基	オリエンテーション			
2	坂本 将基	随意運動制御の基礎（1）脊髄		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
3	”	随意運動制御の基礎（2）小脳		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
4	”	随意運動制御の基礎（3）大脳基底核		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
5	”	随意運動制御の基礎（4）骨格筋		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
6	”	随意運動制御の基礎（5）大脳皮質1		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
7	”	随意運動制御の基礎（6）大脳皮質2		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
8	”	随意運動制御の基礎（7）運動学習		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の基礎（1）心臓		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
10	”	運動時の循環調節の基礎（2）血圧		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
11	”	運動時の循環調節の基礎（3）微小循環		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
12	”	運動時の循環調節の基礎（4）圧受容器反射		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
13	”	運動時の循環調節の基礎（5）セントラルコマンド		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
14	”	運動時の循環調節の基礎（6）運動昇圧反射		抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
15	井福 裕俊 坂本 将基	総合討論			

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習Ⅱ B【KR】 (226B2-2315)		授業形態	講義	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の効果についての著書や研究論文を抄読する。また、運動や食事による代謝機能や身体組成への影響を評価するための基本的な技能について学ぶ。これらから、健康づくりや競技パフォーマンス向上に応用できる知識と技能を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	食事や運動の効果を検証するためのエネルギー代謝や身体組成評価法を実践できる 健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための食事や運動の効果に関する著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配布・紹介する					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	適宜指定する					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション			文献の予習・復習（1時間）	
2	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	エネルギー代謝評価の実践Ⅲ			文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	身体組成評価の実践Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	身体組成評価の実践Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	運動処方の実践Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	運動処方の実践Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
9	〃	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
10	〃	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
11	〃	身体組成に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
12	〃	身体組成に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
13	〃	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1時間）	
14	〃	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1時間）	
15	〃	まとめ			講義全体の復習（1時間）	

Ⅳ. 体育学研究科修士課程体育学専攻担当教員名簿及び研究領域等一覧

1. 令和5年度体育学研究科修士課程体育学専攻担当教員名簿

【研究指導担当教員】

職 種	氏 名	備 考
教授	瓜 田 吉 久	
	小 澤 雄 二	
	北 村 尚 浩	
	金 高 宏 文	
	関 朋 昭	
	高 井 洋 平	
	高 橋 仁 大	
	竹 中 健太郎	
	田 巻 弘 之	
	中垣内 真 樹	
	中 村 夏 実	
	藤 井 康 成	
	藤 田 英 二	
	堀 内 雅 弘	
	前 田 明	
	森 克 己	
	森 司 朗	
	安 田 修	
准教授	山 田 理 恵	
	和 田 智 仁	
	梶 ちか子	
	小 森 大 輔	
	下 川 美 佳	
	中 本 浩 揮	
	永 原 隆	
	沼 尾 成 晴	
	三 浦 健	
	吉 田 剛一郎	
	奥 谷 謙 吾	
	イスラム モハモド モニルレ	

【授業担当教員】

職 種	氏 名	備 考
教授	濱 田 幸 二	
	前 阪 茂 樹	
准教授	赤 澤 暢 彦	
	隅 野 美砂輝	
	廣 津 匡 隆	
	松 村 勲	
講師	幾 留 沙 智	
	坂 中 美 郷	
	塩 川 勝 行	
	成 田 健 造	
	藤 井 雅 文	
	村 上 俊 祐	
	山 口 大 貴	
	山 下 龍一郎	

【連携大学院】

職 種	氏 名	備 考
客員教授	井 福 裕 俊	研究指導担当教員
客員准教授	坂 本 将 基	研究指導担当教員
客員准教授	塩 瀬 圭 佑	授業担当教員

【授業のみを担当する教員】

職 種	氏 名	備 考
教授	国 重 徹	本学教員
	吉 重 美 紀	本学教員
准教授	エルメス・ディビット	本学教員
	萬 久 博 敏	本学教員
講師	石 澤 里 枝	本学教員
	榮 樂 洋 光	本学教員
	坂 口 俊 哉	本学教員
	中 村 勇	本学教員
	宮 崎 輝 光	本学教員
非常勤講師	石 走 知 子	学外講師
	大 勝 志津徳	学外講師
	川 島 克 介	学外講師
	真 田 久	学外講師
	鈴 木 志保子	学外講師
	町 田 修 一	学外講師
	宮 地 元 彦	学外講師
	ヨーコ ゼッターランド	学外講師

2. 体育学研究科修士課程体育学専攻担当教員研究領域等一覧

【専任教員】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研 究 指 導 担 当 教 員	瓜 田 吉 久 (教授)	・スポーツコーチング学特講演習 (陸上競技（フィールド）)	陸上競技における効果的な指導方法について研究を推進している。また、陸上競技を中心に各種目に必要な体力獲得のためのトレーニング方法並びに手段について研究を行っている。
	小 澤 雄 二 (教授)	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（柔道） ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	1) 安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 2) 柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 3) 柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の3つの方向から主に研究を行っている。
	北 村 尚 浩 (教授)	・スポーツ社会学特講 ・スポーツ社会学特講演習 ・スポーツ社会学特講【夜間】 ・スポーツ社会学特講演習【夜間】 ・生涯スポーツ学特講 ・生涯スポーツ学特講演習 ・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】 ・コミュニティ・スポーツ論特講 ・コミュニティ・スポーツ論特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習	スポーツを中心としたレジャー・レクリエーションの社会科学研究を主要研究領域とし、生涯にわたるスポーツ・ライフスタイル形成の視点から、特に学校での教科体育や運動部活動をはじめ、スポーツ少年団や地域スポーツクラブなどにおける青少年スポーツのあり方や、レジャー・レクリエーションの社会的意義について検討している。
	金 高 宏 文 (教授)	・スポーツコーチング学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は、各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術、その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で、スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取り組んでいる。
	関 朋 昭 (教授)	・スポーツマネジメント論特講 ・スポーツマネジメント論特講演習 ・スポーツマネジメント論特講【夜間】 ・スポーツマネジメント論特講演習【夜間】	スポーツにおけるビジネス上の問題点、スポーツ組織（クラブ）が抱える課題をマネジメントの視点から研究している。特に学校部活動が主たる研究テーマとなっている。また人文社会科学の研究手法論をベースにしながら「スポーツとは何か」「スポーツの価値とは何か」という原理的な研究も行っている。
	高 井 洋 平 (教授)	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 (トレーニング科学) ・トレーニング科学特講【夜間】 ・トレーニング科学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	発育期の子ども、高齢者およびスポーツ選手を対象に、身体組成、筋機能および運動能力におけるトレーニングに関する研究を、運動生理学およびバイオメカニクスの手法を用いて行っている。
	高 橋 仁 大 (教授)	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツコーチング学特講演習 (テニス) ・スポーツ科学リテラシー特講	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびにPerformance Analysisを行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法、またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室の研究で終わることなく、スポーツの実践場面に貢献できるような、フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	竹 中 健太郎 (教授)	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・武道指導論特講演習（剣道） ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習	我国発祥の伝統運動文化である武道（剣道）において、その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求、構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因、あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し、剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から、後世への伝承の方法論について検討している。
	田 巻 弘 之 (教授)	・身体科学論特講 ・身体科学論特講演習 (生体ダイナミクス) ・体力科学特講【夜間】 ・体力科学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や、運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか、どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	中垣内 真 樹 （教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学） ・スポーツ科学リテラシー特講	中高齢者を対象として健康づくり、介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し、実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	中 村 夏 実 （教授）	・スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	海洋スポーツ種目（特にボート、カヌー）における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら、国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で、海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	藤 井 康 成 （教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学）	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について、特に肩・肘の上肢、膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に、その病態や治療法、予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して、体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤 田 英 二 （教授）	・運動処方論特講 ・運動処方論特講演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ・スポーツ科学リテラシー特講	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング、および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは、特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや、そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは、健常高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀 内 雅 弘 （教授）	・スポーツ生理学特講 ・スポーツ生理学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	専門領域は運動生理学（呼吸・中心循環、および末梢循環応答）、および環境生理学である。具体的には、運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために、環境要因（低酸素・暑熱等）を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに、これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前 田 明 （教授・副学長）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャシステム、ハイスピードカメラ、フォースプレート等を用いてバイオメカニク的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクの見地から考察する。
	森 克 己 （教授）	・スポーツ法・倫理特講 ・スポーツ法・倫理特講演習 ・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講	スポーツは「世界共通の人類の文化」（スポーツ基本法前文）である。また、「文化」とは、「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」（広辞苑）のことである。日本で20数年前に学会が設立されて本格的に研究が開始されたスポーツ法学は従来日本の実定法学が対象としてこなかった「文化」を対象とする新しい法学であると認識されている。スポーツと法に関わる人類学的な問題について、その歴史的な背景を踏まえ、スポーツ法学的な手法を用いて考察している。
	森 司 朗 （教授）	・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習 ・スポーツ心理学特講【夜間】 ・スポーツ心理学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	1) 幼少年期の心身両面からの運動発達 2) 運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3) コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4) 脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	安 田 修 （教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学） ・健康教育学特講 ・健康教育学特講演習 ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	ミトコンドリアは生体のエネルギーの殆ど全てを生産し、生体の活動性や老化を左右する重要な細胞内小器官である。運動や骨格筋量がミトコンドリア機能に与える影響に関しての生物化学的な研究に取り組んでいる。また骨格筋量が生体の心臓、腎臓の機能や老化に与える影響について血液パラメーターや分子生物学的手法を用いた研究を行っている。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	山 田 理 恵 (教授)	・スポーツ史・運動文化論特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習 ・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	日本とドイツの場合を中心に、固有の伝統的スポーツや身体運動をめぐる諸現象を比較・検討し、スポーツ文化の伝統性や特性などについて歴史的、社会的、民俗学的考察を行っている。
	和 田 智 仁 (教授)	・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし、慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化、スポーツ現場におけるタブレット活用、映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	梶 ち か 子 (准教授)	・ユース特講演習・実習 ・身体教育特講 I 【KR】	保健体育科教育学、舞踊教育学を専門分野とし、学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに、授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発、授業改善に向けての授業実践等について、量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	小 森 大 輔 (准教授)	・スポーツコーチング学特講 ・スポーツコーチング学特講演習 （陸上競技（フィールド））	陸上競技における効果的な指導方法や跳躍種目で要求される体力要素について研究を進めている。その中でも、リバウンドジャンプや立五段跳等のパフォーマンスと関係性のある能力を向上させるためのトレーニング方法について探求している。
	下 川 美 佳 (准教授)	・コーチング学特講【夜間】 ・コーチング学特講演習【夜間】	武道（剣道）における稽古やコーチング方法の探究をテーマとし、現場の日常にある様々な活動を対象とした研究を進めている。主に、技能の習得や動作の改善時に生じる運動意識や動作の変化について、あるいは、打突に伴って発生する音に関する調査・測定などを行い、暗黙知の可視化に取り組んでいる。
	中 本 浩 揮 (准教授)	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 （メンタルトレーニング論） ・身体教育特講 I 【KR】 ・身体教育特講演習 I 【KR】	スポーツの熟達化をテーマとし、優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について、心理物理学、生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
	永 原 隆 (准教授)	・スポーツコーチング学特講演習 （陸上競技（トラック）） ・コーチング学特講【夜間】 ・コーチング学特講演習【夜間】 ・身体教育特講演習 I 【KR】	スポーツ科学を研究領域とし、競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし、子供から高齢者、アスリートを対象として、スプリント走の機序、評価法、効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また、研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	沼 尾 成 晴 (准教授)	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習 （健康運動学）	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し、呼吸や血液指標（生化学指標、アディポカイン）などを用いて、急性運動や慢性運動のエネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝）に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また、中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法、またその効果についても検討している。
	三 浦 健 (准教授)	・スポーツコーチング学特講演習 （バスケットボール）	球技スポーツにおける技術面、戦術面、試合の運営等に焦点を当て、実践活動に直接寄与する知見を、数値データや画像データを提示することにより、「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	吉 田 剛一郎 (准教授)	・運動生化学・分子細胞生物学特講 ・運動生化学・分子細胞生物学特講演習 ・スポーツ栄養学特講 ・スポーツ栄養学特講演習 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし、その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	與 谷 謙 吾 (准教授)	・身体科学論特講 ・身体科学論特講演習（身体機能論） ・体力科学特講【夜間】 ・体力科学特講演習【夜間】	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて、時間的側面（反応時間）から中枢（神経系）や末梢（筋系）の時間要素に区分して評価し、各系でのトレーナビリティ等について研究を行っている。
	イスラム モハモド モニル (准教授)	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス）	1) わが国における地域在住の健康な高齢者から施設入所している高齢者までを対象に介入運動に関する研究を行っている。今後は発展途上国の高齢者の日常生活における身体活動量の測定とともにその人たちの身体活動量を高める方法に関する研究を行う予定である。 2) 発展途上国の上水と下水問題解決法（雨水利用及びサニタリートイレ利用など）に関する研究を行っている。

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
授業担当教員	濱 田 幸 二 (教授)	・スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）	バレーボールのゲーム分析、主として攻撃戦術のパターン化と守備戦術のシステム化のために、データ蓄積と解析を重ねている。この過程から戦術トレーニングの方法開発を進め、コーチング現場へのフィードバックと戦術構造から考えられるチームビルディングを検討している。
	前 阪 茂 樹 (教授)	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（剣道） ・武道論特講 ・武道論特講演習	武道（特に剣道）を単なる「競技」ではなく、「日本の伝統的運動文化」とであるという視座にたち、武道について歴史性・文化性などを俯瞰し、指導論へと発展させていく。 特に、 1. 古伝書等に記述されている内容の吟味と現代的解釈。 2. 武道修練の構造の理解と「師弟同行」の精神に基づく実践・検証。 などを検討・確認しながら、「修証一如」の修行論・指導論を展開する。
	赤 澤 暢 彦 (准教授)	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習（トレーニング科学） ・トレーニング科学特講【夜間】 ・トレーニング科学特講演習【夜間】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	一般中高齢者からアスリートまでを対象にして、トレーニングやコンディショニングに関する研究を行っている。主に、動脈硬化や認知症の予防・アスリートブレインなどを中心に、生理生化学アプローチにより、トレーニングの効果やそのメカニズムを明らかにして、健康維持増進やパフォーマンス向上をねらいとした研究に取り組んでいる。
	隅 野 美砂輝 (准教授)	・スポーツマネジメント論特講 ・スポーツマネジメント論特講演習 ・スポーツマネジメント論特講【夜間】 ・スポーツマネジメント論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し、その行動の解明に取り組んでいる。
	廣 津 匡 隆 (准教授)	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医学） ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について、特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に、その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し、メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより、障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	松 村 勲 (准教授)	・スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック）） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	陸上競技の中長距離走を中心に、そのトレーニング方法や評価方法、ならびにコーチング方法について研究を進めている。また、スポーツ選手のコンディション評価ならびにコンディショニングについての研究も行っている。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
授 業 担 当 教 員	幾 留 沙 智 （講師）	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 （メンタルトレーニング論） ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	パフォーマンス向上に関連する内容として、運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明、練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として、メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	坂 中 美 郷 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （バレーボール） ・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習	バレーボールにおけるパフォーマンスの向上を目的とした練習方法、コーチング方法、チームビルディングについて研究を行っている。また、選手個々人のパフォーマンスと、メンタルコンディションや身体コンディションとの関わりについて研究を進めている。
	塩 川 勝 行 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （サッカー）	サッカーの育成年代における技術、戦術的なトレーニング、コーチングの研究及びサッカーにおけるフィジカルコンディションの検討を行っている。 また、試合の映像編集・分析を基に、攻撃戦術、守備戦術を考察し、競技力向上に結びつく実践的なトレーニング方法・コーチング法を検討している。
	成 田 健 造 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （水泳）	水泳における力学、特に流体力学を専門とし、水泳中の抵抗評価をメインテーマとしている。そのテーマの中で、抵抗力・推進力の大きい泳動作の特徴や、身体形状・組成との関係を近年は研究している。また、上記以外にも、水泳のトレーニング学や指導方法などにも取り組んでいるため、水泳全般が私の研究領域といえる。
	藤 井 雅 文 （講師）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	野球における以下の3つの項目についての評価方法、ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について、実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 1) 走攻守のパフォーマンスについて 2) 攻撃戦術および守備戦術について 3) 選手が向上するためのチーム（環境）作りについて
	村 上 俊 祐 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （テニス）	テニスにおけるサービスやグラウンドストロークの技術評価に取り組んでおり、そうした評価やニーズ分析に基づいたトレーニング実践による競技力向上の過程に関する研究を進めている。また、テニスの指導者講習を実践するとともに、より効果的な指導者養成プログラムについても検討している。
	山 口 大 貴 （講師）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	自転車競技を中心に、技能改善および競技力向上に関する実践研究に取り組んでいる。具体的には、自転車競技者および指導者が有している運動技能や実践知を、簡易的な機材や映像等を用いて客観的に可視化し、その指標がどのように活用できるか検討している。その他、スポーツ用自転車を用いた安全な走行技能を修得するための指導法についても探求している。
	山 下 龍一郎 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （体操競技） ・コーチング学特講【夜間】 ・コーチング学特講演習【夜間】	スポーツ運動学の理論に基づき、実践に定位した研究を行なっている。主に体操競技について、技術や動きのコツとカン、技の狂い、動きの習熟、修正を対象とした発生的分析、動きの生成と消滅の過程に関する静態的分析、動きの構造、競技規則等に関する構造分析を行なっている。一般的にいう意識的（顕在的）な内容だけでなく、無意識的（潜在的）な内容の解明を進める。

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目
授 業 の み を 担 当 す る 教 員	国 重 徹 (教授)	・スポーツ科学英語特講Ⅱ
	吉 重 美 紀 (教授)	・スポーツ科学英語特講Ⅱ
	David Elmes (准教授)	・スポーツ科学英語特講Ⅰ
	萬 久 博 敏 (准教授)	・スポーツコーチング学特講演習 (水泳) ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	石 澤 里 枝 (講師)	・スポーツ栄養学特講 ・スポーツ栄養学特講演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	榮 樂 洋 光 (講師)	・スポーツコーチング学特講演習 (海洋スポーツ)
	坂 口 俊 哉 (講師)	・野外教育論特講 ・野外教育論特講演習
	中 村 勇 (講師)	・スポーツ史・運動文化論特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習
	宮 崎 輝 光 (講師)	・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・身体科学論特講演習（体力科学） ・スポーツバイオメカニクス 特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス 特講演習【夜間】

【非常勤講師】

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目
授 業 の み を 担 当 す る 教 員	石 走 知 子 (非常勤講師)	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	大 勝 志津穂 (非常勤講師)	・生涯スポーツ学特講 ・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】 ・コミュニティ・スポーツ論特講 ・コミュニティ・スポーツ論特講演習
	川 島 克 介 (非常勤講師)	・キャリアデザイン演習
	真 田 久 (非常勤講師)	・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論 特講演習【夜間】
	鈴 木 志保子 (非常勤講師)	・スポーツ栄養学特講【夜間】 ・スポーツ栄養学特講演習【夜間】
	町 田 修 一 (非常勤講師)	・運動生化学・分子細胞生物学特講 ・運動生化学・分子細胞生物学 特講演習
	宮 地 元 彦 (非常勤講師)	・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】
	ヨーコ ゼッターランド (非常勤講師)	・インストラクションデザイン演習

【連携大学院】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	井 福 裕 俊 （客員教授）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ・身体教育特講ⅡA【KR】 ・身体教育特講演習ⅡA【KR】	生理学・運動生理学の観点から、1）運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明、2）運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴、および3）運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。
	坂 本 将 基 （客員准教授）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講ⅡA【KR】 ・身体教育特講演習ⅡA【KR】	これまでは、ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について、神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は、主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し、この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
授業担当教員	塩 瀬 圭 佑 （客員准教授）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ・身体教育特講ⅡB【KR】 ・身体教育特講演習ⅡB【KR】	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について、特に下記のテーマで研究を行っている。1) 競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究、2) 生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究、3) 子どもの生活習慣と健康についての研究

V. 関 係 規 則

1. 鹿屋体育大学学則	114
2. 鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程	133
3. 鹿屋体育大学学位規則	165
4. 鹿屋体育大学学位細則	176
5. 鹿屋体育大学学位論文等の作成要領	205
6. 鹿屋体育大学修士論文の提出条件に関する申合せ	211
7. 鹿屋体育大学修士論文審査基準	214
8. 長期にわたる教育課程の履修に関する規程	216
9. 学生の成績等への異議申立てに関する申合せ	220

鹿屋体育大学学則

			〔平成16年 4月 1日〕		
			規 則 第 2 号		
改正	平成17年10月 6 日	平成25年 6 月14日	平成31年 3月22日	規 則 第 7 号	
	規 則 第 9 号	規 則 第 13 号	令和 元年 7月29日	規 則 第 29 号	
	平成18年 3 月 2 日	平成26年 3 月20日	令和 3年 1月28日	規 則 第 3 号	
	規 則 第 2 号	規 則 第 2 号	令和 4年 2月 2 日	規 則 第 2 号	
	平成19年 3 月22日	平成27年 3 月27日	令和 5年 月 日	規 則 第 号	
	規 則 第 5 号	規 則 第 24 号			
	平成20年 3 月19日	平成27年 4 月16日			
	規 則 第 2 号	規 則 第 38 号			
	平成23年 2 月 7 日	平成28年 3 月25日			
	規 則 第 3 号	規 則 第 8 号			
	平成24年 1 月24日	平成30年 3 月 1 日			
	規 則 第 1 号	規 則 第 12 号			
	平成24年 6 月 7 日	平成31年 3月11日			
	規 則 第 16 号	規 則 第 5 号			

鹿屋体育大学学則（昭和58年12月2日学則第1号）の全部を改正する。

目次

第1章 総則（第1条―第12条）

第1節 目的及び自己評価等（第1条―第4条）

第2節 教育研究組織（第5条―第8条）

第3節 職員組織（第9条）

第4節 学年、学期及び休業日等（第10条―第12条）

第2章 学部通則（第13条―第36条）

第1節 目的（第13条）

第2節 修業年限及び在学年限（第14条・第15条）

第3節 入学（第16条―第21条）

第4節 教育課程及び履修方法等（第22条―第32条）

第5節 卒業及び学士（第33条―第36条）

第3章 大学院通則（第37条―第54条）

第1節 目的（第37条）

第2節 標準修業年限及び在学年限（第38条・第39条）

第3節 入学（第40条―第44条）

第4節 教育課程及び履修方法等（第45条―第50条）

第5節 修了要件及び学位（第51条―第54条）

第4章 休学、転学、留学及び退学（第55条―第61条）

第1節 休学（第55条―第57条）

第2節 転学及び留学（第58条・第59条）

第3節 退学（第60条・第61条）

第5章 賞罰（第62条・第63条）

第6章 学生宿舍（第64条）

第7章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生

(第65条―第71条)

第8章 授業料その他の費用(第72条・第73条)

附則

第1章 総則

第1節 目的及び自己評価等

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人法(平成15年法律第112号)第2条第7項の規定に基づき、国立大学法人鹿屋体育大学が設置する鹿屋体育大学における修業年限、教育課程、教育研究組織その他の修学上必要な事項を定める。

(目的)

第2条 鹿屋体育大学(以下「本学」という。)は、学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する理論と実践を教授研究し、もって豊かな教養と高い学識及び優れた技能を合わせ備えた実践的、創造的な指導者を養成するとともにスポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する理論や実践の深奥をきわめ、その進展に寄与することを目的とする。

2 本学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

(自己評価等)

第3条 教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について絶えず自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、前項の点検及び評価に加え、第三者評価等の多様な評価の結果を、教育研究等の不断の改善・改革に反映させるものとする。

3 前2項の実施方法等については、別に定める。

(情報の積極的な提供及び公表)

第4条 本学は教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、教育研究活動等の状況について刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供及び公表するものとする。

第2節 教育研究組織

(学部、課程及び収容定員)

第5条 本学に、体育学部(以下「学部」という。)を置く。

2 学部に置く課程、入学定員及びその収容定員は、次のとおりとする。

課 程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
スポーツ総合課程	120人		480人
武 道 課 程	50		200
		20	40
計	170	20	720

(大学院、専攻及び収容定員)

第6条 本学に、大学院を置き、体育学研究科(以下「研究科」という。)を置く。

2 研究科の課程は、博士課程とし、これを前期2年の課程及び後期3年の課程に区分し、前期2

年の課程は、これを修士課程として取り扱う。

- 3 前項の前期2年の課程は、「修士課程」という。また、前項の後期3年の課程のうち、前期及び後期からなる課程を「博士後期課程」といい、後期3年の課程のみの博士課程を「3年制博士課程」という。
- 4 研究科に体育学専攻及び筑波大学との共同専攻を置き、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

体育学専攻

課 程	専 攻	入学定員	収容定員
修 士 課 程	体育学専攻	15	30
博 士 後 期 課 程	体育学専攻	6	18

筑波大学との共同専攻

課 程	専 攻	入学定員	収容定員
修 士 課 程	スポーツ国際開発学 共同専攻	3	6
3年制博士課程	大学体育スポーツ高 度化共同専攻	2	6

(教員組織)

第7条 本学に、教員組織として、次に掲げる系を置く。

スポーツ・武道実践科学系
スポーツ生命科学系
スポーツ人文・応用社会科学系

- 2 前項の系にそれぞれ系主任及び系副主任を置く。
- 3 系の組織に関し必要な事項は、別に定める。

第8条 削除

第3節 職員組織

(職員の種類)

第9条 本学の職員の種類は、学長、副学長、学長補佐、教授、准教授、専任講師、助教、助手、事務職員、技術職員、その他必要な職員とする。

第4節 学年、学期及び休業日等

(学年)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第11条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年の3月31日まで

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

- 一 日曜日
- 二 土曜日
- 三 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- 四 本学の開学記念日 10月1日
- 五 春期休業日 3月11日から3月31日まで
- 六 夏期休業日 8月1日から9月30日まで
- 七 冬期休業日 12月26日から翌年1月7日まで

2 学長は、必要がある場合には、前項の休業日を臨時に変更し、又は同項に定めるもののほか、臨時に休業日を定めることができる。

第2章 学部通則

第1節 目的

(目的)

第13条 本学学部は、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開しうる優れた実践的なスポーツ・健康に関する指導者を養成する。

第2節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第14条 本学学部の修業年限は、4年とする。ただし、第34条の規定による場合の修業年限は、3年以上4年未満とする。

(在学年限)

第15条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 第21条第1項の規定により入学を許可された者の在学することのできる年限は、別に定める。

第3節 入学

(入学資格)

第16条 本学学部に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により大学入学資格検定に合格した者を含む。）

八 本学学部において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の時期)

第17条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第21条第1項に規定する者については、学期の始めとすることができる。

(入学の出願)

第18条 本学学部に入學を志願する者は、入学願書に所定の検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第19条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第20条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学誓約書その他所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者（入学料の免除及び徴収猶予申請をしている者を含む。）に入学を許可する。

3 前2条に規定するもののほか、出願手続、入学者の選考及び入学手続について必要な事項は別に定める。

(編入学、転入学及び再入学)

第21条 次の各号の一に該当する者で、本学学部に入學を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

一 大学を卒業した者又は退学した者

二 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

三 外国において、前2号と同程度の課程を修了した者

四 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

五 他の大学に在学中の者で、現に在学する大学の学長又は学部長の転学の承認を得た者

六 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

3 前3条の規定は、第1項の入学に準用する。

第4節 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成方針)

第22条 本学学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(教育課程の編成方法等)

第23条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編制するものとする。

- 2 授業科目は、一般科目、キャリア形成科目、専門科目、専攻科目及び教職科目に区分する。
- 3 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技又はこれらの併用による多様な方法により行うものとする。
- 4 前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 5 第3項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 6 第3項の授業の一部は、文部科学大臣の定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 7 授業科目の名称、単位数及び履修方法等に関し必要な事項は、別に定める。

(各授業科目の授業期間)

第24条 各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

(成績評価基準等の明示等)

第25条 本学学部は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第25条の2 本学学部は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第26条 授業科目の単位を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

- 一 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - 二 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
 - 三 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第27条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 前項の規定にかかわらず、前条第2項に規定する授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

(授業科目の登録の上限)

第27条の2 履修科目として登録することができる単位数の上限については、別に定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより、上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 28 条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他の大学等の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議を経て、60 単位を超えない範囲で、本学学部における授業科目の履修により修得したものとみなす。
- 3 前 2 項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 29 条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 29 条に基づき文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の議を経て、本学学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 30 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学学部に入學する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準第 31 条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。）を、教授会の議を経て、本学学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学学部に入學する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、教授会の議を経て、本学学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前 2 項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、第 21 条に規定する編入学等の場合を除き、本学学部において修得した単位以外のものについては、第 28 条第 2 項及び第 3 項並びに前条第 2 項により本学学部において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第 30 条の 2 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項に関し、必要な事項は別に定める。

(修業年限の通算)

第 31 条 大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入學する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、文部科学大臣の定めるところにより、修得した単位数その他の事項を勘案して修学年数に通算することができる。ただし、その期間は、2 年を超えない範囲内とする。

(成績の評価)

第 32 条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C 及び D の 5 種の評語をもって表し、S、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とする。ただし、必要と思われる場合は、合格及び不合格の評語を用いることができる。

第5節 卒業及び学士

(卒業)

第33条 本学学部にて4年（第21条第1項の規定により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数）以上在学し、別に定めるところにより、合計124単位以上を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(早期卒業)

第34条 前条の規定にかかわらず、本学学部にて3年以上在学し、別に定めるところにより、合計124単位以上を優秀な成績で修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 前条第2項の規定は、前項の場合にこれを準用する。

(学士の学位)

第35条 本学学部を卒業した者には、学士（体育学）の学位を授与する。

2 学士（体育学）の学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

(教員の免許状授与の所要資格の取得)

第36条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学学部において、当該所要資格を取得できる教員免許状の種類は次のとおりとする。

- 一 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 二 中学校教諭一種免許状（保健体育）

第3章 大学院通則

第1節 目的

(大学院体育学研究科の目的)

第37条 本学大学院は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する学術の理論及び応用と実践が一体となった教育研究を展開し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、スポーツ・武道文化の進展及び国民の健康の増進に寄与する。

(修士課程体育学専攻の目的)

第37条の2 修士課程体育学専攻は、学部での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的とする。

さらに、社会人の再教育、海外の留学生の受入れによる教育研究の国際交流を図り、これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざす。

(博士後期課程体育学専攻の目的)

第37条の3 博士後期課程体育学専攻は、修士課程での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における諸科学等の研究の成果を学際的・統合的に把握し、新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる研究者や指導者の養成を目的とする。

さらに、社会人、国際的水準のアスリート、海外からの留学生を積極的に受入れ、国際的な教

育研究の推進を図るとともに、教育研究の国際交流を通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざす。

（修士課程スポーツ国際開発学共同専攻の目的）

第 37 条の 4 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻は、スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与し、指導的役割を担うことのできる高度専門職業人・研究者を養成することを目的とする。

（3 年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻の目的）

第 37 条の 5 3 年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻は、筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える学術的職業人としての高度な体育教員を養成することを目的とする。

第 2 節 標準修業年限及び在学年限

（標準修業年限）

第 38 条 本学修士課程の標準修業年限は、2 年とし、博士後期課程及び 3 年制博士課程の標準修業年限は、3 年とする。

（在学年限）

第 39 条 本学修士課程は、4 年を超えて在学することができない。

2 第 44 条第 1 項の規定により入学を許可された者の在学することができる年限は、別に定める。

3 本学博士後期課程及び 3 年制博士課程は、6 年を超えて在学することができない。

第 3 節 入学

（修士課程の入学資格）

第 40 条 本学修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- 一 学校教育法第 83 条第 1 項に規定する大学を卒業した者
- 二 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 五 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 六 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 七 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 八 文部科学大臣の指定した者
- 九 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院におい

て、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

十 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者であつて、本学大学院において、所定の単位を優秀な成績で修得したと認めるものを、修士課程に入学させることができる。

一 学校教育法第83条第1項に規定する大学に3年以上在学した者

二 外国において学校教育における15年の課程を修了した者

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

四 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

（博士後期課程及び3年制博士課程の入学資格）

第41条 本学博士後期課程及び3年制博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

一 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28条文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者

二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

五 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

六 外国の学校、第四号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

七 文部科学大臣の指定した者

八 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

（入学の時期）

第42条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、教育研究上の必要があると認められるときには、学期の始めとすることができる。

2 前項ただし書きに規定する入学の時期については、別に定める。

（入学の出願及び入学手続き等）

第43条 本学大学院の入学の出願、入学者の選考、入学手続き及び入学許可については、第18条から第20条までの規定を準用する。

（転入学及び再入学）

第44条 次の各号の一に該当する者で、本学大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

一 大学院を修了した者又は退学した者

二 他の大学院に在学中の者で、現に在学する大学の学長の転学の承認を得た者

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、大学院体育学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て、学長が決定する。
- 3 第18条から第20条までの規定は、第1項の入学に準用する。

（教育課程の編成方針）

- 第44条の2 本学大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。
- 2 教育課程の編成に当たっては、本学大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。
 - 3 大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

第3章 大学院通則

第4節 教育課程及び履修方法等

（教育課程）

- 第45条 修士課程体育学専攻の教育課程は、各授業科目を共通科目、基礎科目、応用科目及び課題研究科目に分け、博士後期課程体育学専攻の教育課程は、各授業科目を共通科目及び専門科目に分けて編成するものとする。
- 2 授業科目の種類及び単位数等に関し必要な事項は、別に定める。

（筑波大学との共同専攻における共同教育課程）

- 第45条の2 筑波大学との共同専攻における共同教育課程は、前条第1項の規定にかかわらず、筑波大学との共同専攻及び共同学位プログラムにおける教育課程の授業科目の区分について、スポーツ国際開発学共同専攻及びスポーツ国際開発学共同学位プログラムは、講義科目、演習科目及び実践科目とし、大学体育スポーツ高度化共同専攻及び高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラムは、実践的教育能力育成科目、実践的研究能力育成科目、高度指導者教養育成科目及び博士論文研究能力育成科目とする。
- 2 授業科目の種類及び単位数等に関し必要な事項は、別に定める。

（単位の計算方法及び成績の評価等）

- 第46条 本学大学院の授業科目の単位の計算方法、単位の授与及び成績の評価については、第26条第1項及び第27条第1項並びに第32条の規定を準用する。
- なお、筑波大学との共同専攻及び共同学位プログラムにおいて、筑波大学で開講する授業科目の単位の計算方法、単位の授与及び成績の評価については、筑波大学の規定を準用する。

（授業の方法及び各授業科目の授業期間）

- 第46条の2 授業の方法及び各授業科目の授業期間については、第23条第3項から第6項まで及び第24条の規定を準用する。
- なお、筑波大学との共同専攻及び共同学位プログラムにおいて、筑波大学で開講する授業科目の授業の方法及び各授業科目の授業期間については、筑波大学の規定を準用する。

（教育方法の特例）

- 第47条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第 47 条の 2 本学大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容の改善のための組織的な研修等)

第 47 条の 3 本学大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(他大学院の授業科目の履修)

第 48 条 教育研究上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、研究科委員会の議を経て、15 単位を超えない範囲で、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす。

3 前 2 項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合について準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第 49 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準第 15 条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。）を、研究科委員会の議を経て、15 単位を超えない範囲で、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、第 44 条に規定する転入学等の場合を除き、本学大学院において修得した単位以外のものについては、前条第 2 項により本学大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて 20 単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第 49 条の 2 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項に関し、必要な事項は別に定める。

(在学期間の短縮)

第 49 条の 3 修士課程は第 48 条及び第 49 条の規定により、入学する前に修得した単位（学校教育法第 102 条第 1 項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を当該課程において修得したものとみなす場合であって当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本学大学院が定める期間在学したものとみなすことができるものとする。ただし、この場合においても、当該課程については少なくとも 1 年以上在学するものとする。

(研究指導委託)

第 50 条 教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等（以下「他の大学院等」という。）との協議に基づき、学生に当該他の大学院等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程においては、当該研究指導を受ける期間は 1 年を超えないものとする。

第5節 修了要件及び学位

(修了要件)

第51条 本学修士課程の修了の要件は、当該課程に2年（修業年限を4年と定められた者については、当該修業年限及び第44条第1項の規定により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 本学博士後期課程及び3年制博士課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について博士後期課程は10単位以上、3年制博士課程は14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上在学すれば足りるものとする。

- 一 修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含み3年以上
- 二 修士課程において優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で修了した者又は標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程及び専門職学位課程を修了した者にあつては、当該課程における在学期間を含み3年以上
- 三 修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が入学した場合にあつては、1年以上

(論文審査の協力)

第52条 本学が必要があると認めたときは、論文の審査について、他の大学院等の教員等の協力を求めることができる。

(学位)

第53条 本学修士課程を修了した者には、修士（体育学）の学位を授与する。

2 前項の規定にかかわらず、筑波大学との共同専攻及び共同学位プログラムの教育課程を修了した者には、修士（スポーツ国際開発学）の学位を授与する。

3 本学博士後期課程を修了した者には、博士（体育学）の学位を授与する。

4 前項の規定にかかわらず、筑波大学との共同専攻及び共同学位プログラムの教育課程を修了した者には、博士（体育スポーツ学）の学位を授与する。

5 修士（体育学）、修士（スポーツ国際開発学）、博士（体育学）及び博士（体育スポーツ学）の学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

(教員の免許状授与の所要資格の取得)

第54条 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許教科に係る中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとするものは、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学大学院において、当該所要資格を取得できる教員免許状の種類は次のとおりとする。

- 一 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
- 二 中学校教諭専修免許状（保健体育）

第4章 休学、転学、留学及び退学

第1節 休学

(休学)

第 55 条 疾病その他特別の事由により引き続き 2 月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は、疾病その他特別の事由により修学することが適当でないと認められる者については、教授会又は研究科委員会の議を経て、休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第 56 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事由があると認められるときは、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して 2 年を超えることはできない。

3 休学期間は、第 14 条及び第 38 条に定める修業年限並びに第 15 条及び第 39 条に定める在学年限に算入しない。

(復学)

第 57 条 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

第 2 節 転学及び留学

(転学)

第 58 条 他の大学等（大学院を含む。以下同じ。）に入学又は転入学を志願する者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第 59 条 外国の大学等で修学することを志願する者は、学長の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第 15 条及び第 39 条に定める在学年限に含めることができる。

3 第 28 条及び第 48 条の規定は、第 1 項の留学の場合に準用する。

第 3 節 退学

(退学)

第 60 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第 61 条 次の各号の一に該当する者は、教授会又は研究科委員会の議を経て、学長が除籍する。

一 第 15 条及び第 39 条に定める在学年限を超えた者

二 第 56 条第 2 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

三 長期間にわたり行方不明の者

四 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

五 入学料の免除又は徴収猶予を申請した者のうち、不許可又は一部免除若しくは徴収猶予が認められた者で所定の期日までに入学料を納付しない者

第 5 章 賞罰

(表彰)

第 62 条 学生として表彰に価する行為があった者は、教授会又は研究科委員会の議を経て、学長

が表彰することができる。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第 63 条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があった者は、教授会又は研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがない者

二 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

三 正当な理由がなくて出席常でない者

四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学の期間は、第 15 条及び第 39 条に定める在学年限に算入し、第 14 条及び第 38 条に定める修業年限に算入しない。ただし、特別の事情がある場合には、教授会又は研究科委員会の議を経て、修業年限に算入することができる。

第 6 章 学生宿舍

(学生宿舍)

第 64 条 本学に学生宿舍を置く。

2 学生宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

第 7 章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第 65 条 本学において、一又は複数の授業科目を履修し、当該授業科目に関する単位の授与を志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を授与する。

2 前項の単位の授与については、第 27 条第 1 項の規定を準用する。

(研究生)

第 66 条 本学において、特定の専門事項について、研究を志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

(聴講生)

第 67 条 本学において、特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

(特別聴講学生)

第 68 条 他の大学及び大学院の学生で、本学において、一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

(特別研究学生)

第 69 条 他の大学の大学院の学生で、本学大学院の研究科において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他大学院との協議に基づき、特別研究学生として入学を許可することがある。

(外国人留学生)

第70条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

(その他)

第71条 この章に定めるほか、科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 授業料その他の費用

(授業料等の額及び徴収方法)

第72条 授業料、入学料、検定料及び寄宿料の額並びにその徴収方法は、国立大学法人鹿屋体育大学における授業料その他の費用に関する規程（以下「費用規程」という。）の定めるところによる。

2 既納の授業料、入学料、検定料及び寄宿料は、還付しない。ただし、費用規程第3条第4項により入学を許可するときに授業料を納付した者が、入学する年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により当該授業料相当額を返還することができる。

(授業料等の免除及び猶予)

第73条 経済的理由によって授業料等の納付が困難であると認められ、かつ、学業優秀と認められるとき又はその他やむを得ない事情があると認められるときは、別に定めるところにより授業料、入学料及び寄宿料の全部若しくは一部を免除し、又は徴収を猶予することができる。

2 授業料等免除及び徴収の猶予の取扱いについて必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成16年度から平成17年度までにおける大学院体育学研究科の博士後期課程の収容定員は、第7条第4項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

年 度	平成16年度	平成17年度
博士後期課程 の 収 容 定 員	6	12

附 則（平17.10.6規則第9号）

この規則は、平成17年10月6日から施行する。

附 則（平18.3.2規則第2号）

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 体育・スポーツ課程は、第5条第2項の規定にかかわらず、当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 体育学部の収容定員は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成18年度から平成20年度については、次の表のとおりとする

課程及び3年次編入学	収容定員		
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
スポーツ総合課程	120人	240人	360人

体育・スポーツ課程	300	200	100
武道課程	200	200	200
3年次編入学	20	20	20
計	640	660	680

附 則（平19.3.22規則第5号）

- この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 平成19年度から平成20年度までにおける大学院体育学研究科の博士後期課程の収容定員は、第7条第4項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

年 度	平成19年度	平成20年度
博士後期課程 の収容定員	20	22

附 則（平20.3.19規則第2号）

- この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年度における体育学部の収容定員は、第5条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

課程及び3年次編入学	収容定員
	平成20年度
スポーツ総合課程	360人
体育・スポーツ課程	100
武道課程	200
3年次編入学	30
計	690

附 則（平23.2.7規則第3号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平24.1.24規則第1号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、第41条の規定については平成23年4月1日から適用する。

附 則（平24.6.7規則第16号）

この規則は、平成24年6月7日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平25.6.14規則第13号）

この規則は、平成25年6月14日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平26.3.20規則第2号）

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平27.3.27規則第24号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平27.4.16規則第38号）

この規則は、平成27年4月16日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平28.3.25 規則第8号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 体育学専攻及び筑波大学との共同専攻の収容定員は、第6条第4項の規定にかかわらず、平成28年度から平成29年度については、次の表のとおりとする。

体育学専攻

課 程	専 攻	収 容 定 員	
		平成28年度	平成29年度
修 士 課 程	体育学専攻	33	30
博 士 後 期 課 程	体育学専攻	22	20

筑波大学との共同専攻

課 程	専 攻	収 容 定 員	
		平成28年度	平成29年度
修 士 課 程	スポーツ国際開発学共同専攻	3	6
3年制博士課程	大学体育スポーツ高度化共同専攻	2	4

附 則（平30.3.1 規則第12号）

この規則は、平成30年3月1日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平31.3.11 規則第5号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（平31.3.22 規則第7号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令元.7.29 規則第29号）

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 筑波大学との共同専攻の収容定員は、改正後の第6条第4項の規定にかかわらず、令和2年度及び令和3年度については、次の表のとおりとする。

筑波大学との共同専攻

入学年度	課 程	専 攻	収 容 定 員	
			令和2年度	令和3年度
令和元年度 以前入学	修 士 課 程	スポーツ国際開発学共同専攻	3	
	3年制博士課程	大学体育スポーツ高度化共同専攻	4	2
令和2年度 以降入学	修 士 課 程	スポーツ国際開発学共同専攻	3	6

	後期３年の課程 のみの博士課程	大学体育スポーツ 高度化共同専攻	2	4
--	--------------------	---------------------	---	---

- ３ 令和元年度以前の入学生を対象とした修士課程スポーツ国際開発学共同専攻及び３年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻は、改正後の第６条第４項の規定にかかわらず、令和２年３月３１日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（令３．１．２８規則第３号）
この規則は、令和３年１月２８日から施行する。

附 則（令４．２．２規則第２号）
この規則は、令和４年４月１日から施行する。

附 則（令５．．．規則第．．．号）
この規則は、令和５年．．．月に施行する。

鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程

〔平成 2 年 1 月 1 7 日〕
規 程 第 2 号

改正	平成 5 年 2 月 1 8 日	平成 1 9 年 5 月 1 0 日	平成 2 8 年 3 月 2 5 日	令和 3 年 6 月 2 4 日
	規 程 第 1 号	規 程 第 1 1 号	規 程 第 2 号	規 程 第 3 5 号
	平成 8 年 1 2 月 2 7 日	平成 2 0 年 4 月 3 日	平成 2 9 年 6 月 1 9 日	令和 3 年 7 月 1 日
	規 程 第 1 3 号	規 程 第 6 号	規 程 第 1 2 号	規 程 第 3 6 号
	平成 1 0 年 1 2 月 2 8 日	平成 2 1 年 3 月 1 9 日	平成 3 0 年 3 月 2 0 日	令和 3 年 1 2 月 1 6 日
	規 程 第 1 0 号	規 程 第 3 号	規 程 第 1 号	規 程 第 4 6 号
	平成 1 0 年 7 月 2 7 日	平成 2 3 年 3 月 3 1 日	平成 3 0 年 6 月 2 7 日	令和 4 年 3 月 2 9 日
	規 程 第 3 号	規 程 第 1 3 号	規 程 第 1 4 号	規 程 第 7 号
	平成 1 5 年 3 月 3 1 日	平成 2 4 年 1 月 2 4 日	平成 3 1 年 3 月 4 日	令和 年 月 日
	規 程 第 8 号	規 程 第 1 号	規 程 第 4 号	規 程 第 号
	平成 1 6 年 3 月 3 1 日	平成 2 4 年 1 0 月 1 8 日	平成 3 1 年 4 月 1 9 日	
	規 程 第 1 2 号	規 程 第 1 1 号	規 程 第 1 3 号	
	平成 1 7 年 3 月 2 2 日	平成 2 6 年 3 月 2 0 日	令和元年 1 0 月 1 日	
	規 程 第 5 号	規 程 第 5 号	規 程 第 3 6 号	
	平成 1 9 年 3 月 2 2 日	平成 2 7 年 3 月 2 6 日	令和 2 年 3 月 2 6 日	
	規 程 第 1 0 号	規 程 第 8 号	規 程 第 6 号	

目次

- 第 1 章 総則（第 1 条）
- 第 2 章 体育学専攻の履修規程（第 2 条—第 1 2 条）
- 第 3 章 共同専攻の履修規程（第 1 3 条—第 2 2 条）
- 第 4 章 雑則（第 2 3 条）

第 1 章 総則

（趣旨）

第 1 条 この規程は、鹿屋体育大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、本学大学院体育学研究科の教育課程及び履修方法等に関し必要な事項を定める。

第 2 章 体育学専攻の履修規程

（指導教員及び副指導教員）

第 2 条 学生の学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行う教員として指導教員を、研究指導の補助を行う教員として副指導教員を置く。

- 2 指導教員は、鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程担当教員資格審査基準（平成元年 12 月 20 日学長裁定。以下、「基準」という。）第 1 条及び鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程担当教員資格審査基準（平成 18 年 7 月 26 日学長裁定）第 1 条に規定する教員とし、当該研究指導につき 1 名とする。
- 3 副指導教員は、研究科担当を命じられた教員（基準第 3 条に規定する「可適格者」を除く。）とし、当該研究指導につき修士課程については 2 名以内とし、博士後期課程については 2 名とする。
- 4 指導教員は、学生に対し 1 年間の研究指導計画等を修士課程研究指導計画書（別紙様式）、博士課程研究指導計画書（別紙様式）により明示すること。

（研究題目届等）

第3条 修士課程の学生は、指導教員等の指導を受け、別に定める日までに、研究題目届（別紙様式）を学長に提出しなければならない。

2 博士後期課程の学生は、指導教員等の指導を受け、別に定める日までに、指導教員・副指導教員願（別紙様式）、論文主題・研究計画書（別紙様式）、博士論文作成計画書（別紙様式）を学長に提出しなければならない。

（授業科目の区分等）

第4条 修士課程体育学専攻における授業科目の区分（科目、科目群、領域）及び内容は、次の表のとおりとする。

授業科目の区分			内 容
科目	科目群	領域	
共通	共通科目	共通	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な基礎的能力を養うための科目。
専門	基礎科目 及び 応用科目	スポーツ 総合科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目。
		スポーツ 文化・社会 科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの文化的、社会的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目。
		スポーツ 生命科学	スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目。
課題 研究	課題研究 科目	課題研究	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・研究法を活かし、修士学位論文としてまとめるための科目。

2 修士課程体育学専攻における授業科目の種類及び単位数等は、別表1のとおりとする。

第4条の2 博士後期課程体育学専攻における授業科目の区分（科目、科目群、領域）及び内容は、次の表のとおりとする。

授業科目の区分			内 容
科目	科目群	領域	
共通	共通 科目	共通	体育学分野の異なる専門領域の観点から、独創性のある研究テーマを解明するための研究手法、研究方法を学び、研究デザインを確立し、博士学位論文としてまとめる科目。
専門	専門 科目	スポーツ 総合科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する研究方法を深めるとともに、最新の研究動向や知見、研究成果を活用し、学際領域における統合的研究を遂行する上で必要な研究能力を高めるための科目。
		スポーツ 文化・社会 科学	スポーツ・武道及び体育・健康づくりの文化的及び社会科学的側面に関する研究方法を深めるとともに、最新の研究動向や知見、研究成果を活用し、学際領域における統合的研究を遂行する上で必要な研究能力を高めるための科目。

		スポーツ 生命科学	スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する研究方法を深めるとともに、最新の研究動向や知見、研究成果を活用し、学際領域における統合的研究を遂行する上で必要な研究能力を高めるための科目。
--	--	--------------	--

2 博士後期課程体育学専攻における授業科目の種類及び単位数等は、別表2のとおりとする。

(授業の方法等)

第5条 授業の方法及び担当教員は、別に定める。

(授業時間及び授業時間割)

第6条 教室等での授業時間並びに授業科目及び教室等の割振り（以下「授業時間割」という。）は、年度又は学期ごとに、別に定める。

2 前項に定めるもののほか、集中講義及び学外における授業時間並びに授業時間割は、別に定めることができる。

(学外における授業)

第7条 学外において授業を実施するときは、当該授業科目を担当する教員（以下「授業担当教員」という。）は、事前に学長の承認を得るものとする。

(履修科目の登録)

第8条 学生は、当該年度に履修しようとする授業科目について、予め当該授業科目の履修登録をしなければならない。

2 前項に定めるもののほか、履修登録に関し必要な事項は、別に定める。

(試験)

第9条 試験は、授業担当教員が、筆記、口述又は実技その他の方法により行うものとする。

2 前項に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は、別に定める。

(成績の評価)

第10条 学則第46条に規定する授業科目の成績は、授業担当教員が、試験の結果及び受講状況等を総合して、次の表のとおり評価する。

評 語	評 点	評 価 基 準	摘 要
S	90点～ 100点	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。	合格とし、単位を認定する。
A	80点～ 89点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	
B	70点～ 79点	到達目標を達成している。	
C	60点～ 69点	到達目標を最低限達成している。	
D	59点以下	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。
K	履修放棄		履修登録がなかったものとして取扱うが、年間に履修登録した単位数には含める。

(成績の異議申立て)

第10条の2 学生は、公開された成績の評価に疑義があると思われた場合、当該科目の授業担当教員に確認の後、異議を申し立てることができる。

2 前項に定めるもののほか、成績の異議申立てに関することは、別に定める。

(学位論文の提出及び最終試験)

第11条 学位論文の提出及び最終試験は、本学学位規則及び本学学位細則に定めるところによる。

(教育職員免許状の取得)

第12条 教育職員の免許状を受ける資格を取得しようとする学生は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

第3章 共同専攻の履修規程

(指導教員及び副指導教員)

第13条 研究指導を行う教員として指導教員を、研究指導の補助を行う教員として副指導教員を置く。

2 指導教員は、スポーツ国際開発学共同専攻の担当教員の資格認定手続きに関する申合せ（平成29年1月24日スポーツ国際開発学共同専攻運営委員会決定）第4（3）及び大学体育スポーツ高度化共同専攻の担当教員の資格認定手続きに関する申合せ（平成29年1月23日大学体育スポーツ高度化共同専攻運営委員会決定）第4（3）に規定する教員とし、当該研究指導につき1名とする。

3 副指導教員は、研究科担当を命じられた教員（基準第3条に規定する「可適格者」を除く。）とし、当該研究指導につき修士課程については2名以内とし、3年制博士課程については2名以上とする。

なお、副指導教員として、筑波大学の教員を必ず1名以上加えるものとする。

4 指導教員は、学生に対し1年間の研究指導計画等を修士課程研究指導計画書（別紙様式）、博士課程研究指導計画書（別紙様式）により明示すること。

(研究題目届等)

第14条 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻の学生は、指導教員等の指導を受け、別に定める日までに、研究題目届（別紙様式）を学長に提出しなければならない。

2 3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻の学生は、指導教員等の指導を受け、別に定める日までに、指導教員・副指導教員願（別紙様式）、論文主題・研究計画書（別紙様式）、博士論文作成計画書（別紙様式）を学長に提出しなければならない。

(授業科目の区分等)

第15条 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻における授業科目の区分及び内容は、次の表のとおりとする。

授業科目の区分			内 容
専 門 科 目	講 義	基 礎	以下の知識・能力を修得するための講義及び演習科目 1) 国際情勢と政策及び地球規模課題に対する分析力 2) グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力 3) スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力 4) 国際貢献のためのコミュニケーション力とマネジメント力
		応 用	
		関 連	
	演 習	学 内	
		学 外	
	実 践	母 国	国内（母国）、海外における実践現場での実習科目
		海 外	

- 2 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻（令和4年度以降入学生）における授業科目の種類及び単位数等は、別表3の1のとおりとする。
- 3 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻（令和2年度以降令和3年度以前入学生）における授業科目の種類及び単位数等は、別表3の2のとおりとする。
- 4 修士課程スポーツ国際開発学共同専攻（令和元年度以前入学生）における授業科目の種類及び単位数等は、別表3の3のとおりとする。

第15条の2 3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻における授業科目の区分及び内容は、次の表のとおりとする。

授業科目の区分		内 容
専 門 科 目	実践的教育能力 育成科目	大学体育や大学スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を身につける。
	実践的研究能力 育成科目	大学体育スポーツ現場の実践知を探究し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を身につける。
	博士論文研究能力 育成科目	実践的研究論文や博士論文研究計画書の作成力やプレゼンテーション力、高度大学体育スポーツ指導者として求められる実践的教育力を身につける。 QE（＝Qualifying Examination：博士論文研究能力審査）合格者に「博士論文課題演習Ⅱ」の単位を与える。
専 門 基 礎 科 目	高度指導者教養 育成科目	大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養を身につける。

- 2 3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻における授業科目の種類及び単位数等は、別表4のとおりとする。

(授業の方法等)

第16条 授業の方法及び担当教員は、別に定める。

(授業時間及び授業時間割)

第17条 授業時間割は、年度又は学期ごとに、別に定める。

2 前項に定めるもののほか、集中講義及び学外における授業時間並びに授業時間割は、別に定めることができる。

(学外における授業)

第18条 学外において授業を実施するときは、授業担当教員は、事前に学長の承認を得るものとする。

(履修科目の登録)

第19条 学生は、当該年度に履修しようとする授業科目について、予め当該授業科目の履修登録をしなければならない。

2 前項に定めるもののほか、履修登録に関し必要な事項は、別に定める。

(試験)

第20条 試験は、授業担当教員が、筆記、口述又は実技その他の方法により行うものとする。

2 前項に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は、別に定める。

(成績の評価)

第21条 学則第46条に規定する授業科目の成績は、授業担当教員が、試験の結果及び受講状況等を総合して、次の表のとおり評価する。

評 語	評 点	評 価 基 準	摘 要
A+	90点～100点	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績を修めている。	合格とし、単位を認定する。
A	80点～89点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	
B	70点～79点	到達目標を達成している。	
C	60点～69点	到達目標を最低限達成している。	
D	59点以下	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。

(成績の異議申立て)

第21条の2 学生は、公開された成績の評価に疑義があると思われた場合、当該科目の授業担当教員に確認の後、異議を申し立てることができる。

2 前項に定めるもののほか、成績の異議申立てに関することは、別に定める。

(学位論文の提出及び最終試験)

第22条 学位論文の提出及び最終試験は、本学学位規則及び本学学位細則に定めるところによる。

第4章 雑則

(雑則)

第23条 この規程に定めるもののほか、大学院体育学研究科の教育課程及び履修方法等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則
この規程は、平成2年1月17日から施行する。

附 則（平5. 2. 18規程第1号）
この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平8. 12. 27規程第13号）
この規程は、平成9年1月1日から施行する。

附 則（平10. 12. 28規程第10号）
この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平12. 7. 27規程第3号）
この規程は、平成12年8月1日から施行する。

- 附 則（平15. 3. 31規程第8号）
- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
 - 2 平成14年度以前の入学者については、第4条第1項及び第2項の規定にかかわらず、従前のとおりとする。

- 附 則（平16. 3. 31規程第12号）
- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
 - 2 平成14年度以前の入学者については、第4条の規定にかかわらず、従前のとおりとする。
 - 3 博士後期課程の指導教員については、第2条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日まで大学設置・学校法人審議会において㊤適格者と判定した者とする。
 - 4 博士後期課程の副指導教員については、平成19年3月31日まで大学設置・学校法人審議会において㊤又は適格者と判定した者とする。

附 則（平17. 3. 22規程第5号）
この規程は、平成17年3月22日から施行する。

附 則（平19. 3. 22規程第10号）
この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平19. 5. 10規程第11号）
この規程は、平成19年5月10日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平20. 4. 3規程第6号）
この規程は、平成20年4月3日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則（平21. 3. 19規程第3号）
この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平 23. 3. 31 規程第 13 号）
この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平 24. 1. 24 規程第 1 号）
この規程は、平成 24 年 1 月 24 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。
ただし、第 4 条の 2 及び別表 2 の規定は、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平 24. 10. 18 規程第 11 号）
この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

- 附 則（平 26. 3. 20 規程第 5 号）
- 1 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
 - 2 筑波大学との共同教育プログラムとして、平成 26 年度に開設する以下の科目については、
修士課程においては基礎科目又は応用科目として、博士後期課程においては専門科目として認
定する。

修士課程

科目 区分	授業科目名	単位数
基礎 科目	スポーツ国際開発教育プログラムⅠ Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅡ International Development and Peace through Sport (スポーツ国際開発論Ⅰ)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅢ Diffusion of Japanese Culture (日本文化伝播論)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅣ International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅤ Top Sports Studies (Anti-Doping Studies) (トップスポーツ論 (アンチドーピング論))	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅥ Management and Organization (経営マネジメント論)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅦ Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1
応用 科目	スポーツ国際開発教育プログラムⅧ JSC Seminar (J S C 研修会)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅨ JSC Project (J S C 事業)	1
	スポーツ国際開発教育プログラムⅩ On the job Practice (JSC; JOC; JASA; NFs; Organization of the prefecture)	2

博士後期課程

科目 区分	授業科目名	単位数
専門 科目	高度大学体育研究論Ⅰ (実践的研究演習)	1
専門 科目	高度大学体育研究論Ⅱ (大学体育論)	1

附 則 (平 2 7 . 3 . 2 6 規程第 8 号)
この規程は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。

なお、平成27年度から名称変更・単位数の変更・追加となった授業科目の取扱いについては以下のとおりとする。

修士課程

平成26年度以前開設科目	平成27年度以降開設科目
健康管理論特講（2単位）	健康運動学特講（1単位） ヘルスプロモーション論 （Health Promotion）（1単位）
スポーツ史特講（2単位）	スポーツ史特講（1単位） オリンピックムーブメント論 （Olympic Movement Studies）（1単位）
スポーツ社会学特講（2単位）	スポーツ社会学特講（1単位） スポーツプロモーション論 （Sport Promotion）（1単位）
スポーツ・レジャー産業論特講（2単位）	スポーツ・レジャー産業論特講（1単位） グローバルスポーツ産業論 （Studies on Global Sport Industry） （1単位）
健康管理論特講演習（2単位）	健康運動学特講演習（2単位）

※ 平成26年度以前開設科目欄の授業科目を修得した学生は、対応する平成27年度以降開設科目欄の授業科目を履修することができない。

博士後期課程

平成26年度以前開設科目	平成27年度以降開設科目
—	身体教育特殊研究A（2単位）
—	身体教育特殊研究B（2単位）
—	身体教育特殊研究演習A（2単位）
—	身体教育特殊研究演習B（2単位）
環境生理心理学特殊研究（2単位）	健康運動学特殊研究（2単位）
環境生理心理学特殊研究演習（2単位）	健康運動学特殊研究演習（2単位）

※ 平成26年度以前開設科目欄の授業科目を修得した学生は、対応する平成27年度以降開設科目欄の授業科目を履修することができない。

附 則（平28.3.25規程第2号）
この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平 29. 6. 19 規程第 12 号）
この規程は、平成 29 年 6 月 19 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平 30. 3. 20 規程第 1 号）
この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平 30. 6. 27 規程第 14 号）
この規程は、平成 30 年 6 月 27 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平 31. 3. 4 規程第 4 号）
この規程は、平成 31 年 3 月 4 日から施行する。

附 則（平 31. 4. 19 規程第 13 号）
この規程は、令和元年 5 月 1 日から施行する。

附 則（令元. 10. 1 規程第 36 号）
この規程は、令和元年 10 月 1 日から施行し、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

- 附 則（令 2. 3. 26 規程第 5 号）
- 1 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
 - 2 3 年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻に在籍する者については、改正後の第 13 条、14 条及び第 15 条の 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令 3. 6. 24 規程第 35 号）
この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令 3. 7. 1 規程第 36 号）
この規程は、令和 3 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（令 3. 12. 16 規程第 46 号）
この規程は、令和 3 年 12 月 16 日から施行する。

附 則（令 4. 3. 29 規程第 7 号）
この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令 5. . 規程第 号）
この規程は、令和 5 年 月 日から施行する。ただし、第 4 条の 2 の規定は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

修士課程研究指導計画書

学籍番号 _____ () 年次 _____

学生名 _____

研究題目 _____

指導教員名 _____

学年	月	研究指導内容	授業履修関係指導内容	備考
() 年次	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	1			
	2			
	3			

別紙様式（第2条第4項及び第13条第4項関係）

博士課程研究指導計画書

学籍番号 _____ () 年次

指導教員名 _____

学生名 _____

研究題目 _____

学年	月	研究指導内容	授業履修関係指導内容	備考
() 年次	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	1			
	2			
	3			

別紙様式（第3条第1項及び第14条第1項関係）

研 究 題 目 届

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科修士課程
令和 年度入学
氏 名

研 究 題 目	
指 導 教 員	
副指導教員	

指導教員・副指導教員願

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科 課程
令和 年度入学
氏 名

研究テーマ	
研究計画	
指導教員	
副指導教員	

論文主題・研究計画書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科 課程
令和 年度入学
氏 名

論文主題	
研究計画	
指導教員	
副指導教員	

別紙様式（第3条第2項及び第14条第2項関係）

博士論文作成計画書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科 課程
令和 年度入学
氏 名

博士論文主題	
博士論文 作成計画	
指導教員	
副指導教員	

＊ 博士論文作成計画欄は、別紙添付も可

別表 1 (第4条関係)

科目	科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数			
						必修	選必	選択	計
共通	共通科目	共通		スポーツ科学リテラシー特講	2	2			6
				スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	2	2			
				スポーツ科学セミナー	1	1			
				スポーツ科学英語特講Ⅰ	1	1			
				スポーツ科学英語特講Ⅱ	2				20
				インストラクションデザイン演習	1				
				キャリアデザイン演習	1				
				コープ特講演習・実習	2～4				
専門	基礎科目	スポーツ総合科学		ヘルスサイエンス特講	2				
				健康教育学特講	2				
				運動処方論特講	2				
				トレーニング科学特講	2				
				スポーツコーチング学特講	2				
				武道指導論特講	2				
				スポーツパフォーマンス学特講	2				
			いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特講【夜間】	2				
				トレーニング科学特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	コーチング学特講【夜間】	2				
				コーチング学特講【TSC】	※				
		スポーツ文化・社会科学		スポーツ史・運動文化論特講	2				
				武道論特講	2				
				スポーツ法・倫理特講	2				
				生涯スポーツ学特講	2				
				野外教育論特講	2				
				スポーツ社会学特講	2		*1	*2	
				コミュニティ・スポーツ論特講	2				
				スポーツマネジメント論特講	2		6	8	
			いずれか1科目履修可能	スポーツ史・運動文化論特講【夜間】	2				
				スポーツ史・運動文化論特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特講【夜間】	2				
				生涯スポーツ学特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特講【夜間】	2				
				スポーツ社会学特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	スポーツマネジメント論特講【夜間】	2				
				スポーツマネジメント論特講【TSC】	※				
		スポーツ生命科学		スポーツ心理学特講	2				
				スポーツ医科学特講	2				
				スポーツ生理学特講	2				
				身体科学論特講	2				
				スポーツバイオメカニクス特講	2				
				運動生化学・分子細胞生物学特講	2				
				スポーツ栄養学特講	2				
			いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特講【夜間】	2				
				スポーツ心理学特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	体力科学特講【夜間】	2				
				体力科学特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特講【夜間】	2				
				スポーツバイオメカニクス特講【TSC】	※				
			いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特講【夜間】	2				
				スポーツ栄養学特講【TSC】	※				
				身体教育特講Ⅰ【KR】	2				
				身体教育特講ⅡA【KR】	2				
				身体教育特講ⅡB【KR】	2				

科目 科目	科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数			
						必修	選必	選択	計
専門	応用科目	スポーツ総合科学		ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学）	2				
				ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学）	2				
				ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス）	2				
				健康教育学特講演習	2				
				運動処方論特講演習	2				
				トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論）	2				
				トレーニング科学特講演習（トレーニング科学）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック））	2				
				スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	2				
				スポーツコーチング学特講演習（水泳）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（体操競技）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（サッカー）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（テニス）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）	2				
				スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ）	2				
				武道指導論特講演習（剣道）	2				
				武道指導論特講演習（柔道）	2				
				スポーツパフォーマンス学特講演習	2				
			いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特講演習【夜間】	2				
				トレーニング科学特講演習【TSC】※					
			いずれか1科目履修可能	コーチング学特講演習【夜間】	2				
				コーチング学特講演習【TSC】※					
		スポーツ文化・社会科学		スポーツ史・運動文化論特講演習	2				
				武道論特講演習	2				
				スポーツ法・倫理特講演習	2				
				生涯スポーツ学特講演習	2				
				野外教育論特講演習	2				
				スポーツ社会学特講演習	2				
				コミュニティ・スポーツ論特講演習	2				
				スポーツマネジメント論特講演習	2				
			いずれか1科目履修可能	スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】	2				
スポーツ史・運動文化論特講演習【TSC】※									
いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特講演習【夜間】		2						
	生涯スポーツ学特講演習【TSC】※								
いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特講演習【夜間】		2						
	スポーツ社会学特講演習【TSC】※								
いずれか1科目履修可能	スポーツマネジメント論特講演習【夜間】		2						
	スポーツマネジメント論特講演習【TSC】※								

科目	科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数			
						必修	選必	選択	計
専門	応用科目	スポーツ生命科学		スポーツ心理学特講演習	2				
				スポーツ医科学特講演習	2				
				スポーツ生理学特講演習	2				
				身体科学論特講演習（体力科学）	2				
				身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）	2				
				身体科学論特講演習（身体機能論）	2				
				スポーツバイオメカニクス特講演習	2				
				運動生化学・分子細胞生物学特講演習	2				
				スポーツ栄養学特講演習	2				
			いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特講演習【夜間】	2				
				スポーツ心理学特講演習【TSC】		※			
			いずれか1科目履修可能	体力科学特講演習【夜間】	2				
				体力科学特講演習【TSC】		※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】	2				
				スポーツバイオメカニクス特講演習【TSC】		※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特講演習【夜間】	2				
				スポーツ栄養学特講演習【TSC】		※			
				身体教育特講演習Ⅰ【KR】	2				
				身体教育特講演習ⅡA【KR】	2				
				身体教育特講演習ⅡB【KR】	2				
課題研究	課題研究科目	課題研究領域		課題研究	4	4			4
計						10	12	8	30

(注1) *1：基礎科目及び応用科目からそれぞれ6単位を修得すること。

(注2) *2：必修科目（10単位）及び上記の所要単位（12単位）を除いた残り8単位については、共通科目、基礎科目及び応用科目から修得（8単位以上）し、合計30単位以上を修得すること。

(注3) ※の授業科目は、令和4年度以降は開講しない。

(注4) 基礎科目（特講）及び応用科目（特講演習）は、セットで開講しているので、できるだけ両科目とも履修すること。

(注5) 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目。

(注6) 授業科目名に【KR】と付記してある科目については、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目。

別表2の1 (第4条の2関係)

科目	科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数		
						必修	選択	計
共通	共通科目	共通領域		統合研究セミナー	2	2		2
				体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】	1			
				体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】	1			
				コープ特殊研究・実習	2～4			
専門	専門科目	スポーツ総合科学領域		スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究	2			
				スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究演習	2			
				ヘルスサイエンス特殊研究	2			
				ヘルスサイエンス特殊研究演習	2			
				運動処方論特殊研究	2			
				運動処方論特殊研究演習	2			
				トレーニング科学特殊研究	2			
				トレーニング科学特殊研究演習	2			
				コーチング学特殊研究	2			
				コーチング学特殊研究演習	2			
				アスリート・トレーニング科学特殊研究【JISS】	2			
				アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】	2			
				スポーツ情報特殊研究【JISS】	2			
				スポーツ情報特殊研究演習【JISS】	2			
				身体教育特殊研究A【KR】	2			
				身体教育特殊研究演習A【KR】	2			
				身体教育特殊研究B【KR】	2			
				身体教育特殊研究演習B【KR】	2			
			いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特殊研究【夜間】	2			
				トレーニング科学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特殊研究演習【夜間】	2			
				トレーニング科学特殊研究演習【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究【夜間】	2			
				コーチング学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究演習【夜間】	2			
				コーチング学特殊研究演習【TSC】	※			
		スポーツ文化・社会科学領域		スポーツ史特殊研究	2			
				スポーツ史特殊研究演習	2			
				スポーツ社会学特殊研究	2			
				スポーツ社会学特殊研究演習	2			
				生涯スポーツ学特殊研究	2			
				生涯スポーツ学特殊研究演習	2			
				スポーツ経営学特殊研究	2			
				スポーツ経営学特殊研究演習	2			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特殊研究【夜間】	2			
				スポーツ社会学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】	2			
				スポーツ社会学特殊研究演習【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特殊研究【夜間】	2			
				生涯スポーツ学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】	2			
				生涯スポーツ学特殊研究演習【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ経営学特殊研究【夜間】	2			
				スポーツ経営学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】	2			
				スポーツ経営学特殊研究演習【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】	2			
				スポーツ歴史人類学特殊研究【TSC】	※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】	2			
				スポーツ歴史人類学特殊研究演習【TSC】	※			

科目	科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数						
						必修	選択	計				
専門	専門科目	スポーツ生命科学領域		スポーツ心理学特殊研究	2							
				スポーツ心理学特殊研究演習	2							
				スポーツ医科学特殊研究	2							
				スポーツ医科学特殊研究演習	2							
				スポーツ生理学特殊研究	2							
				スポーツ生理学特殊研究演習	2							
				体力科学特殊研究	2							
				体力科学特殊研究演習	2							
				スポーツバイオメカニクス特殊研究	2							
				スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	2							
		スポーツ生命科学領域		スポーツ栄養学特殊研究	2							
				スポーツ栄養学特殊研究演習	2							
				アスリート医科学特殊研究【JISS】	2							
				アスリート医科学特殊研究演習【JISS】	2							
			いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特殊研究【夜間】	2							
				スポーツ心理学特殊研究【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】	2							
				スポーツ心理学特殊研究演習【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	体力科学特殊研究【夜間】	2							
				体力科学特殊研究【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	体力科学特殊研究演習【夜間】	2							
				体力科学特殊研究演習【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】	2							
				スポーツバイオメカニクス特殊研究【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】	2							
				スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特殊研究【夜間】	2							
				スポーツ栄養学特殊研究【TSC】					※			
			いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特殊研究演習【夜間】	2							
				スポーツ栄養学特殊研究演習【TSC】					※			
			計						2	8	10	

(注1) 統合研究セミナー（2単位）及びその他の科目の中から8単位以上を修得し、合計10単位以上とすること。

(注2) ※の授業科目は、令和4年度以降は開講しない。

(注3) 授業科目名に【KR】と付記してある科目については、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目。

(注4) 授業科目名に【JISS】と付記してある科目については、国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目。

(注5) 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目。

別表2の2 (第4条の2関係)

科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数		
					必修	選択	計
専門科目	共通		統合研究セミナー	2	2		2
		いずれか1科目履修可能	体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】	1			
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ※2				
		いずれか1科目履修可能	体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】	1			
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ※2				
		コープ特殊研究・実習	2～4				
	スポーツ総合科学		スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究	2			
			スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習	2			
		いずれか1科目履修可能	ヘルスサイエンス特殊研究	2			
			健康運動学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	ヘルスサイエンス特殊研究演習	2			
			健康運動学特殊研究演習※2				
			運動処方論特殊研究	2			
			運動処方論特殊研究演習	2			
			トレーニング科学特殊研究	2			
			トレーニング科学特殊研究演習	2			
		いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究	2			
			スポーツ・コーチング学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究演習	2			
			スポーツ・コーチング学特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	アスリート・トレーニング科学特殊研究【JISS】	2			
			アスリート・トレーニング科学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】	2			
			アスリート・トレーニング科学特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ情報特殊研究【JISS】	2			
			スポーツ情報特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ情報特殊研究演習【JISS】	2			
			スポーツ情報特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	身体教育特殊研究A【KR】	2			
			身体教育特殊研究A※2				
		いずれか1科目履修可能	身体教育特殊研究演習A【KR】	2			
			身体教育特殊研究演習A※2				
		いずれか1科目履修可能	身体教育特殊研究B【KR】	2			
			身体教育特殊研究B※2				
		いずれか1科目履修可能	身体教育特殊研究演習B【KR】	2			
			身体教育特殊研究演習B※2				
		いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特殊研究【夜間】	2			
			トレーニング科学特殊研究【TSC】※1				
			応用トレーニング科学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	トレーニング科学特殊研究演習【夜間】	2			
			トレーニング科学特殊研究演習【TSC】※1				
			応用トレーニング科学特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究【夜間】	2			
			コーチング学特殊研究【TSC】※1				
			応用スポーツ・コーチング学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	コーチング学特殊研究演習【夜間】	2			
			コーチング学特殊研究演習【TSC】※1				
			応用スポーツ・コーチング学特殊研究演習※2				

科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数		
					必修	選択	計
専門科目	スポーツ文化・社会科学		スポーツ史特殊研究	2			
			スポーツ史特殊研究演習	2			
			スポーツ社会学特殊研究	2			
			スポーツ社会学特殊研究演習	2			
			生涯スポーツ学特殊研究	2			
			生涯スポーツ学特殊研究演習	2			
			スポーツ経営学特殊研究	2			
			スポーツ経営学特殊研究演習	2			
		いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特殊研究【夜間】				
			スポーツ社会学特殊研究【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ社会学特殊研究 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】				
			スポーツ社会学特殊研究演習【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ社会学特殊研究演習 ※2				
		いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特殊研究【夜間】				
			生涯スポーツ学特殊研究【TSC】 ※1	2			
			応用生涯スポーツ学特殊研究 ※2				
		いずれか1科目履修可能	生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】				
			生涯スポーツ学特殊研究演習【TSC】 ※1	2			
			応用生涯スポーツ学特殊研究演習 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ経営学特殊研究【夜間】				
			スポーツ経営学特殊研究【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ経営学特殊研究 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】				
			スポーツ経営学特殊研究演習【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ経営学特殊研究演習 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】				
			スポーツ歴史人類学特殊研究【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ歴史人類学特殊研究 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】				
			スポーツ歴史人類学特殊研究演習【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ歴史人類学特殊研究演習 ※2				
	スポーツ生命科学		スポーツ心理学特殊研究	2			
			スポーツ心理学特殊研究演習	2			
			スポーツ医科学特殊研究	2			
			スポーツ障害・コンディショニング医科学特殊研究 ※2	2			
			スポーツ医科学特殊研究演習	2			
			スポーツ障害・コンディショニング医科学特殊研究演習 ※2	2			
			スポーツ生理学特殊研究	2			
			スポーツ生理学特殊研究演習	2			
			体力科学特殊研究	2			
			体力科学特殊研究演習	2			
		いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究				
			バイオメカニクス特殊研究 ※2	2			
		いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習				
			バイオメカニクス特殊研究演習 ※2	2			
			運動分子・細胞生物学特殊研究 ※2	2			
			運動分子・細胞生物学特殊研究演習 ※2	2			
			スポーツ栄養学特殊研究	2			
			スポーツ栄養学特殊研究演習	2			
		いずれか1科目履修可能	アスリート医科学特殊研究【JISS】				
			アスリート医科学特殊研究 ※2	2			
		いずれか1科目履修可能	アスリート医科学特殊研究演習【JISS】				
			アスリート医科学特殊研究演習 ※2	2			
		いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特殊研究【夜間】				
			スポーツ心理学特殊研究【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ心理学特殊研究 ※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】				
			スポーツ心理学特殊研究演習【TSC】 ※1	2			
			応用スポーツ心理学特殊研究演習 ※2				

科目群	領域	条件	授業科目	単位	修了所要単位数		
					必修	選択	計
専門科目	スポーツ生命科学	いずれか1科目履修可能	体力科学特殊研究【夜間】	2			
			体力科学特殊研究【TSC】※1				
			応用力学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	体力科学特殊研究演習【夜間】	2			
			体力科学特殊研究演習【TSC】※1				
			応用力学特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】	2			
			スポーツバイオメカニクス特殊研究【TSC】※1				
			応用スポーツバイオメカニクス特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】	2			
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【TSC】※1				
			応用スポーツバイオメカニクス特殊研究演習※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特殊研究【夜間】	2			
			スポーツ栄養学特殊研究【TSC】※1				
			応用スポーツ栄養学特殊研究※2				
		いずれか1科目履修可能	スポーツ栄養学特殊研究演習【夜間】	2			
			スポーツ栄養学特殊研究演習【TSC】※1				
			応用スポーツ栄養学特殊研究演習※2				
計					2	8	10

- (注1) 統合研究セミナー（2単位）及びその他の科目の中から8単位以上を修得し、合計10単位以上とすること。
- (注2) ※1の授業科目は、令和4年度以降は開講しない。
- (注3) ※2の授業科目は、平成30年度以降は開講しない。
- (注4) 授業科目名に【KR】と付記してある科目については、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目。
- (注5) 授業科目名に【JISS】と付記してある科目については、国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目。
- (注6) 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目。

別表3の1 (第15条関係)

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数		
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計
専門科目	講義	基礎	スポーツ国際開発論Ⅰ	International Development and Peace through Sport I	1		●	1		14～
			オリンピックムーブメント論	Olympic Movement Studies	1	●		1		
			日本文化伝播論	Diffusion of Japanese Culture	1		●	1		
			スポーツ・文化・社会	Sport, Culture and Society	1		●		＊ 1	
			スポーツプロモーション論	Sport Promotion	1	●				
			国際スポーツ政策研究	International Sport Policy Studies	1		●			
			スポーツマネジメント論	Sport Management	1	●				
			スポーツと障がい者	Sport and Persons with Disabilities(PWDs)	1		●			
			ヘルスプロモーション論	Health Promotion	1	●				
			上級コーチ教育論	Advanced Coach Education	1		●			
			研究方法論	Research Methods	1		●	1		
			比較体育科教育論	Cross Cultural Studies in Physical Sport Education	1		●	1		
		応用	スポーツ国際開発論Ⅱ	International Development and Peace through Sport II	1		●	1		
			経営マネジメント論	Management and Organization	1		●		＊ 1	
			プロジェクトマネジメント論	Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント	Research Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント(実践)	Research Project Management【Practical】	1		●			
		関連	開発学原論	Principles of Development	2		●		＊ 1	
			社会開発のための公共政策ⅠA	Public Policy for Social DevelopmentⅠA	1		●		＊ 2	
			社会開発のための公共政策ⅠB	Public Policy for Social DevelopmentⅠB	1		●		＊ 1	
			多文化共生論	Multicultural Coexistence	1		●		＊ 2	
			経済開発論	Economics of Development	1		●		＊ 1	
			社会開発論	Social Development	1		●			
			セラピューティック・レクリエーション概論	Foundations of Therapeutic Recreation	1		●			
			研究データ管理・分析法	Data Management and Analysis for Research	1		●	＊ 1		
			異文化交流・コミュニケーション	Intercultural Exchange and Communication	1	●				

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数		
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計
専門科目	演習	学内	スポーツ国際開発学課題演習 (スポーツを通じた開発と平和) (スポーツを通じた教育・青少年育成) (スポーツとジェンダー・人種・民族) (健康と環境) (アダプテッドスポーツ・高齢者)	IDS Seminar: Development and Peace through Sport Education and Youth Development through Sport Sport and Gender, Race, Ethnicity Health and Environment Aged and Adapted Sport	4	●		8		10～
			課題研究	Research Project	4	●	●			
		学外	JSCセミナー	JSC Seminar	1		●		2～	
			JSCプロジェクト	JSC Project	1		●			
			国外大学セミナー	Seminar in Universities Abroad	1		●			
			国際カンファレンス・セミナー	International Conference and Seminar	1		●			
			NGO等プロジェクト	NGO Activities	1		●			
	実践	母国		On the Job Practice (Domestic)	2		●		0～	6～
		海外		On the Job Practice (International)	6	●		6		
計								20	10	30

- (注1) 講義科目から14単位修得すること。なお、スポーツ国際開発論Ⅰ、オリンピックムーブメント論、日本文化伝播論、研究方法論、比較体育科教育論、スポーツ国際開発論Ⅱを必修科目とし、必ず修得すること。
- (注2) *1の中から4単位以上、*2の中から2単位以上修得すること。
- (注3) 演習科目から10単位以上を修得すること。なお、スポーツ国際開発学課題演習(4単位)及び課題研究(4単位)は、必ず修得すること。
- (注4) 実践科目から6単位以上を修得すること。なお、On the Job Practice(International)(6単位)は、必ず修得すること。
- (注5) 上記の履修に際して、鹿屋体育大学と筑波大学の開設科目からそれぞれ10単位以上修得すること。
- (注6) 上記の要件を満たした上で、合計30単位以上を修得すること。

別表 3 の 2 (第 1 5 条関係)

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数		
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計
専門科目	講義	基礎	スポーツ国際開発論Ⅰ	International Development and Peace through Sport I	1		●	1		14～
			オリンピックムーブメント論	Olympic Movement Studies	1	●		1		
			日本文化伝播論	Diffusion of Japanese Culture	1		●	1		
			スポーツ・文化・社会	Sport, Culture and Society	1		●			
			スポーツプロモーション論	Sport Promotion	1	●				
			国際スポーツ政策研究	International Sport Policy Studies	1		●			
			スポーツマネジメント論	Sport Management	1	●				
			スポーツと障がい者	Sport and Persons with Disabilities(PWDs)	1		●			
			ヘルスプロモーション論	Health Promotion	1	●				
			上級コーチ教育論	Advanced Coach Education	1		●			
			比較体育科教育論	Cross Cultural Studies in Physical Sport Education	1		●	1		
			研究方法論	Research Methods	1		●	1		
		応用	スポーツ国際開発論Ⅱ	International Development and Peace through Sport II	1		●	1		
			経営マネジメント論	Management and Organization	1		●			
			プロジェクトマネジメント論	Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント	Research Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント(実践)	Research Project Management【Practical】	1		●			
		関連	開発学原論	Principles of Development	2		●			
			社会開発のための公共政策ⅠA	Public Policy for Social DevelopmentⅠA	1		●			
			社会開発のための公共政策ⅠB	Public Policy for Social DevelopmentⅠB	1		●			
			社会開発のための公共政策ⅡA	Public Policy for Social DevelopmentⅡA	※	1	●			
			社会開発のための公共政策ⅡB	Public Policy for Social DevelopmentⅡB	※	1	●			
			多文化共生論	Multicultural Coexistence	1		●			
			国際政治学ⅠA	International PoliticsⅠA	※	1	●			
			国際政治学ⅠB	International PoliticsⅠB	※	1	●			
			国際政治学ⅡA	International PoliticsⅡA	※	1	●			
			国際政治学ⅡB	International PoliticsⅡB	※	1	●			
			アジアにおける開発経済学	Economics of Development in Asia	※	2	●			
			経済開発論	Economics of Development	1		●			
			社会開発論	Social Development	1		●			
			セラピューティック・レクリエーション概論	Foundations of Therapeutic Recreation	1		●			
			研究データ管理・分析法	Data Management and Analysis for Research	1		●			
			異文化交流・コミュニケーション	Intercultural Exchange and Communication	1	●				

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数			
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計	
専門科目	演習	学内	スポーツ国際開発学課題演習 (スポーツを通じた開発と平和)	IDS Seminar: Development and Peace through Sport	4	●		8		10～	
			(スポーツを通じた教育・青少年育成)	Education and Youth Development through Sport							
			(スポーツとジェンダー・人種・民族)	Sport and Gender, Race, Ethnicity							
			(健康と環境)	Health and Environment							
			(アダプテッドスポーツ・高齢者)	Aged and Adapted Sport							
		課題研究	Research Project	4	●	●					
		学外	JSCセミナー	JSC Seminar	1		●	2～			
	JSCプロジェクト		JSC Project	1		●					
	国外大学セミナー		Seminar in Universities Abroad	1		●					
	国際カンファレンス・セミナー		International Conference and Seminar	1		●					
NGO等プロジェクト	NGO Activities		1		●						
実践	母国	On the Job Practice (Domestic)	2		●		0～	6～			
	海外	On the Job Practice (International)	6	●		6					
計									20	10	30

(注1) 講義科目から14単位修得すること。なお、スポーツ国際開発論Ⅰ、オリンピックムーブメント論、日本文化伝播論、研究方法論、比較体育科教育論、スポーツ国際開発論Ⅱを必修科目とし、必ず修得すること。

(注2) *1、*2、*3の中から、8単位以上修得すること。

(注3) 演習科目から10単位以上を修得すること。なお、スポーツ国際開発学課題演習(4単位)及び課題研究(4単位)は、必ず修得すること。

(注4) 実践科目から6単位以上を修得すること。なお、On the Job Practice(International)(6単位)は、必ず修得すること。

(注5) 上記の履修に際して、鹿屋体育大学と筑波大学の開設科目からそれぞれ10単位以上修得すること。

(注6) 上記の要件を満たした上で、合計30単位以上を修得すること。

(注7) ※の授業科目は、令和4年度以降は開講しない。

別表 3 の 3 (第 1 5 条関係)

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数		
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計
専門科目	講義	基礎	スポーツ国際開発論Ⅰ	International Development and Peace through SportⅠ	1		●	1		14～
			オリンピックムーブメント論	Olympic Movement Studies	1	●		1		
			日本文化伝播論	Diffusion of Japanese Culture	1		●	1		
			スポーツ・文化・社会	Sport, Culture and Society	1		●			
			スポーツプロモーション論	Sport Promotion	1	●				
			国際スポーツ政策研究	International Sport Policy Studies	1		●			
			スポーツマネジメント論	Sport Management	1	●				
			スポーツと障がい者	Sport and Persons with Disabilities(PWDs)	1		●			
			ヘルスプロモーション論	Health Promotion	1	●				
			上級コーチ教育論	Advanced Coach Education	1		●			
			比較体育科教育論	Cross Cultural Studies in Physical Sport Education	1		●			
			研究方法論	Research Methods	1		●	1		
		応用	スポーツ国際開発論Ⅱ	International Development and Peace through SportⅡ	1		●	1		
			経営マネジメント論	Management and Organization	1		●			
			プロジェクトマネジメント論	Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント	Research Project Management	1		●			
			研究プロジェクトマネジメント(実践)	Research Project Management【Practical】	1		●			
		関連	開発学原論	Principles of Development	2		●	2		
			社会開発のための公共政策ⅠA	Public Policy for Social DevelopmentⅠA	1		●			
			社会開発のための公共政策ⅠB	Public Policy for Social DevelopmentⅠB	1		●			
			社会開発のための公共政策ⅡA	Public Policy for Social DevelopmentⅡA	※ 1		●			
			社会開発のための公共政策ⅡB	Public Policy for Social DevelopmentⅡB	※ 1		●			
			多文化共生論	Multicultural Coexistence	1		●			
			国際政治学ⅠA	International PoliticsⅠA	※ 1		●			
			国際政治学ⅠB	International PoliticsⅠB	※ 1		●			
			国際政治学ⅡA	International PoliticsⅡA	※ 1		●			
			国際政治学ⅡB	International PoliticsⅡB	※ 1		●			
			アジアにおける開発経済学	Economics of Development in Asia	※ 2		●			
			経済開発論	Economics of Development	1		●			
			社会開発論	Social Development	1		●			
			セラピューティック・レクリエーション概論	Foundations of Therapeutic Recreation	1		●			
			研究データ管理・分析法	Data Management and Analysis for Research	1		●			
			異文化交流・コミュニケーション	Intercultural Exchange and Communication	1	●				

科目区分			授業科目		単位	開設大学		修了所要単位数		
			日本語	英語		鹿屋	筑波	必修	選択	計
専門科目	演習	学内	スポーツ国際開発学課題演習 (スポーツを通じた開発と平和)	IDS Seminar: Development and Peace through Sport	4	●		8		8～
			(スポーツを通じた教育・青少年育成) (スポーツとジェンダー・人種・民族) (健康と環境) (アダプテッドスポーツ・高齢者)	Education and Youth Development through Sport Sport and Gender, Race, Ethnicity Health and Environment Aged and Adapted Sport						
		課題研究	Research Project	4	●	●				
		学外	JSCセミナー	JSC Seminar	1		●	0～		
			JSCプロジェクト	JSC Project	1		●			
			国外大学セミナー	Seminar in Universities Abroad	1		●			
			国際カンファレンス・セミナー	International Conference and Seminar	1		●			
			NGO等プロジェクト	NGO Activities	1		●			
	実践	母国		On the Job Practice (Domestic)	2		●		0～	6～
		海外		On the Job Practice (International)	6	●		6		
計								21	9	30

- (注1) 講義科目から14単位修得すること。なお、スポーツ国際開発論Ⅰ、オリンピックムーブメント論、日本文化伝播論、研究方法論、スポーツ国際開発論Ⅱ、開発学原論を必修科目とし、必ず修得すること。
- (注2) *1、*2、*3の中から、7単位以上修得すること。
- (注3) 演習科目から8単位以上を修得すること。なお、スポーツ国際開発学課題演習（4単位）及び課題研究（4単位）は、必ず修得すること。
- (注4) 実践科目から6単位以上を修得すること。なお、On the Job Practice(International)（6単位）は、必ず修得すること。
- (注5) 上記の履修に際して、鹿屋体育大学と筑波大学の開設科目からそれぞれ10単位以上修得すること。
- (注6) 上記の要件を満たした上で、合計30単位以上を修得すること。
- (注7) ※の授業科目は、令和4年度以降は開講しない。

別表 4 (第 15 条の 2 関係)

科目区分		授業科目	単位	開設大学		修了所要単位数			
				鹿屋	筑波	必修	選択	計	
専門科目	実践的教育能力育成科目	大学体育論	1		●	1		2～	14
		大学体育授業演習Ⅰ	2		●				
		大学体育授業演習Ⅱ	2		●				
		大学体育授業演習Ⅲ	2		●				
		体育スポーツ実践的指導演習	2	●					
	実践的研究能力育成科目	体育スポーツ実践的研究方法論	1	●		1		2～	
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	2	●					
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2	●					
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2	●					
		大学体育研究演習	2		●				
博士論文研究能力育成科目	博士論文課題演習Ⅰ	2	●	●	2				
	博士論文課題演習Ⅱ	2	●	●	2				
専門基礎科目	高度指導者教養育成科目	つくばサマーインスティテュート	2		●			1～	
		国際インターンシップ	1		●				
		コーチングの哲学と倫理	1		●				
		最先端スポーツ科学理論	1	●					
計						6	8	14	

- (注 1) 実践的教育能力育成科目の中から大学体育論を含めて合計 3 単位以上修得すること。
なお、大学体育授業演習Ⅰ又は体育スポーツ実践的指導演習のいずれかを修得すること。
- (注 2) 実践的研究能力育成科目の中から体育スポーツ実践的研究方法論を含めて合計 3 単位以上修得すること。
なお、体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ又は大学体育研究演習のいずれかを修得すること。
- (注 3) 博士論文研究能力育成科目の博士論文課題演習Ⅰ及び博士論文課題演習Ⅱの合計 4 単位を修得すること。
- (注 4) 高度指導者教養育成科目の中から 1 単位以上修得すること。
- (注 5) 上記の要件を満たした上で、合計 14 単位以上を修得すること。

鹿屋体育大学学位規則

〔昭和63年4月1日
規則第5号〕

改正	昭和63年5月25日	平成19年3月22日	平成30年3月2日
	規則第8号	規則第19号	規則第8号
	平成元年7月19日	平成20年4月3日	平成30年11月21日
	規則第2号	規則第13号	規則第43号
	平成3年7月18日	平成24年11月15日	平成31年4月19日
	規則第6号	規則第25号	規則第18号
	平成11年3月17日	平成25年6月14日	令和2年3月26日
	規則第7号	規則第14号	規則第6号
	平成12年2月1日	平成27年4月16日	令和 年 月 日
	規則第3号	規則第39号	規則第 号
	平成16年3月31日	平成28年3月25日	
	規則第49号	規則第9号	
	平成17年2月3日	平成29年3月10日	
	規則第1号	規則第8号	
	平成19年2月1日	平成29年10月5日	
	規則第1号	規則第28号	

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 学士の学位（第2条－第4条）
- 第3章 修士及び博士の学位（第5条－第18条）
- 第4章 雑則（第19条－第22条）
- 附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条並びに鹿屋体育大学学則（平成16年規則第2号。以下「学則」という。）第35条第2項及び第53条第5項の規定に基づき、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定める。

第2章 学士の学位

（学士の学位）

第2条 本学が授与する学士の学位は、学士（体育学）とする。

（学士の学位授与の要件）

第3条 学士の学位の授与は、学則第33条の規定に基づき、本学体育学部を卒業した者に対し行う。

（学士の学位授与の認定）

第4条 学長は、前条の者に対する学士の学位の授与を認定するものとする。

第3章 修士及び博士の学位

（修士及び博士の学位）

第5条 本学が授与する修士の学位は、修士（体育学）とする。

2 前項の規定にかかわらず、筑波大学とのスポーツ国際開発学共同専攻の教育課程を修了した者の学位は、修士（スポーツ国際開発学）とする。

3 本学が授与する博士の学位は、博士（体育学）とする。

4 前項の規定にかかわらず、筑波大学との大学体育スポーツ高度化共同専攻の教育課程を修了した者の学位は、博士（体育スポーツ学）とする。

（修士及び博士の学位授与の要件）

第6条 修士の学位の授与は、学則第51条第1項の規定に基づき、本学大学院修士課程を修了した者に対し行う。

2 博士の学位の授与は、学則第51条第2項の規定に基づき、本学大学院博士後期課程又は3年制博士課程を修了した者に対し行う。

3 前項に規定するもののほか、本学大学院博士後期課程を経ない者であっても、博士論文を提出して学位の授与を申請し、その審査に合格し、かつ、本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認（以下「学力の確認」という。）された者にも授与することができる。

（学位論文の提出）

第7条 修士又は博士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位論文審査願に学位論文及び別に定める書類を添付し、学長に提出しなければならない。

2 前条第3項により博士の学位の授与を受けようとする者は、当該学位論文の内容に関連のある博士後期課程研究指導教員1名に紹介教員としての承諾を得るものとする。

3 提出する学位論文は、1編とする。この場合において、参考論文を添付することができる。

4 学長は、審査のため必要があると認めたときは、学位論文の訳文、模型及び標本等を提出させることができる。

5 前条第3項により博士の学位の授与を受けようとする者は、国立大学法人鹿屋体育大学における授業料その他の費用に関する規程（平成16年規程第6号）第12条に規定する学位論文審査手数料を納入するものとし、学位授与の申請を受理するときに徴収するものとする。

ただし、前条第3項に規定する者のうち、本学大学院博士後期課程において所定の単位を修得して退学したときから1年以内に学位の授与を申請した場合は、学位論文審査手数料は免除する。

6 受理した学位論文及び既納の学位論文審査手数料は、返還しない。

（学位論文審査の付託）

第8条 学長は、学位論文を受理したときは、大学院体育学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）に学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認の実施を付託するものとする。

（学位論文審査委員会）

第9条 研究科委員会は、前条の付託を受けたときは、当該論文の審査及び最終試験又は学力の確認を行わせるため、当該学位論文ごとに学位論文審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置するものとする。

2 審査委員会は、主査1名及び副査2名で構成する。ただし、必要に応じて副査の数を増やすことができる。

3 研究科委員会が学位論文の審査に必要があると認めたときは、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

4 審査委員会の委員の選出に関し必要な事項は、別に定める。

（最終試験）

第10条 最終試験は、本学修士課程、博士後期課程及び3年制博士課程の在学生のうち、学位論文の審査を終了した者に対して行う。

- 2 最終試験は、当該学位論文を中心として、これに関連する分野について口述又は筆記により行うものとする。

(学力の確認)

- 第11条 学力の確認は、専攻の体育学分野に関し、本学の大学院博士後期課程及び3年制博士課程修了者と同等以上の学識並びに研究能力について、口述又は筆記によって行う。
- 2 本学の大学院博士後期課程又は3年制博士課程に3年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、退学後3年以内に論文を提出したときは、前項の学力の確認を免除することができる。

(審査の期間)

- 第12条 論文の審査及び最終試験又は学力の確認は、修士については、その在学期間中に、博士については、論文を受理したときから1年以内に終了しなければならない。

(結果報告)

- 第13条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認の結果（合格又は不合格の判定を含む。）を研究科委員会に報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

- 第14条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、学位論文及び最終試験又は学力の確認の可否を審議決定し、その結果を学長に報告するものとする。
- 2 前項の議決は、研究科委員会の構成員（公務出張を命じられた者、休職又は停職中の者を除く。）の3分の2以上が出席し、その3分の2以上の同意を必要とする。

(特定課題の研究成果の審査)

- 第15条 学則第51条第1項の規定により特定の課題についての研究の成果（以下「特定課題の研究成果」という。）の審査をもって修士論文の審査に代える場合は、第7条から第10条及び第12条から第14条までの規定を準用する。

(修士及び博士の学位授与の認定及び報告)

- 第16条 学長は、第14条第1項の報告に基づき、学位授与の可否を決定し、授与すべき者には所定の学位記を交付し、授与できない者には、その旨を本人に通知する。
- 2 学長は、博士の学位を授与したときは、学位簿に登録し、学位規則第12条の規定により文部科学大臣に報告するものとする。

(学位論文要旨の公表)

- 第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、授与した日から3月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

- 第18条 博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。
- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、学長は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

第4章 雑則

(学位記)

第19条 学長は、学士、修士又は博士の学位の授与を認定された者に学位記を交付するものとする。

2 学位記の様式は、別紙様式第1号から別紙様式第6号までのとおりとする。

(学位名称の使用)

第20条 学位の授与を受けた者が、当該学位の名称を使用するときは、「鹿屋体育大学」と付記しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、筑波大学との共同専攻の教育課程を修了し、学位の授与を受けた者が、当該学位の名称を使用するときは「鹿屋体育大学、筑波大学」と付記しなければならない。

(学位の取消し)

第21条 学長は、学位を授与された者が不正の方法により、学位の授与を受けたことが判明したときは、教授会又は研究科委員会の議を経て、授与した学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

2 第14条の規定は、学位の授与を取消す場合に準用する。この場合において、同条第1項中「研究科委員会」とあるのは、学士の学位の取消しにあつては「教授会」と、「学位論文及び最終試験又は学力の確認」とあるのは、「学位の授与の取消し」と読み替えるものとする。

(雑則)

第22条 この規則に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 (昭63. 5. 25規則第8号)

この規則は、昭和63年5月25日から施行する。

附 則 (平元. 7. 19規則第2号)

この規則は、平成元年7月19日から施行する。

附 則 (平3. 7. 18規則第6号)

この規則は、平成3年7月18日から施行する。

附 則 (平11. 3. 17規則第7号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 (平12. 2. 1規則第3号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平16. 3. 31規則第49号)

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第6条第3項の規定は、当分の間適用しない。

附 則 (平17. 2. 3規則第1号)

この規則は、平成17年2月3日から施行する。

附 則 (平19. 2. 1規則第1号)

この規則は、平成19年2月1日から施行する。

附 則（平19. 3. 22規則第19号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平20. 4. 3規則第13号）
この規則は、平成20年4月3日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則（平24. 11. 15規則第25号）
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平25. 6. 14規則第14号）
この規則は、平成25年6月14日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平27. 4. 16規則第39号）
この規則は、平成27年4月16日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平28. 3. 25規則第9号）
この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平29. 3. 10規則第8号）
この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平29. 10. 5規則第28号）
この規則は、平成29年10月5日から施行する。

附 則（平30. 3. 2規則第8号）
この規則は、平成30年3月2日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平30. 11. 21規則第43号）
この規則は、平成30年11月21日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平31. 4. 19規則第18号）
この規則は、令和元年5月1日から施行する。

- 附 則（令2. 3. 26規則第6号）
- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
 - 2 3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻に在籍する者については、改正後の第5条、第6条、第10条及び第11条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令5. . 規則第 号）
この規則は、令和5年 月 日から施行する。

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

on recommendation of the

課程名

of the

School of Physical Education

has conferred the degree of

Bachelor of Physical Education

upon

氏 名

for having successfully completed all

the requirements in the field of

Physical Education

on this, the 00th day of 0000 in the year 0000

大学印

President 氏 名(サイン)

課程名

Integrated Sports Science Course
または
Budo Course

※ A4 縦 すかし『鹿屋体育大学』入

第 号

卒業証書・学位記

大学印

氏 名

年 月 日 生

本学体育学部

課程名

所定の課程を修めて本学を卒業した

ことを認め学士 (体育学) の学位を授与する

年 月 日

学長印

鹿屋体育大学長 氏 名

課程名

スポーツ総合課程 または 武道課程

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

on recommendation of the

Graduate School of Physical Education

has conferred the degree of

Master of Physical Education

upon

氏 名

for having successfully completed all

the requirements in the field of

Physical Education

on this, the 00th day of 0000 in the year 0000

大学印

President 氏 名(サイン)

第 号

学 位 記

大学印

氏 名

年 月 日 生

本学大学院体育学研究科体育学専攻の修士課程を修了したので

修士 (体育学) の学位を授与する

年 月 日

学長印

鹿屋体育大学長 氏 名

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

on recommendation of the

Graduate School of Physical Education

has conferred the degree of

Doctor of Physical Education

upon

氏 名

for having successfully completed all

the requirements in the field of

Physical Education

on this, the 00th day of 0000 in the year 0000

大学印

President 氏 名(サイン)

博甲第 号

学 位 記

大学印

氏 名

年 月 日 生

本学大学院体育学研究科体育学専攻の博士後期課程を修了したので

博士 (体育学) の学位を授与する

年 月 日

鹿屋体育大学長 氏 名

学長印

University of Tsukuba
and
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

This is to certify that

氏 名

Date of Birth: 0000 00, 0000

has fulfilled all requirements and has been conferred the degree of
Master of Arts in International Development
and Peace through Sport
from the Joint Master' s Program in International
Development and Peace through Sport
between the Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba
and the Graduate School of Physical Education,
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA.

0000 00, 0000

Diploma No. TSUKUKANO SHU-K0 _____

氏名(サイン)

氏 名

President

University of Tsukuba

氏名(サイン)

氏 名

President

National Institute of Fitness and
Sports in KANOYA

筑鹿 修甲第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日 生

筑波大学大学院人間総合科学学術院

及び鹿屋体育大学大学院体育学研究科

のスポーツ国際開発学共同専攻の修士

課程を修了したので修士（スポーツ国

際開発学）の学位を授与する

年 月 日

筑波大学長

氏

名

学長印

氏

名

鹿屋体育大学長

学長印

University of Tsukuba
and
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

This is to certify that

氏名

Date of Birth: 0000 00, 0000

has fulfilled all requirements and has been conferred the degree of

Doctor of Philosophy in Physical Education
and Sport Studies

from the Joint Doctoral Program in Advanced Physical
Education and Sports for Higher Education
between the Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba
and the Graduate School of Physical Education,
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA.

0000 00, 0000

Diploma No. TSUKUKANO HAKU-KO _____

氏名(サイン)
氏名
President

University of Tsukuba

氏名(サイン)
氏名
President

National Institute of Fitness and
Sports in KANOYA

筑波 博甲第

号

学位記

氏名

年 月 日 生

筑波大学大学院人間総合科学学術院

及び鹿屋体育大学大学院体育学研究科

の大学体育スポーツ高度化共同専攻の

3年制博士課程を修了したので博士

(体育スポーツ学) の学位を授与する

令和 年 月 日

筑波大学長
氏

鹿屋体育大学長
氏 名

学長印

学長印

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

on recommendation of the
Graduate School of Physical Education

has conferred the degree of
Doctor of Physical Education

upon

氏 名

for having successfully submitted and defended
their doctoral dissertation in the field of

Physical Education

on this, the 00th day of 0000 in the year 0000

大学印

President 氏 名(サイン)

大学印

学 位 記

氏 名

年 月 日 生

博士第 号

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので

博士（体育学）の学位を授与する

年 月 日

学長印

鹿屋体育大学長 氏 名

鹿屋体育大学学位細則

〔昭和63年7月7日
細則第5号〕

改正	平成元年7月19日 細則第2号	平成17年2月3日 細則第1号	平成31年4月19日 細則第12号
	平成6年9月22日 細則第7号	平成19年3月22日 細則第4号	令和元年12月3日 細則第21号
	平成10年12月28日 細則第2号	平成20年4月3日 細則第14号	令和2年3月26日 細則第5号
	平成12年2月1日 細則第1号	平成24年2月23日 細則第1号	令和3年3月26日 細則第6号
	平成12年3月17日 細則第3号	平成24年12月13日 細則第17号	令和3年7月1日 細則第17号
	平成12年7月27日 細則第6号	平成26年6月27日 細則第3号	令和 年 月 日 細則第 号
	平成14年9月26日 細則第2号	平成29年7月26日 細則第10号	
	平成16年3月31日 細則第17号	平成30年3月2日 細則第4号	

目次

- 第1章 総則（第1条―第2条）
- 第2章 修士の学位論文（第3条―第14条）
- 第3章 課程博士の学位論文（第15条―第23条）
- 第4章 論文博士の学位論文（第24条―第32条）
- 第5章 雑則（第33条―第35条）
- 附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この細則は、鹿屋体育大学学位規則（以下「規則」という。）第22条の規定に基づき、学位の授与に関し必要な事項を定める。

（定義）

第2条 この細則において「課程博士」とは、規則6条第2項の規定により授与される博士の学位を、「論文博士」とは、規則第6条第3項の規定により授与される博士の学位をいう。

第2章 修士の学位論文

（学位論文題目の届出）

第3条 学位論文を提出しようとする者は、学位論文の研究指導を担当する教員（以下「指導教員」という。）の指導を受け、別に定める日までに、学位論文題目届（別紙様式第1号）を学長に提出しなければならない。

2 学位論文題目届を提出後、学位論文の題目を変更する必要があるときは、指導教員の承認

を得て、別に定める日までに、学位論文題目変更届（別紙様式第2号）を学長に提出しなければならない。

（学位論文構想発表会）

第4条 本学大学院修士課程（以下「修士課程」という。）の修了を予定している者は、学位論文構想発表会において、作成を予定している学位論文について発表しなければならない。

2 学位論文構想発表会の実施時期、実施方法等については、別に定める。

（学位論文中間発表会）

第5条 修士課程の修了を予定している者は、公開で行う学位論文中間発表会において、研究内容を発表しなければならない。

2 学位論文中間発表会の実施時期、実施方法等については、別に定める。

（学位論文の提出資格）

第6条 学位論文を提出することができる者は、前条第1項に規定する学位論文中間発表を経た者で、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 修士課程に2年以上在学する者で、所定の単位を修得した者又は学位論文提出日の属する学期末までに修得する見込みが確実な者で、指導教員が提出を認めた者

(2) 修士課程に1年以上在学する者で、大学院体育学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）が鹿屋体育大学学則第51条第1項ただし書に該当すると認めた者

2 前項第2号に規定する者は、早期修了の適用に係る審査を経なければならない。

3 早期修了の適用に係る審査の取扱いについては、別に定める。

（学位論文等の提出方法等）

第7条 学位論文を提出しようとする者は、指導教員の承認を得て、次の各号に掲げる申請書類を学長に提出するものとする。

(1) 学位論文審査願（別紙様式第3号）

(2) 学位論文 1編（正本1部、副本2部）

(3) 学位論文概要 3部（別紙様式第4号）

2 学位論文等の提出期間は、次のとおりとする。

(1) 3月修了予定者 12月20日～1月15日

(2) 9月修了予定者 5月20日～6月10日

3 第1項に加え、共同専攻在学の者は、筑波大学所定の様式も併せて提出するものとする。

（学位論文受理の決定）

第8条 学位論文の受理の可否は、研究科教務委員会において決定するものとする。

（学位論文審査委員会委員）

第9条 規則第9条第2項に規定する学位論文審査委員会（以下「審査委員会」という。）の委員は、指導教員が主査となり、副指導教員のうち1名が副査になることができるものとする。

残りの副査は、研究科担当を命じられた教員（当該学位論文の内容に関連する教授、准教授又は講師）の中から選出するものとする。

2 指導教員は、学位論文ごとに審査委員候補者として、学位論文審査委員会委員推薦書（別紙

様式第5号)により学長に推薦するものとする。

- 3 規則第9条第3項の規定により、他の大学院又は研究所等の教員等を加える場合は、当該委員候補者の履歴書(別紙様式第6号)を添付しなければならない。
- 4 審査委員会の委員は、研究科委員会において選出するものとする。

(学位論文の審査及び最終試験)

- 第10条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験を別に定める日までに行うものとする。
- 2 審査委員会は、当該学生に対して最終試験の期日及び方法を当該試験日の7日前までに通知しなければならない。
 - 3 学位論文の審査基準は、別に定める。
 - 4 最終試験は、次条に規定する学位論文発表会をもってあてることができる。
 - 5 審査委員会は、必要に応じて再度、学位論文の審査、最終試験(以下、第29条までにおいて「再審査」という。)を実施することができるものとする。

(学位論文発表会)

- 第11条 審査委員会は、学位論文発表会を公開で行わなければならない。
- 2 審査委員会は、前項の学位論文発表会を行うときは、期日及び方法等を当該発表会の7日前までに公示しなければならない。
 - 3 審査委員会の委員は、学位論文発表会に出席するものとする。

(研究科委員会への報告)

- 第12条 規則第13条に規定する研究科委員会への報告は、学位論文審査・最終試験結果報告書(別紙様式第7号)により別に定める日までに行うものとする。

(特定課題の研究成果の審査)

- 第13条 鹿屋体育大学学則第51条第1項の規定により特定の課題についての研究の成果(以下「特定課題の研究成果」という。)の審査をもって修士論文の審査に代える場合は、第3条から第11条までの規定を準用する。

(学位論文変更の届出)

- 第14条 第3条第1項に規定する学位論文題目届を提出後、学位論文の審査を修士論文から特定課題の研究成果に、又は特定課題の研究成果から修士論文に変更する必要があるときは、指導教員の承認を得て、別に定める日まで、学位論文変更届(別紙様式第8号)を学長に提出しなければならない。

(学長への報告)

- 第15条 規則第14条第1項に規定する学長への報告は、課程(修士・博士)修了審議結果報告書(別紙様式第9号)により行うものとする。

第3章 課程博士の学位論文

(学位論文指導研究会)

- 第16条 本学大学院博士後期課程又は3年制博士課程の修了を予定している者は、公開で行う

学位論文指導研究会において、研究内容を発表しなければならない。

2 学位論文指導研究会の実施時期、実施方法等については、別に定める。

(学位論文の提出資格)

第17条 学位論文を提出することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 博士後期課程又は3年制博士課程に3年以上在学する者で、所定の単位を修得した者又は学位論文提出日の属する学期末までに修得する見込みが確実な者で、指導教員が提出を認めた者

(2) 博士後期課程に1年以上在学する者で、研究科委員会が鹿屋体育大学学則第51条第2項ただし書に該当すると認めた者

2 前項第2号に規定する者は、学位論文の提出に先立ち、早期修了の適用に係る審査を経なければならない。

3 早期修了の適用に係る審査の取扱いについては、別に定める。

(学位論文等の提出方法等)

第18条 学位論文を提出しようとする者は、指導教員の承認を得て、次の各号に掲げる申請書類を、学長に提出するものとする。

(1) 学位論文審査願 (別紙様式第10号)

(2) 学位論文 1編 (正本1部, 副本3部)

(3) 学位論文概要 4部 (別紙様式第4号)

(4) 論文目録 4部 (別紙様式第11号)

(5) 履歴書 1部 (別紙様式第12号)

(6) 許諾書 1部 (別紙様式第18号)

2 前項第6号の許諾書において、全文の公表の一時的な保留を希望した場合、保留事由の消滅後速やかに「博士論文(全文)公表の一時的な保留事由消滅に係る届出書(別紙様式第19号)」を、学長に提出するものとする。

3 学位論文等の提出期間は、次のとおりとする。

(1) 3月修了予定者 12月20日～1月15日

(2) 9月修了予定者 5月20日～6月10日

4 第1項に加え、共同専攻在学の者は、筑波大学所定の様式も併せて提出するものとする。

(学位論文受理の決定)

第19条 学位論文の受理の可否は、研究科教務委員会において決定するものとする。

(審査委員会委員)

第20条 審査委員会の委員は、指導教員が主査となり、副指導教員のうち1名が副査になることができるものとする。残りの副査は、研究科担当を命じられた教員(当該学位論文の内容に関連する教授、准教授又は講師)の中から選出するものとする。

2 指導教員は、学位論文ごとに審査委員候補者として、学位論文審査委員会委員推薦書(別紙様式第5号)により、学長に推薦するものとする。

3 規則第9条第3項の規定により、他の大学院又は研究所等の教員等を加える場合は、当該委員候補者の履歴書(別紙様式第6号)を添付しなければならない。

4 審査委員会の委員は、研究科委員会において選出するものとする。

(学位論文の審査及び最終試験)

第21条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験を別に定める日までに行うものとする。

2 審査委員会は、当該学生に対して最終試験の期日及び方法を当該試験日の7日前までに通知しなければならない。

3 学位論文の審査基準は、別に定める。

4 最終試験は、次条に規定する学位論文発表会をもってあてる。

(学位論文発表会)

第22条 審査委員会は、学位論文発表会を公開で行わなければならない。

2 審査委員会は、前項の学位論文発表会を行うときは、期日及び方法等を当該発表会の7日前までに公示しなければならない。

3 審査委員会の委員は、学位論文発表会に出席するものとする。

(研究科委員会への報告)

第23条 規則第13条に規定する研究科委員会への報告は、学位論文審査・最終試験結果報告書(別紙様式第7号)により審査終了後7日以内に行うものとする。

(学長への報告)

第24条 規則第14条第1項に規定する学長への報告は、課程(修士・博士)修了審結果報告書(別紙様式第9号)により行うものとする。

第4章 論文博士の学位論文

(学位論文の提出資格)

第25条 論文博士の学位論文を提出することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 本学大学院博士後期課程又は3年制博士課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後退学した者

(2) 規則第5条第3項に規定する学位(博士(体育学))を希望する者のうち、大学卒業後7年以上又は大学院博士前期課程(修士課程)修了後4年以上の研究歴を有し、かつ、鹿屋体育大学研究生規則第3条第2項に規定する研究生(以下「本学研究生」という。)として1年以上の研究歴を有する者。ただし、本学に常時勤務する教員については、本学研究生としての研究歴は要しない。

(3) 規則第5条第3項に規定する学位(博士(体育学))を希望する者のうち、前号に掲げる者と同等以上の研究歴を有し、かつ、本学研究生として1年以上の研究歴を有する者。

2 研究歴とは次の各号に掲げるものとする。

(1) 大学、短期大学及び高等専門学校で職員として研究に従事した期間

(2) 大学の研究生として研究に従事した期間

(3) 大学院の学生として在学した期間

(4) 官公庁、会社等において研究に従事した期間

(5) その他、研究科委員会において前各号と同等以上と認める研究に従事した期間

(外国語試験)

第26条 論文博士の学位を受けようとする者は、あらかじめ本学体育学研究科が実施する外国語試験に合格していなければならない。

2 外国語試験は、英語とする。

3 外国語試験の実施に関して必要な事項は、別に定める。

4 論文博士の学位を受けようとする者のうち、次のいずれかに該当する者は外国語試験を免除することができる。

(1) 第25条第1項第1号に規定する者で、退学後3年以内に学位論文の提出を予定している者

(2) 経歴及び研究業績により、英語力があると研究科教務委員会が認める者

(学位論文等の提出方法等)

第27条 学位論文を提出しようとする者は、規則第7条第2項に規定する紹介教員（以下「紹介教員」という。）の推薦を受けて、次の各号に掲げる申請書類に論文審査手数料を添えて、学長に提出するものとする。

(1) 学位論文審査願（別紙様式第13号）

(2) 学位論文（主論文1編、副論文2編）（正本1部、副本3部）

(3) 学位論文概要 4部（別紙様式第4号）

(4) 論文目録 4部（別紙様式第11号）

(5) 履歴書 1部（別紙様式第12号）

(6) 最終学歴の卒業（修了）証明書 1通

(7) 研究業績書（別紙様式第14号） 4部

(8) 紹介状（別紙様式第15号）

(9) 許諾書 1部（別紙様式第18号）

2 前項第9号の許諾書において、全文の公表の一時的な保留を希望した場合、保留事由の消滅後速やかに「博士論文（全文）公表の一時的な保留事由消滅に係る届出書（別紙様式第19号）」を、学長に提出するものとする。

3 学位論文等の提出期限は、5月末日又は12月末日のいずれかとする。

(学位論文受理の決定)

第28条 学位論文の受理の可否は、研究科教務委員会において決定するものとする。

(審査委員会委員)

第29条 審査委員会の委員は、紹介教員が主査になるものとする。

2 紹介教員は、学位論文ごとに審査委員候補者として、研究科担当を命じられた教員（当該学位論文の内容に関連する教授、准教授又は講師）を学位論文審査委員会委員推薦書（別紙様式第5号）により、学長に推薦するものとする。

3 規則第9条第3項の規定により、他の大学院又は研究所等の教員等を加える場合は、当該委員候補者の履歴書（別紙様式第6号）を添付しなければならない。

4 審査委員会の委員は、研究科委員会において選出するものとする。

5 第25条第1項第1号に規定する者で、退学後3年以内に学位論文の提出を予定している者については、審査委員会委員のうち1名は、その者が本学大学院博士後期課程又は3年制博士課程在学時の指導教員及び副指導教員以外の者から選出するものとする。

(学位論文の審査及び学力の確認)

第30条 審査委員会は、学位論文の審査及び学力の確認を別に定める日までに行うものとする。

2 審査委員会は、当該申請者に対して学力の確認の期日及び方法を当該確認日の7日前までに通知しなければならない。

3 学位論文の審査基準は、別に定める。

4 学力の確認は、次条に規定する学位論文発表会をもってあてることができる。

(学位論文発表会)

第31条 審査委員会は、学位論文発表会を公開で行わなければならない。

2 審査委員会は、前項の学位論文発表会を行うときは、期日及び方法等を当該発表会の7日前までに公示しなければならない。

3 審査委員会の委員は、学位論文発表会に出席するものとする。

(研究科委員会への報告)

第32条 規則第13条に規定する研究科委員会への報告は、学位論文審査・学力の確認結果報告書(別紙様式第16号)により審査終了後7日以内に行うものとする。

(学長への報告)

第33条 規則第14条第1項に規定する学長への報告は、論文博士の学位授与審議結果報告書(別紙様式第17号)により行うものとする。

第5章 雑則

(学位授与の時期)

第34条 学位授与の日付は、次のとおりとする。

- (1) 修士及び課程博士については、修了式の日又は学長決裁日
- (2) 論文博士については、学長決裁日

(期日の変更)

第35条 第7条第2項及び第18条第3項に規定する期日が土曜日の場合は前日、日曜日の場合は翌日とする。

(雑則)

第36条 この細則に規定するもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この細則は、昭和63年7月7日から施行する。
- 2 第2条に定める指導教官は、当分の間教授とする。
- 3 第2条第1項の定めにかかわらず、昭和63年度入学者については昭和63年7月末日までに提出するものとする。

附 則 (平元. 7. 19細則第2号)

この細則は、平成元年7月19日から施行する。

附 則（平6. 9. 22細則第7号）

この細則は、平成6年9月22日から施行する。

附 則（平10. 12. 28細則第2号）

この細則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平12. 2. 1細則第1号）

この細則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平12. 3. 17細則第3号）

この細則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平12. 7. 27細則第6号）

この細則は、平成12年8月1日から施行する。

附 則（平14. 9. 26細則第2号）

この細則は、平成14年10月1日から施行する。

附 則（平16. 3. 31細則第17号）

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平17. 2. 3細則第1号）

この細則は、平成17年2月3日から施行する。

附 則（平19. 3. 22細則第4号）

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平20. 4. 3細則第14号）

- 1 この細則は、平成20年4月3日から施行し、平成20年4月1日から適用する。
- 2 体育学研究科の学年途中における課程修了の取扱いについて（平成元年2月15日学長裁定）は、廃止する。

附 則（平24. 2. 23細則第1号）

この細則は、平成24年2月23日から施行する。

附 則（平24. 12. 13細則第17号）

この細則は、平成24年12月13日から施行する。

附 則（平26. 6. 27細則第3号）

この細則は、平成26年6月27日から施行する。

附 則（平 29. 7. 26 細則第 10 号）
この細則は、平成 29 年 7 月 26 日から施行する。

附 則（平 30. 3. 2 細則第 4 号）
この細則は、平成 30 年 3 月 2 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平 31. 4. 19 細則第 12 号）
この細則は、令和元年 5 月 1 日から施行する。

附 則（令元. 12. 3 細則第 21 号）
この細則は、令和元年 12 月 3 日から施行する。

- 附 則（令 2. 3. 26 細則第 5 号）
- 1 この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
 - 2 3 年制博士後期課程大学体育スポーツ高度化共同専攻に在籍する学生については、改正後の第 15 条から第 17 条までの規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 附 則（令 3. 3. 26 細則第 6 号）
- 1 この細則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
 - 2 3 年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻に在籍していた学生の取扱いについては、第 24 条及び第 28 条の後期 3 年の課程のみの博士課程と同様に取り扱うものとする。

附 則（令 3. 7. 1 細則第 17 号）
この細則は、令和 3 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（令 5. . 細則第 号）
この細則は、令和 5 年 月 日から施行する。ただし、改正後の第 4 条の規定は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

学 位 論 文 題 目 届

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科修士課程
令和 年度入学
氏 名

〔 修士論文
特定課題の研究成果 〕

の題目を下記のとおりお届けします。

記

題 目 名		
目 的 方 法 等		
指 導 教 員		
副指導教員		

学 位 論 文 題 目 変 更 届

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科修士課程

令和 年度入学

氏 名

〔 修士論文
特定課題の研究成果 〕 の題目を下記のとおり変更しますのでお届けします。

記

題 目 名	新	
	旧	
目 的 方 法 等		
指導教員		
副指導教員		

学 位 論 文 審 査 願

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

本 籍
住 所
所 属 修士課程 学籍番号
氏 名 (署名)

鹿屋体育大学学位規則第7条第1項及び第15条の規定に基づき、下記のとおり
関係書類を添えて申請します。

記

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 学位論文 編(正本 部、副本 部) | 2. 特定課題の研究成果 編 |
| 学位論文概要 部 | 研究成果概要 部 |

学 位 論 文 概 要

○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○(論文題目)

氏 名

(論文概要)

備考 学位論文概要は、邦文で1,800字～2,000字程度又は英文800語程度で執筆するものとし、記載文字は、ヨコ35文字、タテ35文字とする。

学 位 論 文 審 査 委 員 会 委 員 推 薦 書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

指導教員
(論文博士にあつては紹介教員)

学位論文審査申請者の審査委員会の委員を下記のとおり推薦します。

記

所 属	申請者氏名	学 位 論 文 題 目	審査委員候補者		備 考
			主 査 副 査 副 査		
			主 査 副 査 副 査		
			主 査 副 査 副 査		
			主 査 副 査 副 査		

備考 他の大学院又は研究所等の教員等を加える場合は備考欄に他機関と記入し、履歴書(別紙様式第6号)を添付すること。

履 歴		書
(ふりがな) 氏 名 生年月日		性 別
本 籍 (国籍)		
現住所	〒	
職 歴		
研究歴及び学会活動		
上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日		
氏 名		(署名)

学位論文審査・最終試験結果報告書

令和 年 月 日

大学院体育学研究科委員会 様

学位論文審査委員会 主 査
副 査
副 査

学位論文の審査及び最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

氏 名	
論文題目	
論文審査 の 要 旨	
最終試験	日 時:令和 年 月 日() : ~ :
	方 法:口述試験・筆記試験
	要 旨:
判 定	合 格 不合格

備考 論文審査の要旨及び最終試験の記入欄が不足する場合は、別紙で添付すること。

学 位 論 文 変 更 届

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

体育学研究科修士課程
令和 年度入学
氏 名

下記のとおり変更しますのでお届けします。

1. 修士論文から特定課題の研究成果への変更
2. 特定課題の研究成果から修士論文への変更

題 目 名		
目 的 方 法 等		
指 導 教 員		
副指導教員		

＊該当する事項に○を付けること。

課程(修士・博士)修了審議結果報告書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

大学院体育学研究科委員会

課程の修了及び学位授与の可否の審議結果を下記のとおり報告します。

記

番号	氏 名	論 文 題 目	学位論文審査委員会		判 定
			主 査	副 査	
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否

学 位 論 文 審 査 願

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

本 籍
住 所
所 属
学籍番号
氏 名
課程
(署名)

鹿屋体育大学学位規則第7条第1項の規定に基づき、下記のとおり関係書類を添えて申請します。

記

学位論文 編(正本 部、副本 部)
〔・主論文 編〕
〔・副論文 編〕

学位論文概要 部

論文目録 部

履 歴 書 部

許 諾 書 部

論 文 目 録

氏 名

博士論文 1編

論文題目

(※論文題目が外国語の場合、和訳を記載すること)

本人氏名(共著者)

参考論文

1. 氏 名

題 目

発表誌名 第 卷 第 号 頁～ 頁 年

学会報告

1. 本人氏名、共同発表者氏名

題 目

第 回 学会名

誌 第 卷 第 号 頁～ 頁 年

学 位 論 文 審 査 願

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

住 所
所 属
氏 名

(署名)

鹿屋体育大学学位規則第7条第1項の規定に基づき、下記のとおり関係書類を添えて申請します。

記

学位論文	編
〔 ・主論文	編
・副論文	編 〕
学位論文概要	部
論文目録	部
履 歴 書	部
最終学歴の卒業(修了)証明書	部
研究業績書	部
紹介状	部
許 諾 書	部

研究業績書

令和 年 月 日

氏 名

1. 著者名(掲載順に全著者名を記載)論文名、図書・雑誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)等を全て省略せずに記入すること。以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可とする。 2. 現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年ごとに点線で区切り記入すること。なお、投稿中の学術論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限る(編集者・発行所からの証明書、等を添付すること)。 3. 本人が「筆頭著者」ではない学術論文における「責任著者」の場合は、その旨を右欄に明記し、証明できる資料(責任著者が掲載されているページ等)を添付すること。	本人が責任著者 (Corresponding Author)の場合は 「責任著者」と記入

紹 介 状

鹿屋体育大学長 様

紹介者
鹿屋体育大学大学院体育学研究科
博士後期課程研究指導担当教員

氏 名 (署名)

下記の者を学位論文(博士論文)提出者として紹介します。

住 所	〒
氏 名	
生年月日等	年 月 日 男・女 電話番号() —
職業等	
メールアドレス	
次の□のいずれかにレ印を付して下さい。 ☐ 本学の博士後期課程在学生であった。(3年以上) (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日) ☐ 本学の研究生である(あった)。(1年以上) (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日) ☐ 本学の常勤教員である。	
紹介理由:	

学位論文審査・学力の確認結果報告書

令和 年 月 日

大学院体育学研究科委員会 様

学位論文審査委員会 主 査
副 査
副 査

学位論文の審査及び学力の確認の結果を下記のとおり報告します。

記

氏 名	
論文題目	
論文審査 の 要 旨	
学力の確認	日 時:令和 年 月 日() : ~ :
	方 法:口述試験・筆記試験
	要 旨:
判 定	合 格 不 合 格

備考 論文審査の要旨及び学力の確認の記入欄が不足する場合は、別紙で添付すること。

論文博士の学位授与審議結果報告書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

研究科委員会

論文博士の学位授与の可否の審議結果を下記のとおり報告します。

記

番号	氏 名	論 文 題 目	学位論文審査委員会		判 定
			主 査	副 査	
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否
					可 否

許諾書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

(フリガナ)

氏名 _____ (署名)

学位の区分 課程博士 ・ 論文博士

所属(専攻まで記入) _____

学籍番号(課程博士のみ) _____

学位取得後の連絡先

住所: 〒 _____

電話: _____

E-mail: _____

私が提出した博士論文について、以下の留意事項を踏まえ、鹿屋体育大学学術情報リポジトリにて公表することを下記のとおり許諾します。

<留意事項>

1. 博士論文は、全文を公表します。
2. 学長がやむを得ない事由があると認めた場合は、博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表します。
なお、出版刊行や学術ジャーナル等への掲載により公表に制約がかかる場合にあっては、公表が制約される期間を明記した上で、当該期間経過後に博士論文の全文を公表します。
3. 博士論文の全文をインターネットで公表しない場合、又は一定の期間を非公開とする場合であっても、製本をもって本学附属図書館窓口にて閲覧することを認めます。
4. 国立国会図書館で利用されることを認めます。
5. 学術ジャーナルへの掲載又は出版刊行等のため、インターネットでの公表に際し著作権処理が必要になる場合は、適切にします。

記

※ 博士学位授与後に論文全体をインターネット利用により公表することについて、以下の選択肢(【全文の公表が可能】、【全文の公表の一時的な保留を希望】、【要約の公表を希望(全文の公表ができない場合)】)のいずれかの□にレ点チェックの上、博士学位授与申請に併せて提出してください。

裏面につづく

□【全文の公表が可能】

提出した博士論文(全文)について、公表することに問題はありません。

上記留意事項の「やむを得ない事由」に該当しないことを確認しました。

□【全文の公表の一時的な保留を希望】 ※ 保留期間中は要約を公表

提出した博士論文(全文)について、下記事由のため、インターネット公表の一時的な保留を希望し、保留期間中は要約を公表します。なお、下記事由の消滅等に伴う所定の届出書(別紙様式第19号)については、自動的に公表となる場合を除き必ず提出いたします。

項 目	事 由	様式：別紙様式19の提出時期
□図書出版	□出版済み。出版社の著作権ポリシーを確認した結果、(令和 年 月 日まで)公表することができない。	提出不要・自動的に公表
	□出版予定(令和 年 月 月予定)で、出版社の著作権ポリシーを確認した結果、(出版後・令和 年 月 日まで)公表することができない。	公表可能日(直後)
	□出版予定(令和 年 月 月予定)で、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	出版予定日又は出版日(直後)
□学術ジャーナル等への掲載	□掲載済み。出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、(令和 年 月 日まで)公表することができない。	提出不要・自動的に公表
	□掲載予定(令和 年 月 月予定)で、出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、(掲載後・令和 年 月 日まで)公表することができない。	公表可能日(直後)
	□掲載予定(令和 年 月 月予定)で、出版社等の著作権ポリシーを確認することができない。	掲載予定日又は掲載日(直後)
□特許・実用新案出願	□特許出願予定又は審査中(出願公開前) 出願(予定)：令和 年 月	出願公開日(直後)
	□実用新案出願予定又は審査中 出願(予定)：令和 年 月	登録日(直後)
□その他	(具体的な事由を記載)	事由の消滅日

□【要約の公表を希望(全文の公表ができない場合)】

提出した博士論文(全文)について、下記事由のため、インターネット公表はできませんので、要約での公表を希望します。

(具体的な事由を記載してください)

- (記入例)
- ・図書出版や学術ジャーナル等への掲載において、出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、全文での公表ができない。(出版社等の著作権ポリシーを明記した書類の添付が必要)
 - ・博士論文が立体形状による表現等を含むためインターネットでの公表ができない。
 - ・秘匿すべき情報を含む又は公表することで重大な支障をきたす恐れがあるため。

博士論文(全文)公表の一時的な保留事由消滅に係る届出書

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

(フリガナ)

氏名 _____ (署名)

学位の区分 課程博士・論文博士

所属(専攻まで記入) _____

学籍番号(課程博士のみ) _____

学位取得後の連絡先

住所: 〒 _____

電話: _____

E-mail: _____

私が提出した博士論文(全文)について、インターネット公表の保留事項については、以下のとおりとなりましたので、届け出します。

※ 以下の□にチェック及び必要箇所に記入してください。

□【図書出版、学術ジャーナル等掲載】

項 目	報告内容	出版社等の著作権ポリシーの確認結果
□図書出版	□出版しなかった	(全文の公表となります)
	□出版済み	□公表が可であることを確認 □公表が不可であることを確認(※)
□学術ジャーナル等への掲載	□投稿しなかった □掲載されなかった	(全文の公表となります)
	□掲載済み	□公表が可であることを確認 □公表が不可であることを確認(※)

(※)「公表が不可であることを確認」の場合、根拠となる書類を添付してください。

□【特許・実用新案出願】

報告内容	インターネット公表方法について
□特許を出願しなかった □出願公開済み(令和 年 月)	(全文の公表となります)
□実用新案を出願しなかった □審査結果確定済み(令和 年 月)	

□【その他の事由の消滅】

報告内容	インターネット公表方法について
(具体的な事由を記載してください)	(全文の公表となります)

鹿屋体育大学学位論文等の作成要領

〔平成元年2月15日〕
学 長 裁 定

改正 平成17年3月22日
平成23年2月17日
平成23年9月15日
平成24年2月23日
平成31年4月19日

1 趣旨

この要領は、鹿屋体育大学学位細則（昭和63年細則第5号）第35条の規定に基づき、学位論文及び論文概要の作成要領について必要な事項を定める。

2 学位論文の作成要領

(1) 原稿のフォーマット

原稿は、ワードプロセッサで作成する（A4判縦置き横書き）。本文は全角40字30行（ダブルスペース、英文綴りおよび数値は半角）で、上下2.5cm、左2.5cm、右2cmの余白をとり、フォントの大きさは、英文は12ポイント（Times New Roman）、和文は10.5ポイント（本文は明朝体、見出しはゴシック体）とする。本文は原則として現代かなづかいとし、外国語をかな書きする場合は、カタカナ表記とする。

(2) 論文の表紙及び背表紙は、図1のとおりとする。

(3) 論文の執筆体裁は、原則として図2のとおりとし、1枚目に論文題目等を記し、2枚目から論文の内容を記載するものとする。

なお、2枚目から頁番号を付すこと。

3 論文概要の作成要領

(1) 用紙は、A4判（縦長横書き）とする。

(2) 印字体は、前記2（1）の学位論文の作成要領に準じ、論文概要を和文で1800字から2000字程度又は英文800語程度で執筆するものとする。

(3) 執筆体裁は、図3のとおりとし、文頭に「論文概要」と記載のうえ、論文題目及び氏名を記し、引き続き、論文の概要を記載するものとする。

4 論文作成上の注意

以下の(1)～(10)については、日本体育学会の許可を得て、体育学研究投稿規定を一部変更したものを本学の論文作成上の注意とするものです。

(1) 題目

題目は、研究の内容を的確に表現しうるものであることとする。副題をつける場合には、コロン（:）で続ける。

(2) 符号

次のような符号を用いる。

ア ピリオド（.）およびコンマ（,）

イ 中黒（・）

相互に密接な関係にあつて、一帯となる文字や語句などを結ぶ際には中黒（・）を用いる。アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使わない。

ウ ハイフン（-）

対語・対句の連結、合成語、ページの表記に用い、半角とする。

エ ダッシュ（—）

全角1文字分のダッシュ（—）は期間や区間を示すのに用いる。波ダッシュ（～）は原則として用いない。全角2文字分のダッシュ（——）は注釈的な説明をするのに用いる。

オ 引用符は、和文の場合には「」を、英文の場合には“ ”を用いる。

カ コロン（:）

副題、説明、引用文などを導く場合に用いる。

キ セミコロン（;）

複数の文献が連続する場合に用いる。

ク 省略符（…）

引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、和文の場合には3点リーダー（…）、英文の場合には下付の3点リーダー（...）を用いる。

(3) 数字

ア 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用い半角とする。

イ 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記する。

(4) 単位

計量単位は、原則として、国際単位系（SI単位系）とする。

(5) 略語

論文中において高い頻度で使用する用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、（以下「……」と略す）と添え書きしてから、以後その略語を用いる。

(6) 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用すること。引用した文献はすべて文献表に掲載する。本文中の文献は原則として著者名と発行年で示すこと。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。

ア 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくること。

イ 著者が2名の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”を用いてつなぐこと。ただし、著者が3名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ほか」、英文の場合には“et al.”を用いる。複数の文献が連続する場合はセミコロン（;）でつなぐこと。

ウ 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名と発行年を記入する。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ（,）でつなぐこと。同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後にa、b、c、…をつ

けて区別する。

エ 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とする。

オ 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記エに従って記入する。原著は英文表記とする。

(7) 注記

注は本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみに用いる。その数は最小限にとどめること。注をつける場合は、本文のその箇所に注1)、注2) のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は「注」とする。

なお、章毎に注をつけてもよい。

(8) 特殊文字

ア ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用する。本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさけること。

イ イタリック

次の場合にはイタリック体を用いることができる。

(ア) 数式中の数

(イ) 数値や量

(ウ) 統計法に用いられる記号

(エ) 動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリック体を使用することは、引用の場合などを除いて避けること。

(オ) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインは使用しないこと。

(9) 図表の作成

図表は、本文の内容近くに適宜入れ込む形で作成すること。

ただし、図表を組み込むことが困難な場合は、該当する本文の頁の次頁に図表の頁を入れ込む形で作成してもよい。

なお、章毎に一括して（各章末に）作成してもよい。

図のタイトルはゴシックで下に、表のタイトルは上に記し、本文を通して図表それぞれに番号を付けること。なお、図表注は表の下に一つ一つ改行し、注符号は上つきダガーで†、††、†††などの順に用い、アスタリスク（*、**、***）は統計学上の有意水準を示すときにのみ用いる。

(10) 文献表の作成

文献表の見出し語は「文献」とする。文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目（書名）・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれる。書式は下記の例にならうこと。

なお、章毎に示し、論文の巻末には、すべての文献の文献一覧表を作成してもよい。

ア 定期刊行物（いわゆる雑誌）の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名（発行年）論文名・誌名、巻（号）：ページ．の順とする。

(ア) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”で続ける。ただし、英文で3人以上の場合にはコンマ（,）でつなぎ、最後の著者の前だけに“and”を入れる。発行年は著者名のすぐ後の（ ）内に記入し、論文名と区切る。著者名の前に番号は不要。同一著者、同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後にa、b、c、…をつける。

(イ) 論文名

論文名の最後はピリオド（.）を打つこと。英文では、題目の最初の文字だけを大文字にする。

(ウ) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載すること。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従うこと。それ以外は省略しないこと。誌名の最後はコンマ（,）をつけること。

(エ) 巻号およびページ

巻数の後にコロン（:）をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン（-）で結び、最後にピリオド（.）を打つこと。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を（ ）で巻数の後に示すこと。

イ 単行本の書き方

書き方の原則は定期刊行物の項に従うこと。

(ア) 単行本全体の場合

著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は省略）．発行所：発行地、引用ページ（p. またはpp.）の形式とする。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略する。また、編集（監修）書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記する。英文では編集者が1人の場合は（Ed.）、複数の場合は（Eds.）をつける。

(イ) 単行本の一部の場合

論文（章）著者、論文（章）の題名の後に編集（監修）者名と「編」、「監修」、「編者」などをつける。英文の場合には、“In:”をつけたあと編集（監修）者名と（Ed.）、または（Eds.）をつける。

(ウ) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン（:）をつけて訳者の姓名を記入する。共訳の場合は中黒で、訳者が3人以上の場合は「:…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入する。英文の翻訳書の場合、原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に< >内に付記する。

図1 (論文の表紙等)
(表 紙)

令和 年度 ○○論文 ○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○ (論文題目) 鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 体育学専攻 (氏 名) ○ ○ ○ ○

(ファイルの)
背 表 紙

令和 ○ 年度 ＝ 論文題目 ＝ ○ ○ 論文 ○ ○ ＝ 氏名 ＝

図2 (論文の執筆体裁)

(1 枚 目)

	○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○ (論文題目) 鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 体育学専攻 学籍番号○○○○○ (氏 名) ○ ○ ○ ○ 令和 年 月
2.5cm	2.5cm
2.5cm	2cm
	2.5cm

(2 枚目以降)

2.5cm	2.5cm
2.5cm	2cm
	2.5cm

図3（論文概要の執筆体裁）

論 文 概 要	
○○○○○○○○○○○○○○	
○○○○	（論文題目）
氏 名 ○ ○ ○ ○	
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
○○○○○○○○○○○○○○○○○○	

鹿屋体育大学修士論文の提出条件に関する申合せ

〔平成20年 2月21日〕
研究科委員会決定
改正 平成23年 2月22日
平成26年 3月10日
令和 2年 3月25日

(趣旨)

第1 この申合せは、鹿屋体育大学学位規則第7条第1項に規定する修士の学位論文（以下「修士論文」という。）の提出に関し必要な事項を定めるものである。

(修士論文の提出条件等)

第2 修士論文の提出に当たっては、次の各号のいずれかの条件を満たすものとする。

- (1) 在学中において、公開で発表した研究内容に基づき作成された論文であること。なお、公開で発表した研究とは、学術雑誌（本学学術研究紀要も含む。）に掲載された学術論文、学会大会での発表（口頭、ポスター等の形式は問わない。）、その他公開発表と研究科教務委員会が認めたものをいう。
- (2) 特定課題研究は、研究科委員会がその成果を個別に審査し、第1号に規定する条件と同等以上の内容であると認めた研究であること。
- (3) スーパー・スチューデント対象で入学した者の修士論文は、研究科委員会が個別に審査し、研究内容が第1号又は第2号に規定する条件と同等以上であると認められた研究であること。

2 発表した論文は、本人が筆頭著者（発表者）であること。

(早期修了者の修士論文の提出条件等)

第3 学則第51条第1項ただし書きに定める早期修了を適用する者の修士論文の提出条件は、日本学術会議に日本学術会議協力学術研究団体として承認された学会・研究会等又は日本スポーツ体育健康科学学術連合に加盟学術団体として承認された学会・研究会等（以下「学術研究団体」という。）が発行し、査読がある学術雑誌又は審査規定が明記された英文学術雑誌に掲載された学術論文1編を基に作成した修士論文（日本語又は英語に限る。）であることとする。

- 2 第1項の規定にかかわらず、学術雑誌の発行団体（学会等）の掲載可（accepted）の証明書がある場合に限り、印刷中の学術論文も審査対象とする。
- 3 大学紀要（本学紀要も含む。）又はそれに準ずる雑誌に掲載された論文については、第1項においては審査対象としない。
- 4 大学院修士課程入学以降に投稿された論文を対象とする。
- 5 英文学術雑誌とは、論文全体を英語で執筆することが投稿規定で義務化され、国際的に高い評価を得ている雑誌とする。

(雑則)

第4 修士論文の提出に関し、この申合せによりがたい場合には、研究科委員会がその都度定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成20年4月1日から施行し、平成19年度入学者から適用する。
- 2 鹿屋体育大学修士課程学位論文の提出条件に関する申合せ（平成19年3月1日研究科教務委員会決定）は、廃止する。

附 則（平23. 2. 22）

- 1 この申合せは、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学者から適用する。
- 2 平成22年度以前に本学大学院修士課程に入学した者の学位論文の提出に当たっては、次の各号のいずれかの条件を満たすものとする。
 - (1) 在学中において、公開で発表した研究内容に基づき作成された論文であること。なお、公開で発表した研究とは、学術雑誌（本学学術研究紀要も含む。）に掲載された論文、学会大会（本学学術研究会等を含む。）での発表（口頭、ポスター等の形式は問わない。）、その他公開発表と研究科教務委員会が認めたものをいう。
 - (2) 審査規定が明記された英文学術雑誌に掲載された原著論文1編の別刷りをもって、学位論文に代えることができる。
 - (3) 特定課題研究は、研究科委員会がその成果を個別に審査し、第1号に規定する条件と同等以上の内容であると認めた研究であること。
 - (4) スーパー・スチューデント対象で入学した者の学位論文は、研究科委員会が個別に審査し、研究内容が第1号又は第2号に規定する条件と同等以上であると認められた研究であること。
 - (5) 発表した論文は、本人が筆頭著者（発表者）であること。
 - (6) 英文学術雑誌とは、論文全体を英語で執筆することが投稿規定で義務化され、国際的に高い評価を得ている（impact factorを有する）雑誌とする。

附 則（平26. 3. 10）

- 1 この申合せは、平成26年4月1日から施行し、平成26年4月1日以降の入学者から適用する。
- 2 平成25年10月1日に在学している者の修士論文の提出に当たっては、次の各号のいずれかの条件を満たすものとする。
 - (1) 在学中において、公開で発表した研究内容に基づき作成された論文であること。なお、公開で発表した研究とは、学術雑誌（本学学術研究紀要も含む。）に掲載された論文、学会大会での発表（口頭、ポスター等の形式は問わない。）、その他公開発表と研究科教務委員会が認めたものをいう。
 - (2) 審査規定が明記された英文学術雑誌に掲載された原著論文1編の別刷りをもって、修士論文に代えることができる。
 - (3) 特定課題研究は、研究科委員会がその成果を個別に審査し、上記第2項第1号に規定する条件と同等以上の内容であると認めた研究であること。
 - (4) スーパー・スチューデント対象で入学した者の修士論文は、研究科委員会が個別に審査し、研究内容が上記第2項第1号又は第2号に規定する条件と同等以上であると認められた研究であること。
- 3 発表した論文は、本人が筆頭著者（発表者）であること。
- 4 英文学術雑誌とは、論文全体を英語で執筆することが投稿規定で義務化され、国際的

に高い評価を得ている雑誌とする。

附 則（令 2．3．25）

この申合せは、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

鹿屋体育大学修士論文審査基準

〔平成26年1月30日
研究科委員会決定〕
改正 平成26年6月27日

(趣旨)

第1 この基準は、鹿屋体育大学学位細則第9条第3項に基づき、修士の学位論文（以下「修士論文」という。）の審査基準に関し必要な事項を定める。

(修士論文の審査基準)

第2 修士論文の審査は、在学中において、公開で発表した研究内容に基づき作成された論文について、以下の審査基準をもって行うものとする。

(1) 研究テーマの適切性

ア 研究テーマ設定の背景・問題、現場への有用性や学術的・社会的意義が適切に示されている。

イ 研究目的や課題が適切で、明確である。

(2) 文献研究の適切性

ア 研究テーマに関連する先行研究を適切に整理・概観している。

イ 自らの研究に対して先行研究を適切に関連づけ、活用している。

(3) 研究方法の妥当性

ア 研究目的等を達成するために妥当な研究方法が選択されている。

イ 選択した研究方法の妥当性やその方法を適切に示している。

ウ 研究を遂行するに当たり、適切な倫理的配慮が示されている。

(4) 論理の一貫性

ア 研究論文全体を通して、論理展開に整合性、一貫性がある。

イ 研究目的や課題に対して、資料・データ等から論理的に明確な結論が述べられている。

(5) 研究の独自性・独創性

研究テーマ、目的・課題設定、研究方法、結論等に独自性や独創性が認められる。

(6) 論文構成・体裁の適切性

本学の学位論文作成要領等に従って、適切に修士論文が作成されている。

(特定課題の研究成果の審査基準)

第3 特定課題の研究成果の審査は、研究成果を説明する特定課題研究報告書（あるいは副本）を手がかりに、以下の審査基準をもって行うものとする。

なお、本学で想定している特定課題の研究成果とは、競技パフォーマンス・演技や作品、授業・指導（コーチング）・運営（マネジメント）・起業実践、視聴覚教材・コンピュータソフトウェアの開発、学習・指導支援プログラムの作成、実験装置・データの専門的処理等の開発等とする。

(1) 研究テーマの適切性

ア 研究テーマ設定の背景・問題、現場への有用性や学術的・社会的意義が適切に示されている。

イ 研究目的や課題が適切で、明確である。

(2) 文献研究の適切性

- ア 研究テーマに関連する先行研究を適切に整理・概観している。
- イ 自らの研究に対して先行研究を適切に関連づけ、活用している。
- (3) 研究方法の妥当性
 - ア 研究目的等を達成するために妥当な研究方法が選択されている。
 - イ 選択した研究方法の妥当性やその方法を適切に示している。
 - ウ 研究を遂行するに当たり、適切な倫理的配慮が示されている。
- (4) 論理の一貫性
 - ア 報告書全体を通して、論理展開に整合性、一貫性がある。
 - イ 研究目的や課題に対して、資料・データ等から論理的に明確な結論が述べられている。
- (5) 研究の独自性・独創性
 - 研究テーマ、目的・課題設定、研究方法、結論等に独自性や独創性が認められる。
- (6) 報告書構成・体裁の適切性
 - 本学の学位論文作成要領等に準じて、適切に報告書が作成されている。

(雑則)

第4 修士論文の審査基準に関し、この基準によりがたい場合には、研究科委員会がその都度定める。

附 則

この基準は、平成26年1月30日から施行し、平成25年10月1日から適用する。

附 則 (平26. 6. 27)

この基準は、平成26年6月27日から施行する。

長期にわたる教育課程の履修に関する規程

改正	〔平成18年 3月 2日 規 程 第 3 号〕	
		平成26年 3月20日
	規 程 第 4 号	平成27年 3月11日
	規 程 第 4 号	平成31年 4月19日
	規 程 第 1 5 号	令和 3年 7月 1日
	規 程 第 3 4 号	令和 3年 8月10日
	規 程 第 3 9 号	

（趣旨）

第1条 この規程は、鹿屋体育大学学則（以下「学則」という。）第30条の2及び第49条の2の規定に基づき、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）における長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）について必要な事項を定める。

（対象となる学生）

第2条 長期履修を願い出ることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有している者
- (2) その他長期履修を必要とする事由があると認められる者

（長期履修の期間）

第3条 長期履修の期間の最長年限は、学則第15条第1項及び第39条に規定する在学年限の範囲内とする。

（申請手続）

第4条 長期履修を希望する者は、長期履修申請書（別紙様式1）を学長に申請するものとする。ただし、大学院については、別に定める期間内に申請するものとする。

2 前項の規定による申請があったときは、教務委員会又は研究科教務委員会の議を経て、学長が許可する。

（授業料）

第5条 長期履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の授業料は、別に

定める。

(履修期間の変更)

第6条 長期履修学生で履修期間の短縮を希望する場合は、別に定める期間内に長期履修期間短縮申請書(別紙様式2)を学長に申請するものとする。

2 前項の規定による申請があったときは、教務委員会又は研究科教務委員会の議を経て、学長が許可する。

3 履修期間の延長については原則として認めないが、長期履修期間中に休学が許可された場合に限り、許可された休学期間分のみを延長する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年3月2日から施行する。

附 則(平26.3.20規程第4号)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平27.3.11規程第4号)

この規程は、平成27年3月11日から施行する。

附 則(平31.4.19規程第15号)

この規程は、令和元年5月1日から施行する。

附 則(令3.7.1規程第34号)

この規程は、令和3年7月1日から施行する。

附 則(令3.8.10規程第39号)

この規程は、令和3年 月 日から施行する。

別紙様式 1 (第 4 条関係)

長期履修申請書

ふりがな 氏名 (学籍番号)	(署名)
課題	程度

鹿屋体育大学長 様

下記の理由により、長期履修を希望したいので申請します。

令和 年 月 日

[入学後の研究計画概要]

[入学年度] 令和 年度

[長期履修計画年数] 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

[長期履修の必要性・長期履修計画]

指導教員の意見	指導教員氏名 _____ (署名)
---------	-------------------

※入学後 1 年を超えて長期履修を申請する場合は、別途理由書（様式任意）を添付すること。

別紙様式 2 (第 6 条関係)

長期履修期間短縮申請書

ふりがな 氏名 (学籍番号)	(署名)
課 程	

鹿屋体育大学長 様

下記の理由により、履修期間を短縮したいので申請します。

令和 年 月 日

[入学年度]	令和	年度							
[許可済みの長期履修期間]	令和	年	月	日	～	令和	年	月	日
[長期履修計画年数]	令和	年	月	日	～	令和	年	月	日
[履修期間の短縮理由]									

指導教員の意見	
	指導教員氏名 _____ (署名)

学生の成績等への異議申立てに関する申合せ

平成 27 年 3 月 19 日
教育研究評議会決定
改正 平成 28 年 6 月 23 日
令和 3 年 7 月 1 日

(趣旨)

第 1 この申合せは、鹿屋体育大学体育学部教育課程及び履修方法等に関する規程第 21 条の 2、平成 25 年度以前の入学生の鹿屋体育大学体育学部教育課程及び履修方法等に関する規程第 21 条の 2 及び鹿屋体育大学大学院体育学研究科履修規程第 10 条の 2 及び第 21 条の 2 に基づき、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）における学生の成績等への異議申立てに関し、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 この申合せにおいて「学生」とは、本学に在学している学部学生及び大学院学生（科目等履修生、特別聴講学生その他本学において授業科目を履修し、成績評価を受ける者を含む。）をいう。

(対応組織)

第 3 学生の異議申立てに対応する組織は、学部学生にあつては教務委員会、大学院学生にあつては研究科教務委員会とする。

2 当該委員会の委員が当事者である場合は、その委員が所属する系から、問題解決の間、代理委員を立てる。

(異議申立て)

第 4 異議申立てを行う学生は、成績公開後、直近の学期開始日（4 月 1 日又は 10 月 1 日）から 7 日以内（前期末又は学年末に卒業あるいは修了する場合にあつては成績公開日から 7 日以内）（以下「異議申立て期限日」という。）に、異議申立書・再異議申立書（別記様式第 1 号）を、教務課を経由して教務委員会委員長又は研究科教務委員会委員長（以下「委員長」という。）へ提出しなければならない。

2 委員長は、前項の異議申立て受け付け後、原則として異議申立て期限日から 10 日以内（以下「回答期限日」という。）に教務委員会又は研究科教務委員会（以下「教務委員会等」という。）の議を経て、異議申立て・再異議申立てに対する回答書（別記様式第 2 号）により回答を行うものとする。ただし、回答期限日までに回答できない場合は、委員長は、回答できない理由等を、異議申立てを行った学生に回答期限日前に説明するものとする。

3 異議申立ての回答に不服のある学生は、異議申立ての回答を受け取った日から原則として 7 日以内（以下「再異議申立て期限日」という。）に、異議申立書・再異議申立書（別記様式第 1 号）により、再異議申立てを行うことができる。

4 委員長は、前項の再異議申立て受け付け後、原則として再異議申立て期限日から 14 日以内（以下「再異議申立て回答期限日」という。）に教務委員会等の議を経て、異議申

立て・再異議申立てに対する回答書（別記様式第2号）により回答を行うものとする。
ただし、再異議申立て回答期限日までに回答できない場合は、委員長は、回答できない理由等を、再異議申立てを行った学生に再異議申立て回答期限日前に説明するものとする。

（調査委員会）

第5 委員長は、第4第2項の異議申立て及び同第4項の再異議申立てを受け付けた場合、調査委員会を設置することができる。

2 前項の調査委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

（1）教務委員会等副委員長

（2）当該年度の教務委員会等委員3名（各系から1名）

3 調査委員会は異議申立て及び再異議申立てに関し、調査を行いその結果を速やかに委員長に報告するものとする。

4 委員長は、異議申立て及び再異議申立てを行った学生に対しては、適宜、途中経過を説明するとともに、調査等終了後、速やかに、その結果を説明するものとする。

（日数の計算）

第6 第4における日数の計算については、日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日を含むものとする。

附 則

この申合せは、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施された授業の成績から適用する。

附 則（平28.6.23）

この申合せは、平成28年6月23日から施行し、平成28年度に実施された授業の成績から適用する。

附 則（令3.7.1）

この申合せは、令和3年7月1日から施行する。

年 月 日

異議申立書・再異議申立書

教 務 委 員 会 委 員 長
殿

研究科教務委員会委員長

スポーツ総合 / 武 道
修 士 / 博士後期 課程

学籍番号 _____

氏 名 _____ (署名)

連 絡 先 _____

1 成績評価についての異議申立て

開 講 期 : _____ 前・後 _____ 期

科 目 名 : _____

担当教員名 : _____

2 申立ての内容 （できるだけ詳しく記入すること）

年 月 日

異議申立て・再異議申立てに対する回答書

（学生氏名） 様

教務委員会委員長 /
研究科教務委員会委員長

令和 年 月 日付けで異議申立て／再異議申立てのありました _____
_____について以下のように回答します。

【回答内容】

当該科目担当教員氏名 _____（署名）

2023 年度

4	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	・	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	㉙
	30						

5	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	④	⑤	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

6	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

7	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	・	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	⑪	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

8	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	⑪	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

9	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	⑮	19	20	21	22	㉓
	24	25	26	27	28	29	30

10	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	⑨	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

11	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	1	2	③	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	㉓	24	25
	26	27	28	29	30		

12	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

1	日	月	火	水	木	金	土
	・	①	2	3	4	5	6
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

2	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	⑪	⑫	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	㉓	24
	25	26	27	28	29		

3	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

2024 年度

4	日	月	火	水	木	金	土
	・	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	㉙	30				

5	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	1	2	③	④
	⑤	⑥	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

6	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	・	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

7	日	月	火	水	木	金	土
	・	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

8	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	⑪	⑫	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

9	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	⑮	17	18	19	20	21
	㉒	㉓	24	25	26	27	28
	29	30					

10	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	⑭	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

11	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	1	2
	③	④	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	㉓
	24	25	26	27	28	29	30

12	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

1	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	①	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	⑬	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

2	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	・	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	⑪	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	㉓	㉔	25	26	27	28	

3	日	月	火	水	木	金	土
	・	・	・	・	・	・	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	㉔	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					



〒 891 - 2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

鹿 屋 体 育 大 学

編集・発行：研究科教務委員会

電話 0994 - 46 - 4853 (教育企画係)